

南に嚮ふは不義なりと紹聰かず遂に來攻して官渡(河南省にあり)に至り操が軍と相拒む操許收が謀を用ゐて其の輜重を襲破す紹軍大に破れ紹斬憤して遂に死す遺子諱尙等互に私黨を樹て相争ひ久しからずして皆亡滅す操の紹を攻むるに當りてや車騎將軍董承帝の密詔を受ると稱して劉備と與に曹操を誅せむことを謀る劉備事の成らざるを曉り操が己をして袁術を遷らしむるを機として直ちに去り遂に徐州刺史車胄を殺し關羽をして下邳を守らしめ自ら小沛に據る操之れを伐つ走て袁紹により汝穎の間を侵掠す是に至りて操を支ふること能はず又走りて荆州の劉表による表待するに上賓の禮を以てし其兵を益して新野に屯せしむ備南陽の諸葛亮が英名をきゝ自ら往いて之れを聘す亮其の知遇に感じて之が爲めに謀を立てゝ曰はく今曹操己に百万の衆を擁し天下を挾みて諸侯に令す此れ誠に與に鋒を争ふべからず孫權江東を據有して己に三世を歴たり國險にして民附き賢能これが用を爲す此れ與に援を爲すべくして圖るべからざるなり荆州は北漢沔に據りて利は南海を盡し東は吳會に連なりて西は巴蜀に通す此れ武を用ふるの國なり然れども其主守ること能はず此れ殆んど天將軍に資する所以なり

益州は險塞沃野千里天府の土なり劉璋關張にして張魯北に在り民殷にして國富む而れども存恤を知らず智能の士明君を得るを思ふ將軍は帝室の胄にして信義四海に著はる若荆益を跨有して其嚴阻を保ち戎越を撫和して好を孫權に結び内政治を修め外時變を觀ば則ち霸業成すべく漢室興すべきなりと備深く善として遂に委するに大事を以てす蓋し天下の大勢實に亮が規畫を出てす後來三國割據のこと既に此時に定れりと云ふべし當時天下紛々として亂れ豪傑の士雲の如く起りしと雖も今に至るまで人皆亮を以て第一となさざるはなし亦故あるかな曹操北の方袁氏を全滅したれば則ち更に南方を經營せむと欲す會々劉表卒して子琮嗣ぐ操が軍至るをきゝ蒯越等の謀を用ひ州を舉げて降る劉備大に驚きて走る初め吳將魯肅孫權に説き曰はく荆州は沃野千里にして江山險固今劉表新たに死して群下離畔の志あり然るに劉備天下の梟雄にして彼土に寓す若し備彼れと和さば則ち我宜く好を結ぶべし如し離心あらば別に之れに乗せむ願くは使命を奉じて荆州に趣き其民人を弔し且備に説きて表の遺衆を撫でしめ共に曹操を治めむと權是れに従ひ魯肅をして往かしむ是に至りて肅備に會し説くに兩國の同



盟を以てす劉備大に説ひ更に諸葛亮をして孫權を激せしむ權遂に意を決して周瑜等をして水軍を督せしめ進んで操の軍船を赤壁湖北省武昌にありに逆火攻と以て盡く之れを燒盡す曹操僅に身を以て免る

荆州もど入郡あり劉備既に四郡を得たり是に於て更に全郡に都督たらしむことを孫權に求む周瑜備が勇雄の資なるを以て土地を許すべからざるを以てし更に曹操を破るの勢に乗じて蜀地を略せむことを畫す會々病んで卒す魯肅之れに代はるに及び遂に權に勧めて荆州を借さしめ與に曹操を拒ぐ此時に當りて蜀益州の劉璋曹操が勢力の日に盛なるをみて張松をして音信を通せしむ操之れを禮せざりしかは心竊かに恨むる所あり又法正と云ふ者あり璋に仕へて志を得ず二人皆璋の與に爲すあるに足らざるを付り陽はに璋に勧めて劉備に結ばしむ璋即ち正をして備を迎へしむ正荆州に至りて陰かに益州を取るの策を獻す龐統も亦之れを贊す時に會々曹操孫權を攻む備璋に請ふて援兵を借り赴救せむとす璋貸す所甚だ少なし備因りて衆を激す而して張松が計また漏る備即ち急に兵を發して諸路より進入し遂に成都を圍みて璋を降し遂に漢中王と稱す是に於て孫權貸す所の荆州を求む備きかず却りて關羽を止めて之れを守らしむ羽更に兵を發して魏の樊城を攻め水を以て之れに灌ぎ襄陽南郷を降して進んで許に迫る操都を遷さむとす司馬懿曰はく劉備孫權等外親むも内疎なり關羽志を得るは權必ず願はざるなり宜しく人をして權に勧めて羽を圖らしむべきなりと操之れに従ふ是時魯肅既に死して呂蒙之れに代はる以爲へらく羽素と驍雄にして兼併の心あり且國の上流に居る其勢久ふし難しと權に勧め陸遜をして羽の後を襲はしめ遂に之れを斬りて荆州を定む尋ぎて操卒し子丕立つ遂に漢の禪を受け國を魏と號して鄴に都し黃初と改元す是を世祖文皇帝となし漢獻帝初平元年より皇紀成務八百五十年なり是に至るまで卅一年皇紀仲哀八百八十年なり東漢十三世年を歴ること百九十六にして亡ぶ翌年劉備漢帝既に害に遇ふとき入て喪を發して服を制す群下みな尊號を稱するを勸む費詩諫めたれども聽かれず遂に皇帝の位に即きて章武と改元す是を昭烈皇帝となす諸葛亮丞相たり

漢帝關羽の没するを耻ぢて自ら將として孫權を伐ち巫峽より夷陵に至るまで數十屯を立て、吳軍と相拒むと數月なり吳將陸遜奇計を縱ちて其營を燒く舟船器



械水歩軍資一時に略盡し尸骸江を塞ぎて下る帝僅に白帝城に入るを得たり然るに魏帝侍子を呉に賣むるに及びて權辭を左右に托して應せず魏之を攻む吳遂に之れと絶ちて漢と連和す其の後魏帝屢々兵を發したれども常に志を得ざりき既にして昭烈及び明帝の二人相尋ぎて崩じ蜀に在りては後主位に即きて諸葛亮之を輔け魏に在りては明帝位に即きて曹真司馬懿等並びに遺詔を受く魏の太和元年諸葛亮己に南夷を征服して更に大兵を發して北の方魏を伐つ部將魏延間道より直ち長安を襲はむことを請ひたれども亮以て危計となし更に祁山(甘肅省鞏昌にあり)を攻む戎陣整齊號令明肅天水南安安定皆叛きて亮に應ず始め魏漢の昭烈既に死して數歲寂然聞くなきを以て備を設けず今卒かに之れを聞きて朝野震懼す魏帝先づ張郃をして之を拒がしめ親から長安に出で聲援をなす亮の部將馬謖節度に違ひたるを以て大敗す亮即ち漢中に還り兵を勵まし武を講じて後圖をなす太和三年孫權遂に皇帝の位に即きて黃龍と改元す是に於てか三國みな帝あるに至れり

政をなし魏に在りては明帝崩じて邵陵厲公立ち曹爽司馬懿政を輔く爽驕奢度なくして服御乘輿に僭擬す其黨鄧颺何晏丁謐勢によりて事を用ひ好んで法度を變改す太尉蔣濟諫むれども聽かれず司馬懿陰かに其子師及び昭と謀りて爽の外出を伺ひ其兵權を收めて之れを誅し餘黨を平げ遂に丞相となる卒するに及びて師立つ勢日に盛なり遂に魏主を廢して高貴郷公を立つ師卒して昭立つに及びて亦之を弑して帝道郷公を立つ此時に當りて蜀の費禕既に卒して姜維銳氣あり屢々兵を出して魏の邊境を侵す然れども功なくして人民頗る困む譙周等諫むれども聽かず且又内に在りては陳祇黃皓等頗る政を亂る司馬昭即ち鄧艾鍾會をして之れを伐たしむ艾間道より直ちに成都の虛を襲ふ後主遂に降る蜀昭烈よりは是に至るまで二世四十三年にして亡ぶ既にして昭卒し子炎嗣ぐ魏主に迫りて位を禪らしめ國を西普と號す洛陽に都す是を世祖武皇帝となす魏曹丕より凡て五世四十六年にして亡ぶ(皇紀仲哀九百二十五年にして蜀より後るゝこと二年なり)

是より先吳帝孫權(魏明帝の時)既に崩じて子亮立つ諸葛恪英略あり屢々兵を魏に加ふ然れども性剛愎なりしかば遂に怨を買ひて孫峻に殺さる峻政を執ること數



年にして卒じ其従父弟孫繇之れに代はる貴を負ふて倨傲多く無禮を行ふ然るに吳主亮年長じて政を親らするに及び聰明にして繇屢々難問せられ遂に疾と稱して朝せず亮之れを誅せむと欲したれども事成らずして却りて廢せらる景帝代り立つに及びて之を誅す帝在位數年にして崩じ烏程侯皓其位を嗣ぐ其初は心を政事に注ぎて明主の稱ありしが終に驕暴驕盛に流れて酒色を好み土木を興す何定刁玄尙廣等を信じて華覆、賀、邵、陸、凱、韋、昭等を遣け數々晉邊を侵盜す陸抗上疏したれども容れられず是に於て帝吳を滅するの志あり羊祜を以て荊州の都督たらしむ祜德政を布きて屯田を置き王濬を薦めて益州刺史となし水軍を治めしめ大に舟艦を作る蓋し上流の勢を藉らむと欲するなり既にして吳主の淫虐日に太甚し祜上表して討伐を請ふこと數回なれども毎に賈充、荀勗、馮統に妨げらる唯杜預、張華等之れを翼賛す祜卒するに及び預を擧げて已に代らしむ時に王濬も亦征伐を勸む帝即ち意を決して大舉して吳を伐つ向ふ所皆勝ち遂に建業に至る吳主降る大帝(孫權)より是に至るまで四世五十二年にして亡ぶ時に太康元年なり(魏より後)ること十六年(漢獻平初平元年より年を経ること九十二年にして天下始めて一

統せらる

### 第十三章 西晋の國風俗及び各人種の紛争

武帝即位の初め刻薄奢侈の風を矯正せむと欲したりしが數年の後に至りて漸く侈縱に傾き公卿以下の女を選びて六宮に備へ蔽匿する者あれば不敬を以て論じ采擇未だ畢らざるときに權に天下の嫁娶を禁ず(泰始九年)一年を経て亦良將及び小將吏の女五千人を選ぶ母子宮中に號哭して聲外に聞ゆかゝる風なりしかば天下一統の後には後宮數千人あるに至れり后の父楊駿交通勢謁山濤數々規諷すれども改むる能はずされば下皆之れに倣ひ羊琇、王愷、石崇等競うて驕奢を事とす愷は飴を以て釜に漬けは崇は蠟を以て薪に代ふ愷は紫絲步障四十里を作れば崇は錦步障五十里を作る崇は屋を塗るに椒を以てすれば愷は赤石脂を用ふ愷嘗つて崇に示すに珊瑚を以てす其高さ二尺許りなり崇便ち之を碎きて更に示すに三四尺の者六七株を以てす愷悅然たりと云ふ何曾は當時の賢臣なり日食万錢猶は箸を下す所なし子の勅は日食二万を費すに至る以て其の一端を觀るべし

且東漢の時氣節の士輩出し士大夫互に是非を争ふ始めは甘陵南北の争あり遂に



三君八俊八顧八及八厨の名稱を樹て、危言駭論以て黨禍の災を生ず此間巴藤の自ら罪を告げて誅せられたるが如き膺が「吾年已に六十死生命あり去りて安くにかむとす」と乃ち訟獄に至りたるが如き范滂が死に臨みて「吾汝をして悪をなさしめむと欲すれば悪は爲すべからず汝をして善をなさしめむとすれば則ち我は悪を爲さず」と告げたるが如きも欽が張儉と李篤とを救せるが如き人をして感奮興起せしむるに至ると雖も往々或は是によりて虚榮を貪ぼり大言以て世を欺くものなきにあらず黄允晋文經が才智を待みて徵辟就かず遂に公卿大夫をして疾を問ふに至らしめたるが如き孔融稱衡互に孔顔を以て自ら擬したるが如きは即ち是れなり此の如き風次第に推移し吳の胡綜が賓友目を作りて東宮の多士を頌したる何晏が名士品目を作りて神を以て自ら况ひ鄧颺の徒が劉陶を稱して伊呂となしたる賈誼が二十四友の目あるなど其例いと多し九品等撰擧の事屢々執政者の意を煩はし魏明帝をして「選舉有名を取るなかれ名は地に書きて餅を作るが如く喉ふべからず」と言はしめたる亦和洽が曹操に奏するに「天下の人材徳各々殊なり一節を以て取るべからず儉素中に過ぎ自ら以て身を處するも則ち可なり此を以て物を格さば失ふ所或は多からむ今朝廷の議吏新衣を着け好車に乗る者あれば之れを不潔と云ひ形容飾らず衣裳敝壞する者をば之れを廉潔と謂ひ士大夫をして故らに其衣を汗辱し其の輿服を藏め朝府大史或は自ら塗殮を擧げて以て宦寺に入らしむ夫れ教を立て俗を觀るは中府に處るを貴ぶ今一概堪へ難きの行を崇みて以て殊途を檢し勉めて之れを爲すときは必ず疲瘁あらむ古の大教は務めて人情を通ずるに在るのみ凡そ僞詭の行は則ち容隱僞なり」と論じたるを觀れば如何に當時僞君子僞豪傑の多かりしを知るべし

而して更に之れに加ふるに學風の變動を以てす東漢以來儒術を貴みたれども圖識の學また重んぜらる漢末に至り馬融盧植鄭玄相尋ぎて儒學の大家を以て稱せらる而して當時老莊の學次第に興りて神仙方術の說之れに雜はり愚民を惑はしたること少なからず張成張角が一舉して天下の響應を得たるが如きその一例なり是を以て士大夫の間また之れを好む者多し老莊の主義と現象世界の抑束を脱して心を絶對の虚無に逍遊せしむるに在り而して佛教また吳魏の間に行はる是故に其弊や流れて禮法を蔑視し放恣自ら喜び高しとするにあらずんば生命を弊



蟒に比して酒色に耽り自暴自棄に陥るに至る何晏の如き性自ら喜びて粉白手を  
 去らず行歩影を顧み夏侯玄荀粲王弼の徒と競うて清談をなし六經を以て聖人の  
 糟粕となす以爲へらく天地万物皆無を以て本となすと弼が易註晏が論語集解皆  
 寓するに老莊の意を以てし儒と合せむと欲すと世説を觀れば以て三五掾歇後相  
 多きを知るべく文選を讀まば快樂的主義の文學に透徹せるを知るべし遂に竹林  
 の七賢王衍樂廣謝鯤など皆任放を以て達となし浮誕を以て美となす者を生じ天  
 下靡然として之れに向ふに至れり是故に武帝即位の初めに當傳玄魏末士風の頽  
 敝を矯正せむとを上書して曰はく先王の天下を御する教化上に隆にして清議下  
 に行はる近者魏武法術を好みて天下刑名を貴び魏文通達を慕うて天下守節を賤  
 しむ其後綱維攝はず放誕朝に盈つ遂に天下をして復た清議なからしむ陛下龍興  
 禪を受け堯舜の化を弘む惟未だ清遠有禮の臣を擧げて以て風節を教くせず未だ  
 虛鄙の士を退けて以て不恪を懲さずと然れども帝革むると能はざるなり惠帝の  
 時に至りては斐龍崇有論を著はして遂に綜世の務を薄んじて功利の用を賤しむ  
 浮游の業を高しとして經實の賢を卑しとすと論破したれども習俗既に成りて亦

救ふ可からざるなり是故に東晋に至りても猶陳頴王導に書を遺りて中華傾弊す  
 る所以正に才を取る所を失ふを以てなり白望を先にして實事を後にして浮競驅  
 馳互に相負薦す言重き者先づ顯はれ言輕ろき者後に叙せらる遂に相波扇して乃  
 ち陵遲に至る加ふるに老莊の俗ありて朝廷を傾惑す望を養ふ者弘雅となし政事  
 をなす者は俗人となす王職郎へず法物墜喪す夫れ遠を制せむと欲すれば先づ近  
 きより始む今宜しく改張し賞を明にし罰を信にし卓茂を實縣に拔きて朱邑を桐  
 鄉に顯はすべし然る後大業舉ぐべく中興冀ふべきのみと論じたれども導の賢に  
 して猶從ふと能はず其積習亦恐るべきかな命世の英雄出づるも猶ほ正道の復歸  
 難しとす况んや司馬氏民に大功徳あるにあらず加ふるに武帝の奢侈を以てして  
 輔くるに賈充の姦邪あり繼ぐに惠帝の昏暗を以てして配するに賈后の妬悍あり  
 天下の亂豈生せざるなきを得んや  
 魏の時帝室の皇族を待つこと頗る嚴にして相互の通問を許さず明帝の時東阿王  
 植の上書して近なる婚媾通せず兄弟弟乖絶吉凶の間塞り慶吊の禮廢せらる恩紀の  
 違は路人より甚しく隔閡の異は胡越より殊なりと云ひまた蓋し脊を取る者は田



族にして呂宗に非ざるなり晉を分つ者は趙魏にして姬姓にあらざるなり惟陛下之れを察せよと云ひ又曹冏も邵陵厲公に上書して曰はく今の州牧郡守は古の方伯諸侯皆な千里の土を跨有して軍武の任を兼ね或は國を比するとも數人或は兄弟並ひ據るも而かも宗室子弟曾つて一人の其間に間廁して與に相維制するなし幹を彊くし枝を弱めて万一の虞に備ふる所以にあらざるなり今の賢を用ふる或は超えて名都の主となり或は偏師の帥となるも而かも宗室文ある者は必ず小縣の宰に限り武ある者必ず百人の上に置く賢能は勸進して宗室を褒異する所以の禮にあらざるなりと蓋し魏の忽然として亡びたる原因もとより多しと雖も二王の言の如く宗室の藩蔽たるべき者なきも與りて力あり是故に晉武帝の位に即くや之れに懲りて大に宗室を封じ授くるに職任を以てし諸王をして自ら國中の長吏を撰ばしむ弟攸を以て齊王となし叔父亮伯駿彫倫を要地に封ず其他差あり然れども帝の位に即かざるに當りて攸名あり人或は擬するに太子を以てす文帝(帝の父)も亦之を寵す終に臨みて深く之を帝に囑す太后も亦然り是を以て帝心に快からず即位の後攸の德望日に隆なり荀勗馮統等頗る之を忌みて讒陷を兩宮の

間に放つ甄德王濟等救解すれども聽かれず齊王遂に愛憤疾をなして薨す帝室是れより弱し帝疾むに及び更に諸皇子を封じ頗る心を後事に用ひたれども當時勳奮の臣多く已に物故す皇后の父楊駿獨り疾に禁中に侍す帝の疾革まるに乗じて自ら軍國の事を總ぶることを許さしむ太康十年(皇紀應神九百四十九年)帝遂に崩す太子衷立つ是れを孝惠皇帝となす  
帝太子たりし時より不慧にして武帝も亦其負荷に勝へざるを知る衛瑾嘗つて帝に諷するに廢立を以てす太子の妃は賈充の女なり權詐多し亦太子の子を適と云ふ聰明なり是を以て遂に帝位を受け賈氏を以て皇后となす是に於て賈氏肯て婦道を以て太后に事へず又政事に預からむと欲したれども楊駿に抑へらる即ち孟觀李肇等と謀り楚王瑋(帝の弟)をして兵を擧げて楊駿を殺し太后を廢し汝南王亮を徵して太宰となし衛瑾と與に尙書の事を録せしむ既にして二人瑋の剛愎を惡んで其の兵權を奪はむと欲す公孫宏岐盛は瑋の臣にして瑾と隙あり二人を賈後に讒して曰はく廢立を謀ると后も亦二人に怨あり帝をして手詔を瑋に賜うて二人を誅せしめ更に直ちに瑋を誅して遂に朝政を専らにす然れども張華儒雅にして



て籌略あるを以て委するに朝政を以てし賈摸裴頴等之れを輔けしかば數年の間  
朝野稍々安靜を得たり

既にして賈后淫虐日に甚し太子遙の其出にあらざるを以て醉に乗じて偽書を作  
らしめ遂に幽ゆるに大逆を以てして之れを廢す東宮の部將司馬雅許超等趙王倫  
が兵柄を執りて貪冒なるを以て稽りて仇を復せむと欲し其寵臣孫秀に依りて倫  
に説く所あり倫兵を擧げて后を殺し并せて華頴に及び自ら相國となる淮南王允  
（帝の弟倫及び秀の異志あるを知りて之れを討ちたれども克たずして殺され石崇  
潘岳歐陽建等みな族誅せらる倫もと無職一に孫秀にきく而して秀狡黠貪淫事を  
與にする者みな邪佞の士なり是に於て倫遂に帝に迫りて位を禪らしむ齊王冏（攸  
の子）何勗蕭艾等と兵を擧げて倫を討ず成都王穎は帝の弟盧志に勧められ河間王  
頴は李含張方の謀により常山王父（帝の弟）は劉暉と與に皆兵を擧げて之れに應ず  
倫等遂に敗れて誅に伏す日を費すこと六十日死する十万人に近し是に於て齊王  
冏を以て大司馬となす頗る權を擅にす嵇紹鄭方孫惠等諫むれどもきかず李含河  
間王頴に勸めて上表して冏の罪狀を陳し穎父等之に應じて冏遂に殺さる既にし

て穎父隙あり穎頴を助けて父と戰ふ穎が將陸機陸雲等大敗して皆斬罪に處せら  
る二人は當時の文章家なり是時に當りて城中食乏し東海王越（宣帝の弟）事の濟ら  
ざるを慮り夜父を収めて張方に降る方遂に父を殺して穎洛陽に入ることを得後  
鄴に遷る僭侈日に甚し東海王越陳陟上官已等と謀りて帝を奉して穎を征す然れ  
ども陽陰に戦うて敗績す越の弟并州刺史東瀛公騰王浚及び鮮卑烏桓等の戎狄と  
共に兵を起して穎を討つ穎の將王粹王斌石超等皆破られ王浚遂に鄴に入りて帝  
出奔す穎が將張方之を迎へて洛陽に入らしむ洛に在ること數日にして方が兵剽  
掠既に盡きて留意の者なし方即ち帝を擁して長安に趨かしむ太宰頴之れを迎ふ  
即ち穎を廢して國に之かじめ熾（帝の弟）を立て、太弟となす既にして東海王越檄  
を山東に傳へて頴を討ず東平王楙范陽王父（宣帝の姪）王浚等之れを助く頴山東の  
兵起るを聞きて甚た懼れ穎を以て河北の軍事を總へしめて其歡心を得んとし更  
に劉弘劉喬張方等をして越を拒がしむ然るに楯劉琨と共に穎が將を破りて進入  
す越も浚が別將祁弘等と與に陽武に至る頴遂に降る既にして悔い再び戦ひたれ  
ども克たず是に於て越太傅となりて尙書の事を録す楯は司空となりて鄴を鎮し



浚は東夷諸軍の都督となる庚歎胡毋輔之、郭象、謝鯤等皆辟されて官を拜す、顯は收へられて虜の幽する所となりて遂に殺され、顯も亦越の弟摸の殺す所となる、惠帝即位以來十七年、宗室遂に殘滅する者前後八人、亮、瓌、倫、同、顯、顛、乂、越、世之れを八王の亂と謂ふ、武帝の焦心苦慮も遂に水泡に歸しぬ、蓋し帝の封建其當を得ざりしに因る、當時既に劉頌の上書あり曰く、社稷の計を爲すは親賢を封建するに若くはなし、然れども宜く事勢を審量すべし、諸侯をして義に率ひて動かしむべき者、其の力以て京邑を雜帶するに足る、若し禍心を包藏せば其勢獨り以て爲すあるに足るのみならず、其の此を齊ふと甚だ難しと、帝室の紊亂士風の敗壞、此の如し、戒狄之れに乗じて亂入を逞うす、是れより南北朝を経て隋唐の一統に至るまで三百餘年間、華夏蠻貊互に併呑盛衰をなして亦寧歲なく支那歴史上未曾有の亂麻を生ぜり

武帝即位の初め、刺史の勢力を殺がむと欲して悉く州郡の兵を去り、大群は武吏百人、小郡は五十人を置くのみ、陶、淡、山、濤等諫めたれども用ひられず、且又漢魏以來羌、胡、鮮卑の降る者は多く之を塞内諸郡に處く、古くは漢光武建武廿六年に匈奴を塞内に置きたるより、鄯、交、が鮮卑の降者數萬人を雍涼の間に置き、武帝の大康年間、匈奴

奴二萬九千三百人を西河に處らしめたるなど、其例なり、其の後數々、恠恨によりて長吏を殺害して深く民害をなす、即ち馮翊北地新平安定地方には羌族あり、扶風始平京兆地方には氏族あり、匈奴に至りては平陽西河太原新興上黨樂平地方にありて皆雜居す、故に太康二年、郭欽上書して曰く、戎狄疆嶺、歷古患をなす、魏初民少なくして西北諸郡皆戎居たり、内は京兆魏郡弘農に及ぶまで、往々之れあり、今服従すと雖も、若し百年の後、風塵の警あるときは、胡騎上黨より三日ならずして孟津に至りて北地西河太原馮翊安定上郡盡く狄庭たり、む宜く吳を平々の威謀、臣猛將の略を及ぼし、漸く内郡雜胡を邊地に徙し、四夷出入の防を峻にし、先王荒服の制を明にすべし、此れ萬世の長策なりと、帝小安に征れてきかず、惠帝の元康九年、太子洗馬陳留の江統は徒戎論を作る、よく既往の對外政略を論じたるを以て、長きを厭はず、ここに録す、曰はく、夫れ夷蠻戎狄は、地要荒にあり、禹九土を平げて、西戎即ち叙す、其の性氣貪婪、凶悍不仁、四夷の中、戎狄を甚しとなす、弱ければ則ち畏服し、強ければ則ち侵叛す、其疆きに當りてや、漢高祖は以て白登に困められ、孝文霸上に軍す、其弱きに當りてや、元成の微を以て、單于入朝す、此れその已然の効なり、是を以て有道の君、夷



狄を收するや、惟々以て之を待つこと備あり、之を禦ぐこと常あり、豈頼賢を執れども、邊城は固守を弛めず、疆暴寇をなせども、兵甲もて遠征を加へず、境内をして安を獲せしめ、疆場をして侵さしむるを期するのみ、周室統を夫ふに及び、諸侯專征、封疆固からず、利害心を異にす、我狄間に乘じて中國に入るを得、我魯を伐ち、濟西山戎燕を病ましめ、狄衛邢を伐ち、長狄三國に入りたるが如し、或は招綏安撫以て己れが用をなさしむ、申繚西戎を以て周幽王を攻殺し、晉陸渾の戎を伊川に遷して之れを特角以て秦師を殺に敗り、楚蠻軍を以て晉と鄆陵に戦ひたるが如し、これより四夷交侵、中國と錯居す、徐夷の齊、晉魯宋の間に在り、鮮虞の燕、晉の境に介し、赤狄の上黨の地に居り、陸渾戎の伊洛の間に居り、義渠大荔の秦、晉の域に居り、戎蠻子の梁、蠶の地に居たるが如し、秦始皇天下を并すに及び、兵威旁達、胡を攘ひて越を走す、是時に當りて、中國また四夷なきなり、漢建武中、馬援隴西太守を領し、叛羌を討ち、其餘種を關中に徙して、馮翊河東の空地に居らしむ、數歳の後、族類蕃息、既に其肥疆を恃みて、且漢人之れを侵すを苦む、永初の元、郡羌叛亂、將守を覆没して、城邑を屠破す、鄯隴敗北、侵河内に及ぶ、十年の中、夷夏俱に蔽し、任尙馬賢僅に乃ち之に克つ、これより

後餘燼盡きず、小しく際會あらば、輒ち復侵叛す、中世の寇惟々これを大なりとなす、魏興るの初、蜀と分隔、疆場の戎、一彼一此、武帝武都の氏を秦川に徙して、以て寇を弱め、國を疆くし、蜀虜を并禦せむと欲す、此れ蓋し權宜の計、万世の利にあらざるなり、今はこれに當りて、已に其の敝を受く、夫れ關中は、土沃物豐、帝王の居る所、未だ戎狄にしてこの土に在るべきを聞かざるなり、我が族類に非ざれば、其の必ず異なり、其の衰敝に因りて之れを畿服に遷すや、士庶翫庶し、その輕弱を侮り、その怨恨の氣をして骨髓に毒し、蕃育衆盛に至らしめば、則ち坐るにその心を生じ、貪悍の性を以て、憤怒の情を挾み、隙を候ひ、便に乗じ、驟すく横逆をなさむ、而して封域の内に居りて障塞の隔なく、不備の人を掩ひて、散野の積を收めば、故に能く禍を爲すこと、滋蔓暴害測られざらむ、此れ必然の勢、已驗の事なり、云々朝廷之れを用ふる能はず、是に至りて起る者五氏あり

其一後漢の末、南匈奴の並州にある者五部あり、自ら其先世漢と姻戚を結びたるを以て、劉氏と稱す、左賢王豹の子を淵と云ふ、幼にして、篤異文武に通ず、東萊の王彌、學術勇略あり、羯人石勒、勝略ありて、騎射を善くす、淵みな之れと交を結び、子聰、驍勇に

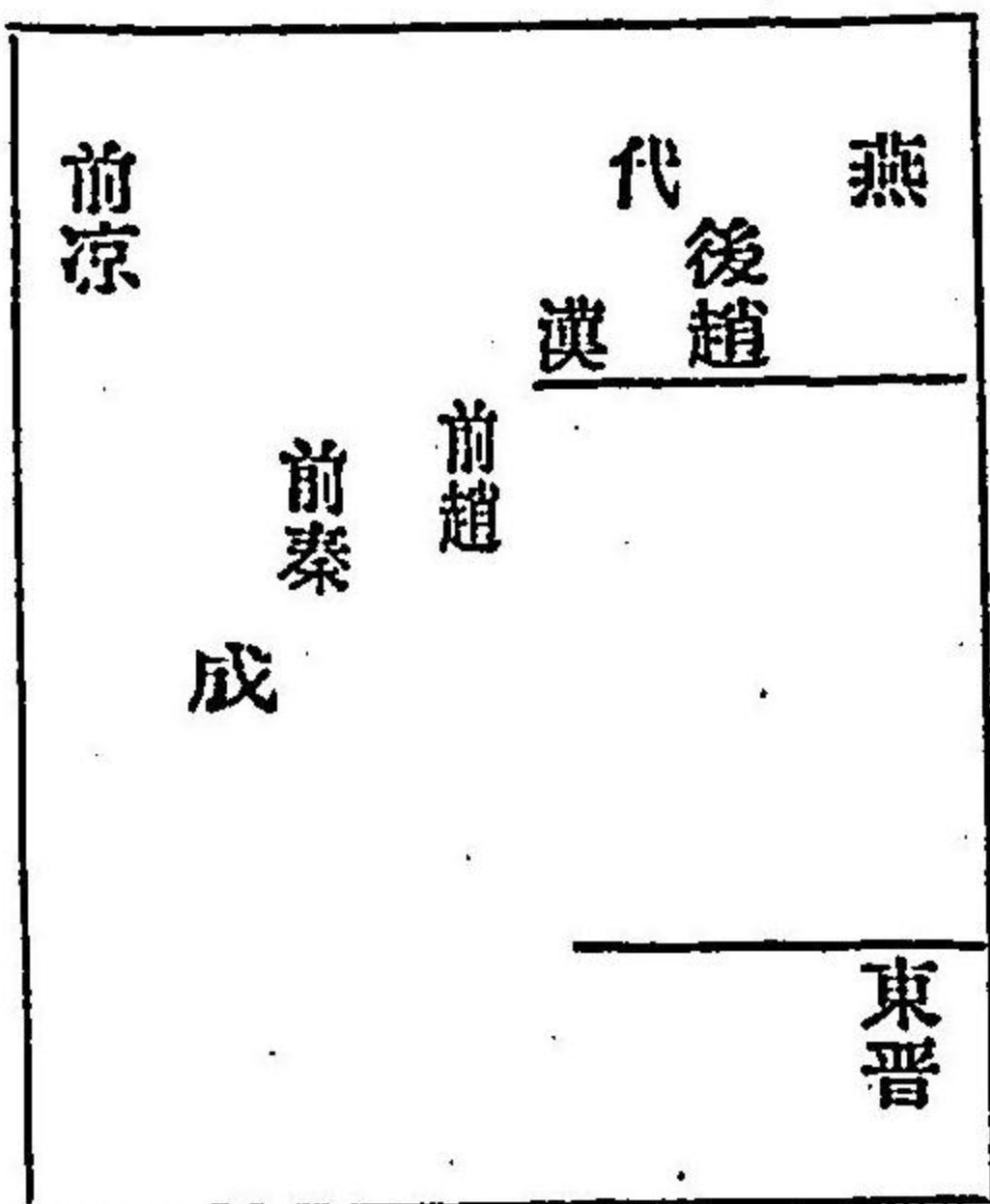


して經史に通し、族子曜亦文武の才あり、遂に國を漢と號せり、師を發して晋を攻む。是時に當りて、惠帝既に崩じて、懷帝立ち、東海王越、大傅を領して、政を執り、荀晞等を、して之を拒がしむ。晞善く繁劇を治めて、法を用ふることに、嚴峻屢々功ありて、威名日に盛なり。遂に越と隙あり、帝も亦越が專恣を厭ふ。越憂憤して、疾をなし、遂に陣中に、夢す。是れより先、漢主淵、既に死して、聰其位を繼ぐ。即ち石勒、王彌、劉曜等をして、洛陽を侵さしめ、晋兵を取ること、十二回、遂に帝を捕へて、大に掠奪を行ふ。是に於て、群臣秦王隣を推して、位に長安に即かしむ。之れを愍帝となす。劉曜は攻められて、遂に降る。二帝皆殺さる。西晋武帝より、是に至るまで、四世五十三年に、して、皇紀仁德九百七十六年、洋紀三百十六年、羅馬コンスタンチン大帝の頃なり。

其二、鮮卑(洋書にSeeds)は、蒙古種に屬する者にして、匈奴の東漢に攻められて、其土を去るや、代りて之れを領し、自然に盛大に起きたり。慕容拓跋、秃髮、乞伏、宇文等は、皆其の小部族にして、拓跋慕容二氏最も著はる。拓跋氏は亦、索頭部と稱す。魏の時、南遷して、匈奴の故地に入る。祿官立つに及び、(西晋惠帝の時)其の官を分ちて三となす。一は上谷の北に居りて、自ら之を統べ、一は代郡の北に居りて、兄の子、猗、之れを統べ、

一は定襄の盛樂、故城に居りて、猗、之弟、猗、盧、之を統ぶ。猗、盧、よく兵を用ひて、西、匈奴、烏桓を擊破し、又、晋人を聘用して、遂に三十餘國を略して、三部を總攝す。西晋の將、劉琨、之れと款を通じて、結んで、兄弟となり、屢々、漢を伐つ。慕容氏は、始めを、慕容皝と云ふ。司馬懿に從ひて、公孫氏を伐ち、國を棘城(遼東の内)に立つ。其、玄孫、廆、に至り、武帝之れを拜して、鮮卑の都督となす。後ち、更に反して、自ら、大、單、于、と稱す。

其三、圖伯特種より、起たる者を、氐、羌、となす。李特は、其の雄なり。惠帝の時、兄弟、蜀、に入



りて、廣漢に據る。刺史、羅、尙、特、を誅したれども、其の子、雄、よく兵を用ひて、遂に尙を走らして、成都を取り、後帝と稱して、國を成と號す。之れを要するに、支那本部も、楊子江



以北は盡く鮮卑匈奴に領せられ雲南四川地方は氐羌に占められ只涼州地方に於て張軌の僅に漢人種を以て介立するのみ

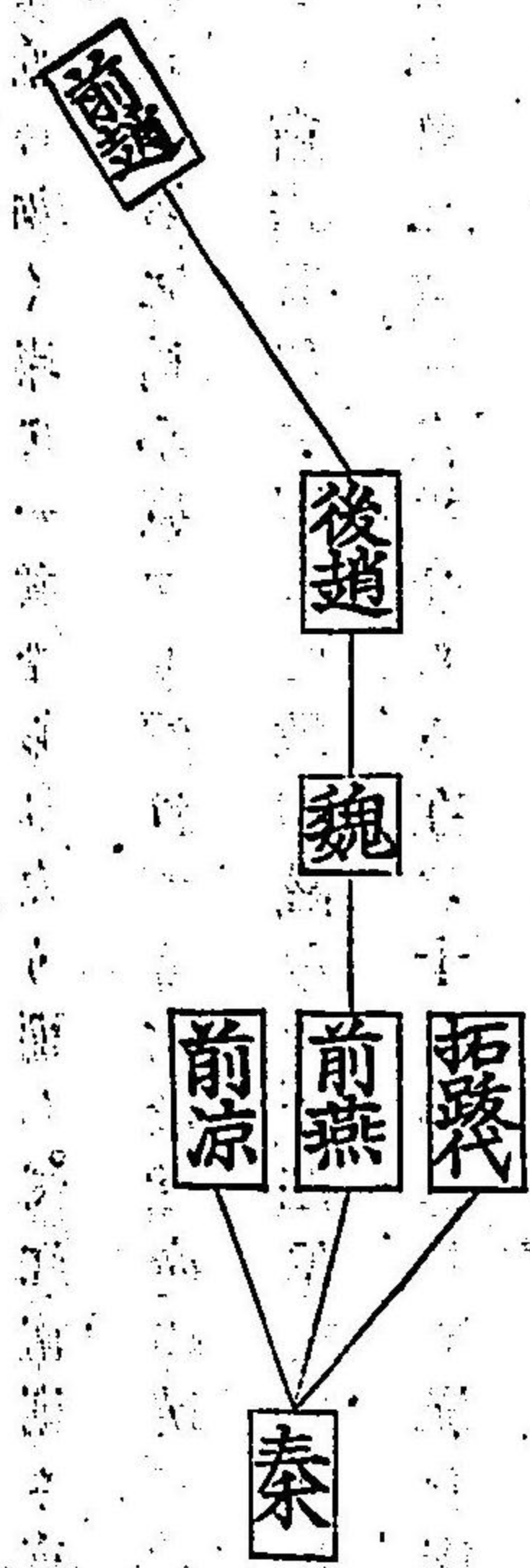
第十四章 南北の分裂

西晋既に綱を解きて中原既に他人種に領せらるる是に於て武帝の遠孫睿位に建康に即く是れを中宗元皇帝となす史に東晋と稱す王導王敦祖逖温峤等之れを助けたれども遂に兵を江北に出して以て侵地を恢復すること能はず此後南北互に亂れて家國の滅亡相尋ぎ走馬燈も管ならず支那史には通例宋より以後を稱して南北朝と稱するも今は東晋より之れを始む何となれば東晋既に偏安の朝廷なればなり今概括して記すこと左の如し

漢主聰既に西晋を平げて一時頗る盛なりしが劉曜立つに及びて石勒と隙あり勅張賓等を用ひて兵鋒甚だ鋭なり曜を前趙と云ひ勅を後趙と云ふ遂に曜を虜にす前趙四世卅七年にして亡ふ時に晋肅宗の時なり勅の子孫相續すること六世廿二年にして石閼之れを亡ぼして代はりて國を魏と號せしが後慕容氏に亡さる拓跋猗盧嘗つて愍帝の封を受けて代王となる後顯宗の時什翼健立つに及びて雄

勇にして智略あり東は濊泊より西は破落那に及び南は陰山を距て、北は沙漠を盡くす李武の時秦王苻堅に攻められて國中大に亂る秦王苻堅は蒲洪の後なり洪は略陽の氐酋にして驍勇にして權略あり嘗つて漢主曜に仕へ其後晋に降り後ち苻と改む子健に至りて秦帝と稱す長安に都す堅は其甥なり

慕容廆既に死して子皝に及び雄毅にして權略あり晋顯宗之れを封じて燕王となす鄴に都す相續すること三世卅四年にして苻堅に亡ぼさる史に之れを前燕と云ふ張軌は涼州によりて世々晋の正朔を奉ぜしが孝宗の時張重華に至りて王と稱し相續すること九世七十六年にして又苻堅に亡ぼさる史に之れを前凉と稱せり今之れを圖解すれば左の如し





江北は此の如く秦に一統せられたり而して江南則ち東晋に至りては之れを江北地方に比するに稍小康なり然れども猶ほ元帝の時王敦の亂あり元帝在位六年にして崩じ肅宗其位を嗣ぎて敦が亂を平ぐ在位三年にして崩じ顯宗其位を嗣ぐ蘇峻反したれども遂に誅せらる在位十八年にして崩じ康皇帝其位を嗣ぐ在位三年にして崩じ孝宗其位を嗣ぐ是時に當りて桓温殷浩等互に權を争ひしが遂に温勢を得たり温豪爽にして風舉あり遂に漢を攻めて之れを降し李雄より四十四年なり進んで中原を掃蕩せむと欲して秦を伐ち大に之れを藍田に敗りて威名日に盛なり終に不臣の心を蓄ふ然れども慕容氏と枋頭に戦うて大敗するに及び遂に挫折す此時孝宗既に崩じて哀皇帝奕備文の三皇帝を経て烈宗孝武皇帝に至り桓温卒して謝安等政を輔く

前述の如く北方に在りては苻堅大に勢力を振ひ且政を賢相王猛に委ねたりしかば其恩威の及ぶ所遠く高句麗に及びり然るに猛死せる後諸臣の諫めを容れず大舉して晋を襲ふ晋の將謝玄(安が甥)謝安之等其前鋒を敗り進んで更に之を肥水に敗る秦兵潰走し堅狼狽して長安に還へる時に孝武大元八年(皇紀仁德千四十二年)

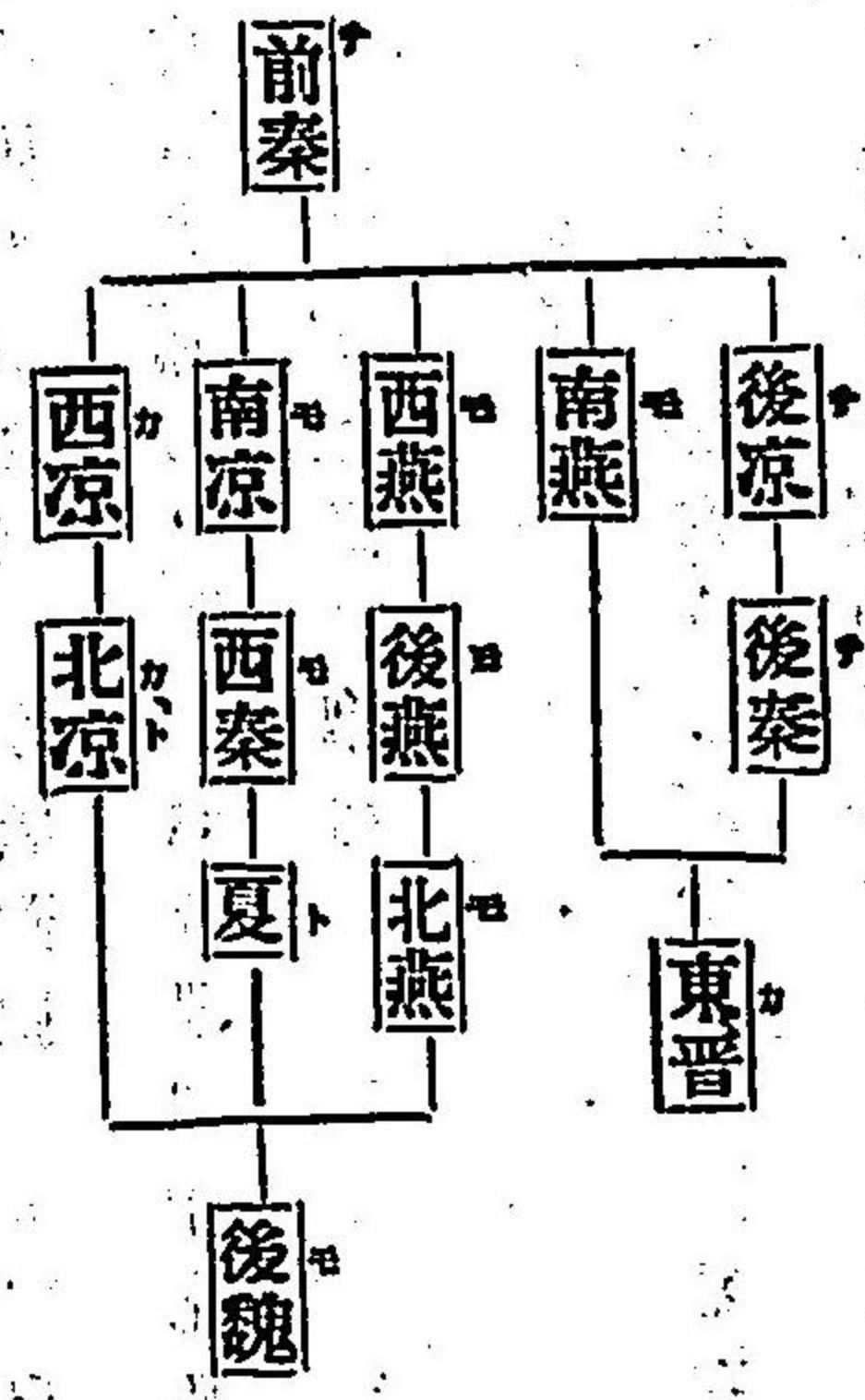
なり是に於て江北再び亂る慕容垂は前燕慕容廆の族にして堅が臣たり反して王となる是れを後燕となす其族冲は平陽にありて西燕の帝と稱せしが其後垂に亡さる亦徳と云ふ者あり廣固によりて自立す是れを南燕となす二世十三年にして晋に亡さる而して後燕は五世二十七年にして北燕の馮跋に亡さる北燕は慕容盛の國なりしが後跋に奪はる二世十八年にして魏に亡さる慕容氏是に於てか全く滅ぶ

姚萇も亦堅の臣たりしが反して王となる是れを後秦と云ふ其父は姚才仲にして羌種なり嘗て劉曜石勒等に隸し後晋に降る其子襄代り立つに及びて晋と隙あり又秦と兵を構へ遂に殺さる萇は其弟なり遂に秦王苻堅を執へて之を殺す相傳ふること三世二十四年にして晋に亡さる西晋の乞伏氏と云ふ者あり名を國仁と云ふ隴右に據る鮮卑の種なり四世四十七年にして夏に亡さる

呂光も氏種にして亦秦の臣なり嘗つて命を受けて西域諸國を征し頗る威名あり遂に涼州に據りて後凉を立てたりしが四世十八年にして後秦姚氏に亡さる又鮮卑の秃髮烏孤と云ふ者あり河西に起りて南凉と號す三世十八年にして西秦乞伏



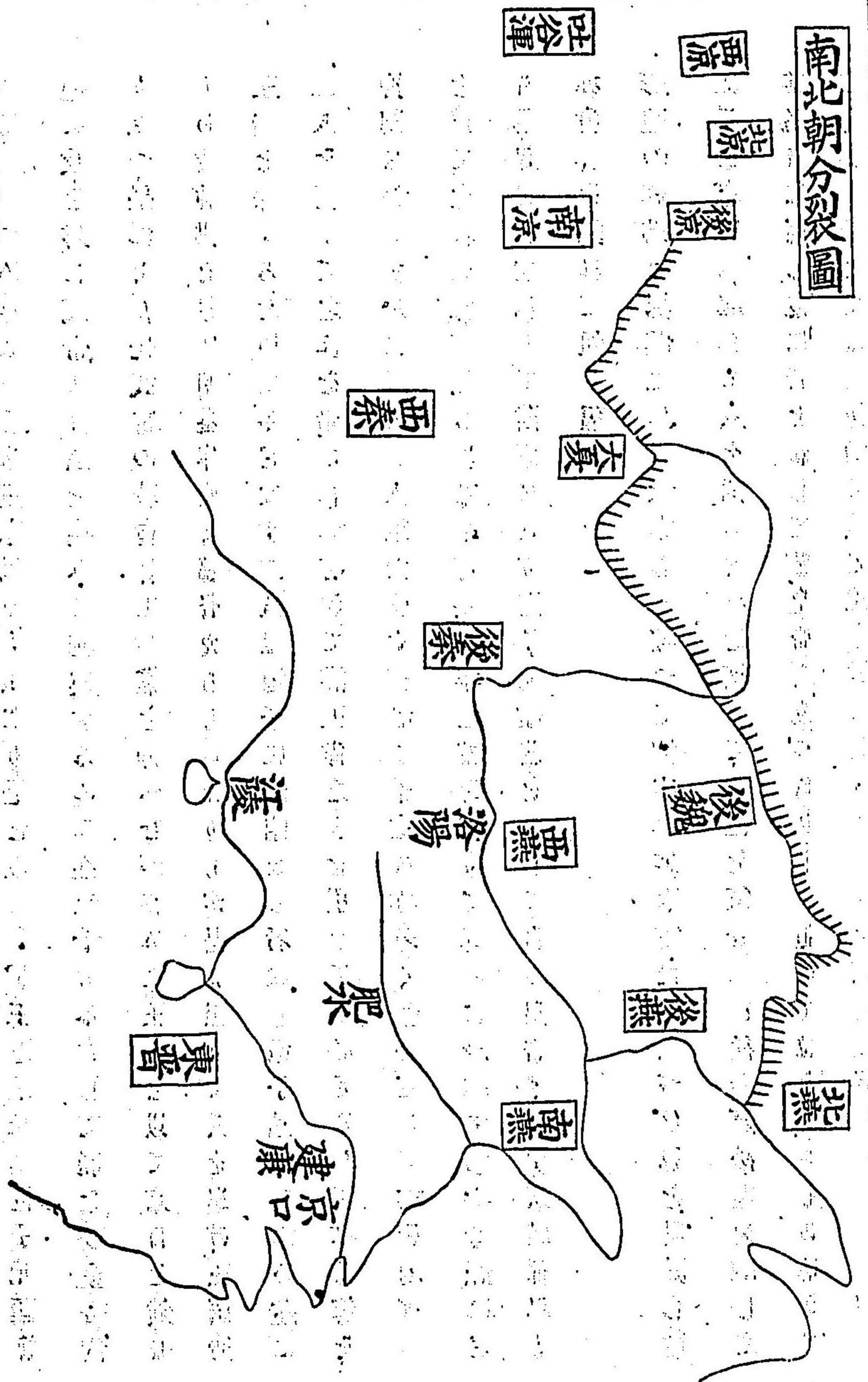
氏に亡さる漢人種にして國を立てたる者二一は西涼にして李嵩之を燉煌に開く  
 二世二十二年にして北涼沮渠氏に亡さる北涼はもと亦漢人段業が張掖によりて  
 開きしものなれど久しからずして匈奴の沮渠蒙遜に弑せらる蒙遜姑臧に遷都す  
 二世三十四年にして魏に亡さる夏も亦匈奴の赫連勃勃の立てしものにして彼は  
 もと秦の將なり三世二十四年にして其主定に至り吐谷渾之を捕へて魏に送る吐  
 谷渾は慕容の別種なり今表によりて之を明かにすること左の如し



- チは國伯特種(氐)也
- 毛は蒙古種(鮮卑慕容拓跋)
- トは土耳其種(匈奴)
- カは漢人種

(此表は單に前秦より分裂したる諸國が轉々相亡びて二大國に屬するに至りたる  
 を示めせるものにして敢て分裂を示したる表にあらざるなり)

南北朝分裂圖





晋國苻堅の入寇より以來國家稍々少康なり是を以て會稽王道子及び世子元顯等  
 禮に政を爲し武帝も亦酒を嗜みて流連するのみ在位十五年にして崩じ安皇帝代  
 り立つ是れより先武帝の時會稽王の權を抑へむが爲めに王恭を以て京口を鎮せ  
 しめ段仲堪を以て荆益寧州に都督たらしめたりしが是に至りて兵を擧げ王國寶  
 王緒を誅するを以て名となす二人は道子に依附せる者なり道子姑息を求め遂に  
 二人を斬りて之れを誅せしか尋ぎて譙王尙之等を引きて腹心となし再び恭等を  
 抑制せむとす是に於て二人復た反す桓温の子玄も亦久く鬱々として志を得ざる  
 を以て之れに應ず然るに恭の可馬劉牢之恭を斬りて降るに及びて事平ぐ然れど  
 も尋ぎて桓玄反して建康に入り道子元顯義を殺して自ら皇帝と稱す妖賊孫恩も  
 亦會稽を陥れて頗る猖獗なり

彭城の劉裕は勇健にして大志あり嘗つて劉牢之が麾下たり先づ孫恩を計滅し遂  
 に兵を京口に起して玄を討ち之れを斬りて帝位を復せしむ後南燕後秦を滅して  
 其名日に高し遂に帝を弑して恭皇帝を立つ既にして迫りて位を禪らしめ尋ぎて  
 之を弑す是までは脅迫的禪讓と雖も敢て先代の君主をば皆優遇したりしに裕に

至りて初めて弑逆をなしたり以後之れに倣ふ者多し東晋十一世百四年にして亡

ぶ時に魏に在りては太宗の朝なり(皇紀允恭千七十九年)

劉裕既に國を立て宋と稱す在位三年にして崩じ廢帝榮陽王を経て文皇帝に至る  
 大臣傅亮謝晦等の亂ありしも直に平ぎ帝また勤儉にして國家頗る富む然るに元  
 嘉廿七年に至り王玄謨等の勸めによりて大舉魏を伐ちて大敗して却て侵掠を樂  
 りたり更に孝武明皇帝後廢帝順皇帝に至て政を蕭道成に委す道成深沈にして大  
 量あり遂に帝位の禪を受けて國を齊と號す宋相傳ふること八世五十九年にして  
 亡ぶ蕭道成の子孫相尋て以て五世にして和皇帝に至り蕭衍に禪る二十三年にし  
 て亡ぶ衍國を立てし梁と號す是の時に當りて魏頗る亂る(魏一に北魏或は後魏の  
 稱あり)

初め拓跋珪頗る勢力を占めて既に北方に雄視す是を道武皇帝となす東晋安皇帝  
 の時弑せらる太宗明元皇帝嗣其位を繼ぐ宋の廢帝の時崩して子熹立つ是を太武  
 皇帝となす善く兵を用ひて四方を征す窟婁羅結長孫嵩等與に政を輔く浩經術を  
 研精して制度を練習し頗る奇謀あり即ち北燕馮氏北涼沮渠氏を亡し又柔然吐谷



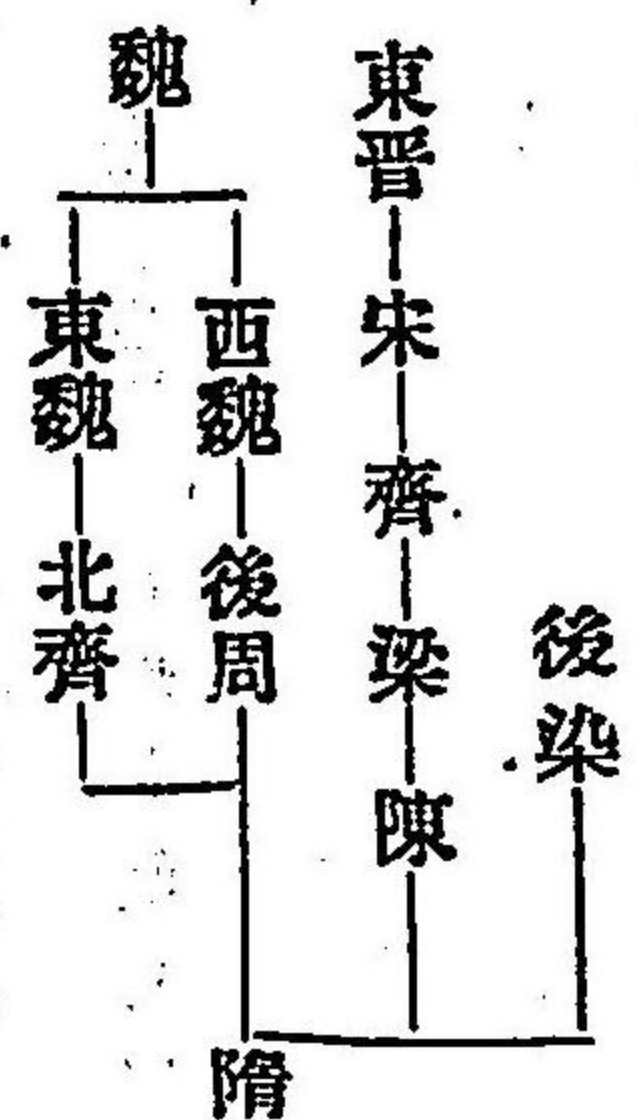
渾を驅逐す柔然は漠北に起りたる者にして其盛なるに當りてや西は焉耆に至り  
 東は朝鮮に接す是に至りて遠く却く宋の文帝之を伐ちて大敗す(肥水に於ける  
 南北の大衝突より六十七年を経たり皇紀允恭千百十年)是に於て魏の勢益々強し  
 既にして大武弒せられ成皇帝獻立つ太武征伐の後を受け専ら休息を貴び中外安  
 集す宋孝武の時崩して獻文帝弘立つ聰睿夙成剛毅果斷なり宋後廢帝の時弒せら  
 れ太子宏立つ是を孝文皇帝となす仁孝恭儉にして禮を制し樂を定む是れまで魏  
 は北方獯彘粗野の風を脱せざりしが是に至りて帝之れを矯めむとし都を平城よ  
 り洛陽に遷して胡服胡語を禁ず學を好みて手卷を釋てず詔冊を制す皆金聲玉振  
 なり在位廿七年蔚然として太平の風あり然れども其弊や遂に文弱に流れて南方  
 浮華の風は北方剛毅の俗を掃ひ去りて遂に衰微の種子を蒔くに至れり齊廢帝東  
 昏侯の時崩じて子恪立つ是れを宣武皇帝となす帝の崩ぜし時は正に梁高祖蕭衍  
 の天監十四年なり子翊立つ是を明帝となす遊聘を好み母胡氏も淫亂にして魏政  
 始めて亂る懷朔鎮(山西省)の高歡沈深にして大志あり大都督爾朱榮に勸めて兵を  
 擧げて帝側を清めしむ會胡氏帝を鸞殺す爾朱榮即ち之れを改めて胡后を殺し孝

文の姪攸を立つ既にして榮不臣の志ありしかは攸之を刺殺す其族世隆等攸を弒  
 して孝文の姪恭を立つ高歡兵を擧げて爾朱氏を討む恭を廢して修を立つ歡太丞  
 相となり府を晉陽に建つ修之と隙あり遂に奔りて長安に入り宇文泰に依る歡即  
 ち孝文の孫善見を洛陽に立て鄴に遷る魏道武より是に至るまで十三世百四十九  
 年にして分れて東魏鄴西魏長安となる時に南方に在りては梁高祖の中大通六年  
 (皇紀安閑千九十四年)なり  
 梁高祖蕭衍即位以來江左久く無事なり惟だ佛法を崇んで慈悲を専らしし重罪あり  
 れども之れを罰せざりしかば姦惡の徒晝夜公行するに至る是時西魏の侯景降り  
 て河南王に封ぜらる遂に反して臺城を圍み梁王に迫りて三公の位に就く梁王憂  
 憤疾をなして崩す(在位四十八年)簡文帝其位を嗣ぐ陣霸先兵を起して遂に  
 侯景を誅す元皇帝を経て敬皇帝に至り陣霸先帝位の禪を受く是を陳の高祖とな  
 す梁相傳ふること四世五十六年にして亡ぶ陣の高祖在位三年にして崩む文皇帝  
 廢帝臨海王宣皇帝を経て後主長城煬公に至る  
 是れより先西魏の宇文泰は修を弒して竇炬を立て連年高歡と相持す既にして歡



卒して子澄之を嗣ぐ遂に弟洋に至りて東魏に代り帝位に即き國を北齊と稱す東魏十七年にして亡き時に梁の簡文の朝なり是時に當りて西魏頗る強よし嘗つて梁の元皇帝を江陵に攻殺して襄陽を取り梁王督を立て、帝と稱せしむ是れを後梁とす嘗は高祖の孫にして簡文帝の時襄陽によりて反し款を西魏に送りし者なり宇文泰儒を崇み嘗つて蘇綽を擧げて尙書となし古制を參酌して新制を立つ人多く之を便とす既にして宇文泰の子覺に至り遂に其主の禪を受け國を周と稱す西魏四世二十四年にして亡ぶ覺年少なるを以て宇文護之れを輔ぐ遂に弒して毓を立て又弒して邕を立て邕深沈にして遠讎あり護を誅し又北齊を滅す北齊相傳ると五世三十年にして亡ぶ時に陳の宣皇帝の時なり一年を経て邕崩じ太子贊立つ皇后の父楊堅事を用ふ贊また淫虐なり子闡位を嗣ぐに及びて楊堅遂に其禪を受く是を隋の高祖となす周相傳ふること五世二十五年にして亡ぶ時に陳の宣皇帝の時なり

是時に當りて陳の後主酒色に耽りて變事執り朝政大に亂る隋高祖既に後梁を亡ぼし晋王廣を以て元帥となし江を渡りて陳を伐ち之れを亡ぼす陳五世卅三年を經たり後梁は三世三十三年を經たり是に於て司馬晋以來南北の分裂も是に至りて始めて一統の下に集り四海一君を戴くに至れり東晋の元帝以來實に二百七十三年を經たり



然れども大亂の餘なれば創痕全く愈えず若し意を用ひざる時は再び其再發を見るなきを保せず是を以て隋の文帝既に天下を一統したりと雖も在位二十四年の後楊皇帝之れを嗣ぐに當り天下再び亂れたり初め隋主太子勇あり寛厚にして矯飾なく遂に帝意を失す時に晋王廣竊かに嫡を奪ふの志あり則ち皇后と結託して帝を勸めて勇を廢し自己をして太子となさしむ然るに帝終りに臨みて偶々廣の奸を知り再び勇を召さむとす廣則ち人をして帝を弒し勇を繼殺して天子の位に即く楊帝即ち是れなりかゝる天子なれば其の即位するや否大に土木を興して宮室苑囿を營作し且巡遊虛歲なし其費勝けて計るべからず高麗王反したりしか



は諸郡に詔して征討の軍を發す死する者相枕して天下騷然百姓究困す是に於て諸豪傑兵を擧げて海内再び分裂す李淵兵を大原に起して長安に入るに及び帝既に江都に在り淵等遙尊して太上皇となし其孫侑を奉じて恭皇帝となす半年にして淵遂に禪を受く隋相傳ふること三世三十七年にして亡ぶ支那史中天下の紊亂せるいまだ當時より甚しき者あらず道德敗壞して綱常地に墜ち弑逆の罪姦淫の惡人之れを犯して怪まざ亂刑慘禍至らざるはなし今に至るまで人をして酸鼻せしむ趙翼か所謂劫運の中天方さに亂を長ず固より氣運の然らしむるなりとは夫れ信なるかな然れども大亂の後には太平あり之れを繼ぎて興る者は李唐二百年の文化なり吾人は將に章を改めて之れを説かむとす

第三篇 近古史

第一章 唐代の文化及び武威

唐の高祖神堯皇帝姓は李名は淵にして西涼李暹の後なり其起るや斐寂劉文靜の力多しと雖も殊に太子世民の聰明勇決識量人に過ぎ能く大業を輔翼したるによらずんばあらず遂に隋の禪を受け諸豪傑李密王世充竇建德劉武周を制服し武徳七年天下始めて平かなり既にして世民其兄弟建成元吉と隙あり遂に之れを殺す帝即ち世民を以て太子となし尋ぎて位を禪る是を太宗文武皇帝となす支那の文明は唐に至りて其局面を一變せり上古の文明は姬周之れを創して秦漢之れを成す東漢の末より殆んど是に至るまで四百餘年間は此文化より生じたる思想の支配したる者なれども今や氣運回轉の時來りて遂に李唐二百餘年の新文化を生ず是れより以後政治法律文學等みな範を此に求めて然る後溯ぼりて上古の文明に至らむことを求むること猶唐以前に於て周を景仰したるが如し而して唐は單に文化の發達著しきのみならず武力も亦強盛にして大に威を塞外及び諸外國に振ひたり以下之れを分叙せむ



其二 文化

高祖の時金革漸く収まるや直ちに州縣郷の學を置きて帝親から國子監に詣りて先聖先師を釋奠す又太宗の秦王たりし時館を開きて以て文學の士を延き日を更へて宿直せしむ暇日には輒ち館中に至りて文籍を討論し或は夜分に至る闔立本をして其の著明なる學士を畫かしむ杜如晦房玄齡虞世南褚亮姚志廉陸德明孔穎達等十八人は是れなり既に位に即きて弘文館を置き三品以上の子孫を取りて其の學生に充て四部經史子文の書二十餘万を集聚す數々國子監に幸して名儒の講論を聽き學生にして一經以上に明かなる者は皆官に補することを得學舍を増築すること千二百間學生の數二千餘人に至る是に於て高麗百濟新羅高昌吐蕃の酋長に至るまでみな子弟を遣して講筵に升らしむるもの八千餘人に至るまた盛なりと云ふべし當時師說多門にして章句繁雜なるを以て孔穎達顏師古等に命じて諸儒と五經の疏を定めしむ之れを五經正義或は九經正義と云ふ五經は詩書易春秋禮と云ひ其九經と云ふは春秋を分ちて三傳(公羊穀梁左氏)となし禮を分ちて三禮(周禮儀禮禮記)となしたると云ふ

蓋し訓詁の學風前漢に生じて東漢の末に成る皆一經專門にして其師承あり相背くを許さず南北朝に及びて其好尚志趣同しからず北朝は多く經學を尊みて南朝は詞藻に耽る元魏の時徐遵明を以て大宗となす隋に至りて劉焯劉炫共に名を齊うして二劉と稱せらる且又北朝の諸朝廷其の漢人に非ざる者も皆文學ありて學術を重んず劉焯は毛詩京氏易馬氏尚書を習ひて尤も左氏春秋孫吳兵法を好み劉聰は年十四にして經史に究通し述懷詩百餘篇賦頌五十餘篇を著はし劉暉慕容皝等は學舍を立て、民間の俊秀千五百人を簡選し苻堅博學にして學校を設け儒術を尊み姚興の時に當りてや姜彥淳于岐者儒を以て重んぜられ李暹は劉延明を延き沮渠蒙遜は宋繇を禮す北魏の諸帝皆力を此に盡し梁越の道武に於ける盧醜休の大武に於ける劉芳李彪等の孝文に於ける皆優遇を被る高齊の李鉉邢峙宇文周の熊安生みな然り南朝は此の如く盛ならず惟く蕭齊の初及び梁武四十餘年間を以て其盛時となす而して其探る所の注釋南北亦同しからず江左は書は孔傳易は王弼註三禮は鄭玄註若くは王肅註春秋は左傳杜預註論語は何晏註なれども北朝に至りては書易三禮論語皆な鄭氏により春秋三傳は即ち服虔(左氏)何休(公羊)范甯



(穀梁を用ひ詩は南北俱に鄭箋を用ふ隋に至りて南北の學を併せ取り以て公平を期す唐の此歳に至りて衆家を折衷す即ち詩書左傳は多く二劉の疏に據り禮記は梁の皇侃及び熊安生の疏により賈公彥又周禮儀禮の疏を著す是れ五經五義の起りたる所以なり以後祿仕を求むる者一に之れを以て標準となして異説を立つる者なし唯々李鼎祚の易暎助趙匡陸淳の春秋其の範圍を脱す要するに思想としての儒學は充分に發揮せられざりしと雖も訓詁の完備したること疑ふべからず儒教の方面は前略の如しと雖も純文學に至りては眞に近古に標準たるに足る蓋し三代より周を経て秦漢に至るまでを是を古文辭流行の時となす其文辭樸楚にして信屈贅牙なれども氣力人を壓して誰見群を絶す然るに魏晉以來駢儷文辭次第に勢力を占めて詞章互に浮華を競ひ之に加ふるに道義の壞敗と共に文氣卑弱に陥る曹操英雄の資を以て壯思を文詞に托す是を以て古風遺意存すと雖も其後曹丕以下既に淫靡の風あり是等を建安七子と稱す延きて六朝の間に至る其間東晉の陶淵明古風を唱へ宇文周の蘇綽命を承けて文弊を矯めたることあれども天下の大勢は依然たり今や唐起るに及び猶穢弱の習を脱せず唯武后の時陳子昂高

雅冲澹の風あり王勃楊炯盧照隣駱賓王皆駢儷に巧にして世之れを四傑と稱す然れども子昂一たび古風を唱へしより詩に在りては杜子美李太白等天寶の朝に出て文に在りては韓退之柳宗元等憲宗の時に出て、皆一代の鉅匠となれり是を以て天子にして詩を能くする者頗る多し太宗文宗宣宗の如き皆御製ありて後に流傳す而して德宗の如き其尤なりまた太宗の朝梁楚の音吳楚多く周齊の音胡夷多きを以て南北を斟酌し考ふるに古聲を以てし唐雅樂を作る祖孝孫張文收之を主とる之れを要するに唐の貞觀は實に二百餘年間文化の根底をなしたる者にして其花實は開元天寶に至りて馥郁たり安史の亂以後元和に於て亦一たび盛なりしが其後次第に國勢の陵夷と共に觀るべき者少なきに至れり

其二 武威

太宗親ら射を顯德殿に習ひ諸士に諭して曰はく戎狄侵盜古より之れあり思は邊境少安なれば則ち人主逸遊戰を忘るゝに在り是を以て寇來るも之れを能く禦ぐなしと實に帝は謀慮を以て勝りたるのみならず亦自ら攻城野戰の勞を辭せず尉遲敬德等と屢々白刃の下に危を犯せり既に位に即くや天下を分ちて十道となす



關内河南河東河北山南關右淮南江南劍南嶺南是れなり更に每道に府を置く其數六百卅四なり凡そ上府兵千二百人中府千人下府八百人なり三百人を團となして校尉あり五十人を隊となして正あり十人を火となして長あり人毎に兵甲糧裝各々數あり年二十にして兵となり六十にして免ず

漢代に於て塞外人種の強盛なる者は匈奴なり魏晉六朝の際華夏蠻貊大に混亂して北方の天地は全く漢人種より奪ひ去られ鮮卑の一族最も繁榮を極めたり是れに抗したる柔然東胡の屬或は云ふ土耳其種吐谷渾慕容氏の族等となす其後衰て周隋の盛より突厥大に勢力を占むるに至れり突厥は土耳其種の分枝にして姓は阿史那氏世々金山甘肅鎮西府の北境に居りて柔然の臣たりしが木杆可汗より次第に勢力を占め宇文周高齊みな親姻を結ぶに至れり隋の時分れて東西の二となる東の可汗を始畢と云ふ其領する所東は契丹室韋より西は吐谷渾高昌に至り隋末の諸豪傑みな兵力を藉りて其樹立を謀る西突厥の射匱可汗も亦頗る強大にして東は金山より西は塞海に臨む唐の起る高祖臣を東突厥に稱して以て援を借る約して曰く若し長安に入らば民衆土民は唐公に入り金玉繒帛は突厥に歸せむと

是に於て帝となるに及びて贈遺甚だ厚くして其歡心を失はむことを恐る是れを以て突厥日に驕慢にして少く意の如くならざれば直ちに來寇す頡利可汗に至りて士馬の雄盛を極む然るに漢人趙德言を信ずるに及びて多く舊俗を變更して政令繁苛なり是によりて内外離怨して諸部多く叛く李世勣李靖王道宗等をして之れを伐たしむ遂に頡利を虜にして長安に凱旋す其餘衆或は薛延陀に付き西域に奔る其の唐に降る者十餘万人群臣に詔して區處の宜を議せしむ讖者或は之を河南堯豫の間に雜處せしめて之れに耕織を教へて以て農民となし塞北の地を空ふすべきことを云ふ頡利師古李百藥魏徵等各奏する所あり帝遂に温彦博に従ひて之れを朔方に處き定襄雲中の兩都督府を置きて以て之を統べしむ時に定觀四年なり既にして西突厥亦分れて二となりしが高宗の時に至りて大に衰ふ薛延陀に勅勒(鐵勒)の一部にして迴紇(回紇)回鶻(回鶻)都播(吐蕃)都波(都波)と稱して吐谷渾の西南に在り(骨利幹)結骨(賸吉憂)方今露西亞(エニヒール)地方に在り)等と全族たり皆東突厥に臣たりしが頡利の政亂れたるを以て薛延陀等首として叛旗を擧げて突厥を敗り夷男を立て、俟斤となす俟斤は猶王の如し其版圖東は靺鞨西は突厥南は沙漠に接



し北は俱倫氷に至る夷男卒するの後國勢大に衰ふ即ち李世勣をして之を伐ちて降らしむ回紇等十一姓各々使を發して約を奉ず西北にありては伊吾(哈密)黨項皆内附し南に在りては林邑入貢す吐谷渾數々西邊を侵したりしかば侯君集李靖を遣して之れを征服し又侯君集等をして吐蕃の贊普棄宗を破らしむ贊普は王と云ふが如しまた高昌王麴文泰多く西域の朝貢を遏絶し且國使を拘留す焉耆等之を誅ふ即ち侯君集を以て交河大總管となして之を擊ち收めて西州となす龜茲安國于闐等前後來屬す既にして新羅奏すらく百濟高麗と兵を連ねて入貢の路を絶たんとを謀ると帝自ら師を率ゐて遼水を渡り遼東城に克ち進んで平壤を拔かんとす會々天寒く士馬久く留り難きを以て遂に師を班す實に貞觀十九年にして帝が四十九歳の時なり高宗の時に至り更に李靖をして高麗を伐たしめ遂に之れを征服して安東都護府を置く貞觀廿二年王玄策使命を奉じて天竺諸國に至る皆使を遣して入貢す唯だ中天竺の阿那羅順其王尸羅逸多の卒するに會し自立して兵を發して玄策を攻め之れを擒にし其貢物を掠む玄策身を脱して夜遁れ吐蕃の西境に抵り書を以て隣國の兵を徵す吐蕃精銳千二百人を遣はし泥婆羅國七千餘騎を遣して之れに赴く玄策其副將師仁と與に

二國の兵を師めて進んで中天竺の茶罽和羅城に至り連戰三日大に之れを破り斬首三千餘級水に赴きて死する者殆ど万人なり阿那羅順城を棄て、走り更に餘衆を收めて還り師仁と戰ふ又之を破りて阿那羅順を生擒す餘衆其妃及び王子を奉じて乾陀衛江を守る師仁進撃し之を獲併せて男女万二千人を虜にす天竺饗震城邑聚落降る者五百八十餘所に及ぶ帝即ち玄策を拜して朝散大夫となす此の如く兵威四方に普及せしかば其版圖東は海より西は焉耆に至り南は林邑を盡して北は大漠に至る東西九千五百一十里南北一万九百一十八里(支那里法漢人聲威の盛なる此時に過ぐる者なし即ち詔を下して曰はく朕聊か偏師に命じて顔利を生擒し始て廟署を弘む已に延陀を滅す鐵勒百餘万户請うて州郡となる混元より以降殊に未だ前聞せず宜く禮を備へて廟に告ぐべしとまた詩を賦して曰はく雪耻酬百王除兇報千古と人或は其功を矜り兵を黜したるを譏るものあれども雄材大略豈仰かざるべけんや貞觀廿三年(皇紀孝德千三百九年)洋紀六百四十九年遂に崩す年五十三なり時に四夷の人朝に入仕し及び朝貢したるもの數百人喪を



聞きて皆慟哭し髪を剪り面を蓋ぎ耳を割き血を流して地に灑ぐと云ふ蓋し國風に從ふなり是を以て其盛なるに當りてやネリウツルマカガ波斯羅馬各使を發して音問を通せしと云ふ貞觀九年チヌリアス派の阿羅本(Olopen)來りて長安に耶蘇教を弘布したり太子治立つ是を高宗皇帝となす

第二章 唐室の内亂

唐室は其創始より既に兄弟鬩牆の事あり温和にして潔白なる家庭にあらざるなり太宗の聰明にして猶其兄弟の妻を以て妃となすに至るあり高宗の朝に至りて遂に發して武氏の亂となる

是れより先太宗武士驍の女の美なるを聞きて之を後宮に入る崩後尼となる偶々高宗寺に幸して其艶色を悦ぶ此時王皇后蕭淑妃と寵を争ふ密に髪を長せしめて帝に勸めて之を納れしめ拜して昭儀となす而して后と妃と皆寵を失す遂に二妃を讒陷して皇后となる長孫無忌褚遂良柳奭韓瑗等皆之を諫めたるを以て或は貶せられ或は殺さる許敬宗李義府等之を贊したるを以て大に寵用せらる是れより以後勢力次第に増加し帝風眩を病みて政を視ること能はざるに當りてや親ら代りて之れを處理す皆旨に稱ふ帝在位卅四年にして其卅年は實に中宮の政なり

帝崩じて太子哲立つ是れを中宗皇帝といふ武后之れを廢して廬陵王となし其弟且を立てしが七年を経て又之を廢して皇嗣となし自ら聖と名づけて則天聖武皇帝と稱し國を周と號し姓を武と改む時に年六十七なり英公李敬業越王貞等兵を擧げて匡復を圖りたれども成らずして死す更に大に唐の宗室を殺し屬籍を除くもの數十百人幼者をば皆之を嶺表に流竄す其内行頗る治まらず付懷義張易之張昌宗等宮中に出入して頗る醜態あり是に於て人の己を讒せむことを恐れ更に威を立てて天下を制せむと欲して告密の門を開き酷吏周興來俊臣邱神勳等を用ひて頻りに大獄を起し誅戮虛日なし又六御史を分遣して盡く流人を殺さしむ其最も少なき者も五百人に減せざるなり而して酷吏罪あれば亦貸さざるなり甚しきに至りては苟も己に便ならざるあらば其所生と雖も斷じて之を殺す然れども權敵ありて頗る人を知るの明ありまた諫を納るゝに吝ならず朱敬則の如き諫めて曰はく陛下内寵易之昌宗ありて足れり近ごろ聞くに右監門衛長史侯祥等明かに自ら媒衞して醜慢耻ぢげ供奉たるを求む無禮無儀濫りに朝聽を干かすと然れど



も怒らざして反りて殺百段を賜ふ事つて天下の歡心を得んと欲して人を官に叙する賢愚を問ふなく補闕連車載拾遺平斗量の嘲あれど職に稱はざれば直ちに之れを罷め或は刑誅を加ふ是を以て人之が爲めに用ひられんことを樂ふ徐有功魏元忠婁師德狄仁傑姚元之宋璟等最も顯はる特に仁傑最も信重せられて屢々匡救する所あり遂に勸めて盧陵王を召して皇太子となし武族の太子となるを防ぐまの張柬之を薦む仁傑既に卒して翌また疾に襲す東之崔玄暉敬暉桓玄範袁恕己と計りて兵を擧げて太子を迎へて帝位に復せしめ翌を上陽宮に遷し嬖寵を誅す周唐に代はること十六年にして天下再び正に歸す然れども内亂は此に止まらざるなり

中宗の皇后を韋氏と云ふ嘗て帝の廢せらるゝや與に困厄を嘗めたるを以て頗る寵あり是に至りて遂に朝に臨んで政を聽き遂に武氏の族三思と通ず上の女安樂公主は三思が子崇訓の妻なり上遂に三思と政事を謀し公主また勢に依りて專權なり后遂に崔湜鄭愔等と圖りて張柬之等を却け誅ぎて皆之を殺す皇太子重俊又韋后等と隙あり即ち李多祚等と俱に兵を擧げて三思崇訓を殺し更に進んで宮に

入り君側を清めむと欲す成らずして殺さる既にして燕欽融上言するに皇后の淫亂を以てす帝意快々たり后等即ち懼る安樂公主も亦韋后朝に臨みて自ら皇太女たりむことを欲し相與に謀を合して遂に帝を毒弑す相王の子隆基羽林の將卒と結托して后等を殺し諸韋武を誅滅し相王を奉じて天子となす睿宗皇帝是れなり隆基を以て太子となす然れども内亂は此に止まらざるなり太平公主は睿宗の妹なり二張を戮し韋氏を誅する時皆與りて力あり故に帝屢々與に政を議して權人主を傾く睿宗在位二年にして位を隆基に禪る是を玄宗明皇帝と云ふ太子たりし時より公主既に其英武を憚る即ち竇懷貞岑義等と廢立を謀る帝王璵張說崔日用等の勸言により郭元振内給事高力士等と計を定めて逆黨を誅し公主に死を賜ふ事即ち平々時に即位の元年(開元元年)なり

第三章 開元天寶の政治及び安史の亂

帝室の内亂此の如しと雖も社會の全般は太宗より以來着々として隆盛に趣き高宗の時李顯は平壤を抜き高麗を平け鄭仁泰薛仁貴は鐵勒を天山に敗ぶり裴行儉は西域の四鎮龜茲于闐碎葉疎勒と合して西突厥を平け武威益々盛なり而して



都々たる文化も又之れと與に發達して遂に玄宗の開元元年より天寶十四年まで  
 (皇紀元明千三百七十三年より孝謙千四百十五年)四十二年間は唐代中最も隆盛の  
 時なるのみならず支那史中に於ても比肩すべき時少なしとす試みに當時長安  
 の帝都を觀んか盧照隣の詩に曰はく百丈遊絲爭繞樹、一群嬌鳥共啼花、遊蜂戲蝶千  
 門側、碧樹銀台萬種色、複道交窓作合歡、双闕連甍垂鳳翼、梁家畫閣天中起、漢帝金莖雲  
 外直、是れ其建築の壯麗を證せしにあらざや、賈至の詩に曰はく平台咸里帶崇墉、  
 炊金饌玉待鳴鐘、小堂綺帳三千戶、大道青樓十二重、寶蓋彫鞍金絡馬、蘭窓繡柱玉盤龍、  
 繡柱璇題粉壁映、鑄金鳴玉王侯盛、王侯貴人多近臣、朝遊北里暮南隣、陸賈分金將燕喜、  
 陳遵投轄正留賓、趙李經過密、蕭朱交結親、丹鳳朱城白日暮、青牛紺轡紅塵度、俠客金彈  
 垂楊道、娼婦銀鈎採桑路、娼家桃李自芳菲、京華遊俠盛輕肥、是れ都人士が太平に醉  
 ひ悠々日月を送りたるを證せしにあらざや、以上二子は初唐の人なれども其吟詠  
 此の如し以て玄宗時代を推知すべし、且つ太宗以來文學獎勵の道は此に至りて益  
 を開かれ開元十一年、正書院を置きて文學の士を聚め、徐堅、賀知章、趙冬曦、或は書  
 を修め或は侍講たり、燕公張說、許公蘇頌、最も文章を以て顯れ、皆相位に陞る元結ま  
 た名あり然れども其最も盛なるは詩なり

今全唐二百餘年を通じて分ちて四期となす第一期は初より睿宗頃に至るまでに  
 して初唐と稱す第二期は玄宗時代にして盛唐と稱す第三期は憲宗文宗時代にし  
 て中唐と稱す以下を晚唐と云ふ而して盛唐を以て最も及次難しとなし後世皆な  
 之を宗となして漢魏に比す嚴滄浪曰はく盛唐の諸人惟た興趣に在り故に其妙處  
 玲瓏透徹、淡泊すべからず空中の音相中の色水中の月鏡中の像の如し言盡くるあ  
 りて意究りなしと今此の期の著名なる者を擧げむに孟浩然、王維が恬澹にして風  
 韻ある、高適、岑參が激越悲壯なる、王昌齡が優婉怨んで傷らざる皆賞するに足る然  
 れども其百代を震耀して日月と共に光を争ふに足る者は實に襄陽の杜子美及び、  
 蜀の李太白となす嚴滄浪之を比較して曰はく子美は太白の飄逸を爲す能はず太  
 白は子美の沉鬱を爲す能はず太白が夢遊天姥吟、遠別離等は子美道ふ能はず子美  
 が北征、兵車行、垂老別等は太白作ること能はず詩を論ずるに李杜を以て準となす  
 杜天子を挾んで以て諸侯に令するなり少陵が詩法は孫吳の如く太白が詩法は李  
 廣の如く少陵は節制の師の如く少陵の詩は漢魏を憲宗して材を六朝に取る其自



得の妙に至りては則ち前輩の所謂集大成なる者也太白の詩を觀る者其太白の處を識るを要す太白天才豪逸晤卒然として成る者多し學者每篇の中に於て其安身立命の處を識るを要すること可なり太白の發句之れを門を開き山を見ると云ふ李杜數公金鵝海を壁き香象河を渡るが如し郊島が輩を下視するに直に虫の草間に降ずる耳と以て兩家の詩風及び文學上の位置を窺ふべし而して玄宗また此等文學の士を優遇して其保護者を以て自ら任じたり是を以て李白の如き之を宮中に召して其傲放を尤めず杜甫が所謂天子呼來不上船自稱臣是酒中仙とは是れの謂ひなり欲笑文詞燕錦還輕漢武樂橫汾豈知玉殿生三秀詎有銅池出五雲陌上竟尊傾北斗樓前舜樂動南薰共歡天意同人意萬歲千秋奉聖君(王維)或は銀燭朝天紫陌長禁城春色曉蒼々千條弱柳垂青瑣百啣流鶯遶建章劍珮聲隨玉墀步衣冠身惹御爐香共沐恩波鳳池上朝々染翰侍君王(賈至)或は雲想衣裳花想容春風輕露華濃若非群玉山頭見會向瑤臺月下逢或は一枝濃艷露凝香雲雨巫山枉斷腸借問漢宮誰得似可憐飛燕倚新粧或は名花傾國兩相歡常得君王帶笑看解釋春風無限恨沈香亭北倚欄干以上李白是れ昔當時の文士が太平を裝飾したるの辭にあら

ザヤ

管に文學の上のみならず書畫の美術に至りても亦然り意態縱横なる張旭道勁秀拔なる顔真卿是れ書家の巨壁なり畫に至りては李思訓北宗派を開きて王維南宗派を創む吳道玄また卓然として一家をなす蘇東坡の評に曰はく詩は杜子美に至り文は韓退之に至り畫は顔魯公に至り畫は吳道子に至りて古今の變天下の能事畢ると玄宗また音樂を好む雅樂部には立枝部坐枝部の二ありて太常皆之れを司どり并せて俗樂に及ぶ是に於て更に左右教坊を置きて以て俗樂を教へ范及をして之を掌らしむ又樂工數百人を選びて自ら法曲を黎園に教ふ之れを皇帝梨園弟子と云ふ又宮女をして之を習はしめ又伎女を選びて宜春院を置き其家に給賜す其盛なるに當りてや教坊の生員二千八太常の樂工万餘戸に至れりと云ふ開元廿三年の記に曰はく時に三百里内の刺史縣令に命じて各々所部の音樂を帥めて樓下(五鳳樓)に集り各々勝負を較せしむ懷州刺史車を以て樂工數百を載せ皆文繡を衣る服裝の牛背虎豹犀象の狀をなす魯山令元德秀性心樂工數人をして袂を連ねて于焉を歌はしむと然れども治亂は糾纏の如し天寶十四載に至りて天下の大亂



を開きたり

玄宗即位の初め精を勵まし治を求む宋璟姚元之後崇と改む先帝の舊臣を以て協心同力政を輔け賦役をして寛平ならしめ刑罰清白にして百姓富庶なり尋ぎて用ふる所の相皆長ずる所あり張夏貞は吏を尙ひ張説は文を尙ひ李元紱杜暹は儉を尙ひ韓休張九齡は直を尙む然るに帝武惠妃を寵するに及び惠妃太子瑛を疾み帝に勸めて之れを廢して其所生壽王瑁を立てむとす九齡之を争ふ李林甫柔佞にして巧數あり城府深密にして人其隙を窺ふなし即ち惠妃に結托し九齡を排し太子を廢して尋ぎて之に死を賜はしめ其黨牛仙客等を引きて政をなす是れより朝廷直言する者なし二人皆格式を謹守して百官の遷除各々常度あり奇材異行と雖も終老常調を免れず其巧諂邪儉を以て自ら進む者は則ち超騰不次なり既に武惠妃薨じて帝追悼已まらず後宮數千意に當る者なし或ひと壽王瑁が妃楊氏之美絶世無双なるを言ふ上之れを納れて以て貴妃となし龍六宮を傾く此れ徒に肌態豊飽是れを致すのみならず蓋し才智明慧善巧便佞意に先ちて旨を希ひ形容すべからざる者あるなり一族皆貴爵富祿を賜はりて禁門に出入す當時歌あり曰はく女

を生むも悲酸するなかれ男を生むも喜歡するなかれと

是れより先齒州の節度張守珪其部下の將胡人安祿山をして奚契丹を討たしむ祿山勇を恃んで敗らる守珪之れを斬らむと欲したれども其驍勇を惜み更に執へて之を京師に送る張九齡其罪を正さむことを請ふ帝も亦其才を惜みて之れを赦す史宰相は祿山と里を同うし驍勇なり守珪入りて事を奏せしむるに及び上亦之れを悦びて名を思明と賜ふ祿山傾巧善く上の左右に事ふ故に聲譽日に隆なり遂に楊貴妃及び其族楊國忠に結び累進して節度使となりて范陽に鎮す優遇比なし遂に天寶十四載(天寶三年に年を載と改む)十月所部の兵及び奚契丹の兵十五万を發して反旗を舉げ南に下る歩騎精兵煙塵千里に渉る時に承平日久しくして百姓兵革を誦らず州縣皆風を望みて瓦解し洛陽直ちに陥る平原太守顏真卿兵を起して賊を討つ常山太守顏杲卿真源令張巡北海太守賀蘭進明等前後之れに應ず既にして史思明常山を陥れ顏杲卿を殺して進んで長安に迫る朔方節度使郭子儀河北節度使李光弼之れを九門嘉山等に敗ぶり河北直隸省地方十餘郡を復す祿山恐れて洛陽を棄て、范陽に歸へらむとす然るに楊國忠哥舒幹と隙あり之を要して敵軍



を靈貴に拒がしめて大敗す思明北ぐるを追ふて長安に至る玄宗出て、蜀に奔りて馬嵬に次す將士逼りて楊氏の一族を殺す劍閣横雲峻、鑾輿出狩回翠屏千仞合丹摩五丁閑、瀧木繁嶺轉、仙雲拂馬來、乘時方在德、嗟爾勤銘才、とは當時帝が作にかゝる白樂天が花鈿委地無人收、翠翹金雀玉搔頭と貴妃の死を詠じたる者なり太子亨も亦帝と共に蜀に入らむとす父老道を避りて滯留を請ひ李輔國も亦之を德憑す帝即ち止りて平涼陝西省内に居らしむ敵軍勝に誇りて日夜聲色を繼にし敢て之を究追せず是を以て太子は北行して靈武甘肅省内に入り玄宗亦成都に着して皆事なきことを得たり久しからずして太子遂に禪を受く是を肅宗皇帝となす京兆の李泌幼より才敏の名あり嘗て帝と布衣の交あり是に至りて之を召し事大小となく之と謀る回復の功泌が力多きに居る此時祿山其子安慶緒に殺され別將尹子奇睢陽を陥る張巡等節に死す上郭子儀をして回紇及び西域の兵を發して之を討たしめ二京を復す慶緒鄴に走る史思明之を殺して其軍を并せて降る久しからずして亦反す李走弼をして之を征せしむ走弼號令嚴正にして屢々敵を敗る思明が子朝義遂に思明を殺して自立す其將李懷仙また朝義を斬りて降る餘黨みな平ぐ

### 第四章 唐代の衰亡

安史の亂前後八年にして平定せりと雖も是れより唐代の衰亡を生ずるに至れり其原因二あり

第一官宦の専横初め太宗制を定めて内侍省に三品官を置かず黃衣庫倉門を守り命を傳ふるに過ぎざりしが玄宗に至り高力士嘗て太平公主の亂を平ぐるに力ありたるを以て右監門將軍となし内侍省事を知らしむ其後官者増して三千人に至る然れども高力士過を補ひ遺を拾ひて啓沃する所あり然るに肅宗の時張淑妃寵あり宦者李輔國之と結托して機密に參與し詔命を宣傳す勢朝野を傾く後更に隙を生ず肅宗崩するに及び輔國宦者程元振と共に張后を弑して遂に代宗を立つ功を以て博陸王に封せられ程元振また驍騎大將軍となる全時に宦者魚朝恩あり肅宗嘗つて觀軍容宣慰處置使となし李郭の軍を監せしむ數々掣肘して兵機を誤る帝之を責めずして却て李郭を貶す代宗の朝に至りて専ら禁兵を總べて勢炎薰遂に國子監に判たり後皆誅竄に處せられたれども宦官の禍端は實に此時より生



第二藩鎮の強梁唐初周隋の制によりて總管府を諸州要害の地に設けたりしが睿宗の時に至りて節度大使と稱す玄宗の時に至り邊境を防禦せむが爲めに更に十節度を設く安西節度は龜茲に在りて西域を防ぎ北庭節度は北庭都護府に在りて突騎施(西突厥)別種堅昆を防ぎ河西節度は涼州に在りて吐蕃突厥を斷隔し朔方節度は靈州に在りて突厥を捍禦し河東節度は太原府に在りて朔方と接角して突厥を禦ぎ茫湯節度は幽州に在りて奚契丹を臨制し平盧節度は營州に在りて室韋靺鞨を鎮撫し隴右節度は鄯州に在りて吐蕃に備へ劍南節度は益州に在りて西吐蕃に抗し南蠻獠を撫す嶺南節度は廣州に在りて南海地方を綏靜す凡そ鎮兵四十九万人馬八万餘疋なり此等の節度使は其土地人民財賦を掌り之に加ふるに兵力を以てす既に隱然たる一敵國なり安史の一舉して天下を聳動したるを見れば其勢力の既に過大にして中央政府と相適せざるを知るべし而して更に兵制の紊亂を以てす初め太宗意を兵制に用ひ頗る本末の勢を權制したり李泌が德宗に語るに「府兵平日皆田畝に安居し每府に折衝ありて之れを領す農隙には戰を教へ事あれば徵發す則ち符契を以て州府に下し參驗して之を發し期する處に至るとは是れの謂にして所謂兵農一致の時なり然るに此制自然に壞敗して成兵多く逃亡す是に於て玄宗の朝張說議を立て、壯士を募集して宿衛に充つ凡べて十二万人之を驍騎と云ふ兵農の分此れより始まる然るに此法はもと召募に出づる者なれば従前の如く國家が義務的精神を喚發せしめて編制したるものと同日の談にあらず李泌が所謂兵士着せざる故に自ら重情せず身を忘れて利に徇へ禍亂遂に生ずるは勢の必然なり故に遂に市人を募りて以て備ふるに至る既に召募を以て兵士を聚むる時は之を優遇せざるべからず是故に太宗の初制によれば諸道軍を出す時は則ち給を度支に仰くに止まりしに德宗に至りては之に加ふるに其境を出づる毎には酒肉を加給し本道にて仍ほ其家に給す殆んど一人にして三人の給を兼ね故に將士徒らに之を利とし命に應じて軍を出すも纔に境を出て、止むのみかゝる不規則なる兵隊を以て讎衛さるゝ所の中央政府は如何ぞ克く四方を征ずるとを得んや陸贄が所謂重きに居りて輕きを馭するを失ひ根を深くして抵を固くするの慮を忘れたる者と云ふべし



初め肅宗の乾元元年平盧節度使王玄志薨じたる時裨將高麗人李懷玉玄志の子を殺して親族侯希逸を立つ朝廷是れを正すこと能はずして其請を允す節度使の軍士によりて廢立せらるゝこと此を始となす其後代宗の朝史朝義降服の時に至りて朝廷征討の將僕固懷恩の請により其降將四人を以て邊境十大鎮の例に倣ひて直ちに之を節度使となす蓋し朝廷も亦兵革を厭苦して無事を願ふ其歡心を得んと欲すればなり即ち薛高張忠志日承嗣李懷仙等をして分ちて河北を鎮せしむ是に於て諸鎮自ら應援をなして王命に抗す

安史の亂朝廷兵を回紇に借りて頗る功あり是を以て彼等常に之を輕侮す是時邊備の精銳なる者皆徵發に應じて入援し留まる所の兵頗る羸弱なり是に於て吐蕃之を蠶食し遂に盡く河西隴右の地を取る更に吐谷渾黨項氏羌二十餘万衆を率ゐて長安を襲ふ代宗出でて陝州(河南省内)に走る當時宦者程元振權を專にして上下を壅塞し諸將の大功ある者は皆之を害せむとす是故に士氣克く奮はず漸く郭子儀の入援によりて敵を驅逐し再び長安に還ることを得たり其後僕固懷恩叛して更に回紇吐蕃を誘ひて入寇す朝廷震駭す然れども懷恩道に死して二國強を争ひ相和せず郭子儀人をして回紇に説かしめ共に吐蕃を擊たむとす吐蕃之を聞きて遁れ去る回紇功を以て入見を許され前後贈寶の緡帛十万匹に及ぶ府藏空竭す即ち百官俸を税して以て之を給す其後公主を降して婚嫁を結び甥舅の國となりたること猶漢の匈奴に於けるが如し

内外の勢此の如し楊緒の如き賢相ありたれども時を益する能はず代宗在位十八年にして太子迨立つ是を德宗皇帝となす

帝即位の初め精を勵まして治を求む宰相崔祐甫頻りに入才を登用す是を以て政治清明にして藩鎮も漸服す崔祐甫楊炎を薦めて相となす炎兩税の法を立つ

唐初均田租庸調の法あり男女始めて生るゝを黃となし四歳を小となし十六を中となし二十を丁となし六十を老となす丁中の民に田を給すると一頃にして十の二を世業となし八を口分となす歲毎に粟二石を入る之を租といふ調は土地の産物にして庸は二旬の歳役を云ふ歲ごとに計帳を造り三歲毎に戶籍を改めて以て班田收授を嚴にす然るに其法寢壞ぶれ玄宗の時既に宇文融の請によりて天下の戶口を檢括せしむ其苛酷に涉れるを以て人頗る之を怨みたり安史の亂後國家益



多事にして國費給せず藩鎮内に傲りて夷狄外に跳梁す天下の戸口什に八九を亡して貞觀より以來百三十餘歳間の豊富一朝にして盡せられ邑里蕭然たり徳宗の貞元二年の記によるに是れより先關中倉廩竭く禁軍或は自ら巾を脱して道に呼びて曰はく吾を軍に拘へて糧を給せざるは吾が罪人なりと上之を憂ふることを甚し會々糲米三方斛を運びて陝に至る上喜びて太子に謂ひ曰はく吾れ父子生を得ば時に此歳饑饉兵民率ね皆黎黑なり麥熟するに及びて市に醉ふ者あり人以て瑞となす然れども人乍ち飽食し死する者頗る衆し數月にして人の膚色乃ち故に復すと詩史の稱ある杜子美が無家別に曰はく寂寞天寶後國虛但蒿藜我里百餘家世亂各東西存者無消息死者爲塵泥賤子因障敗歸來尋舊蹊又石壕吏に曰はく暮投石壕村有吏夜捉人老翁踰牆走老婦出門看吏呼一何怒婦啼一何苦と滿眼の風景慘淡たるかな

代宗の時劉晏嘗つて度支に判たり善く財を理む諸道に知院官を置きて雨雪豐歉の状を知り善走者を募り或は遞傳によりて四方の物價を知りて以て貴賤の權を制す是れ以て四方困弊流弊の患なく戸口蕃息す其の始めや天下見戸二百万歳入

四百萬兩に過ぎざりしか季年に至りて三百万戸千餘萬兩に上ばれり又常平鹽を置きて官民共に其利を得たり

徳宗嗣ぎ立つに及びて楊突即ち議を建て、一切の租庸調雜徭を省き先づ州縣毎歳用ふる所及び上供の數を計りて人に賦し戸は主客となく見居を以て簿となし人は丁中となく貧富を以て差となす行商の者は在所の州縣より三十分の一を徴す居人の税は秋夏に之を兩徴す故に兩税法と云ふ天下果して之を便とす

是時に當りて藩鎮の勢愈強大なり代宗の時平盧將李懷玉節度使侯希逸を追ひ自ら留後となる帝因て之を授け名を正己と賜ふ是に於て十五州(山東省内)を領し帶甲十萬鄆濮魯之を畏る天雄軍の田承嗣は魏博(直隸省大名府)に據り成徳軍の李寶臣は鎮冀(直隸正定府)に據り各々衆五萬を擁す相與もに朝廷に奉事すと雖も其法令を用ひず官爵甲兵租賦刑殺皆自ら之を専らにし且土地を以て子孫に傳へむことを期す是を以て田承嗣の死するや李寶臣朝廷に強請して節を以て田悅に授けしむ是れ實に代宗の大曆十四年なり其他盧龍幽州直隸省順天府にありの將朱希彩は李懷仙を殺したりしも之を正さずして直ちに其鎮を領せしむ然るに別將



た希彩を殺して朱泚を立つ泚入朝して弟滔を留後となす朝廷また之を許す淮西  
 (今の河南省地方にして蔡州の彰義軍と稱す)の將李希烈また節度使李忠臣(舊名董  
 秦)を追ふ朝廷之を正さずして直に鎮を授く是に於て德宗前弊を革め朝威を新に  
 せむとす偶々李寶臣卒す田悅屢々爲に其子李惟岳の繼襲を請へども上許さず曰  
 く賊本と資なくして亂をなす皆我土地を藉り我位號を假り以て其衆を聚むるの  
 み爾日其欲する所に因りて之を命ずること多し而して亂日に益々滋し是れ爵命  
 以て亂を已むるに足らずして適以て亂を長ずるに足ると悦乃ち李正己李惟岳と  
 共に反を謀り兵を發して臨洛を圍む守將張伾壁を堅くして拒守す河東節度馬燧  
 昭義(山西省に在り)節度使李抱真神策先鋒都知兵馬李晟來援し大に悦を破り更に  
 進んで之を洹水に破る既にして惟岳の別將張孝忠朱滔と好を通じて惟岳の領土  
 深州を圍み更に之を來鹿に破る別將王武俊また子士眞と謀りて惟岳を殺す此時  
 李正己既に死して子納繼ぎ其勢の非なるを見て降を朝廷に請ふ中使宋鳳朝の言  
 によりて之を許さざりしかば復び田悦と合す朱滔王武俊また朝廷の功賞に快か  
 りず田悦之を知りて王僧等をして滔に説くに禍福を以てす滔之を喜び更に王郛  
 をじて王武俊に説がしめ相與に兵を擧げて悦に應ず是に於て李希烈をして李納  
 を伐たしめ馬燧李抱真及び朔方節度使李懷光をして田悦王武朱滔等を防がしむ

懷光等敵と陝山に戦ひて大敗す是に於て滔は冀王と稱し王武俊は趙王と稱し李  
 納は齊王と稱し田悦は魏王と稱し以て攻守同盟を約す李希烈も亦兵を擧げて朱  
 李に應じ自ら天下都元帥と稱す帝盧杞に聽きて顔眞卿をして之を曉さしむ希烈  
 之を捕ふ更に哥舒曜をして之を防がしむ  
 これより先陝山の敗に當り馬燧和を朱滔に勸む滔之を諾せむとせしに王武俊以  
 て不可となす爾來嫌隙日に深し李抱真即ち參謀賈林を復して武俊に説かしめ陰  
 かに約する所あり既にして李希烈來りて襄城を侵す經原節度使姚合言詔を奉じ  
 て五千人を將る京師に至る朝廷糧食菜餚を以て之を遇せしかば衆大に怒り合言  
 と共に急に帝宮を襲ふ上倉皇出て奉天に入る亂兵朱泚を擁して太秦皇帝とな  
 す段秀實之に死す朱泚更に進んで奉天を犯す韓遊瓌瑋瑊等之を拒ぐ李懷光李晟  
 變を聞きて入援し遂に圍を解く  
 初め上東宮にありしとき監察御史嘉興の人陸贄の名を聞く位に即きて召して翰



林學士となす賢忠讜にして時情に通ず、敵と書を上りて事を言ふ。是に於て上に勸め大赦して己を謝せしむ。制に曰はく、理を致し化を興す、必ず賊を推すに在り、己を忘れ人を濟ふは、過を改むるに吝ならず、朕嗣服や、丕構なり、萬邦に君臨して、宗祧を守ることを失ふ、草莽に越在して徳に率ふを念はず、賊に既往を追ふなく、永く言に咎を思ひて、將來に復あらむことを期す、明かに其義を徴して、天下に示す、小子徳の嗣かざるを懼れて、敢て怠荒するなきも、深宮の中に長じ、經國の務に暗きを以て、積習溺れ易く、安に居り危を忘れて、穉穉の艱難を知らず、征伐の勞苦を恤へず、澤下を究むるなく、情未だ上に通ぜず、事既に擁隔せられて、人疑阻を懷く、猶己れを省するに昧くして、遂に用て戎を興す、上祖宗を累はして、下蒸庶に負く、痛心視鏡、罪實に予に在り、李希烈、田悅、王武俊、李納等、咸な勳奮を以て、各々藩維を守りしに、朕撫御方に乖きて、其疑懼を致たす、皆上其道を失ひて、下其災に罹る、朕實に不君なり、人則ち何の罪かある、宜く所管の將吏等を并せて、一切之れを待つて、初の如くすべし、朱滔は朱泚に縁りて連坐すと雖も、路遠ければ、必ず謀を同らせず、其奮勵を念ひて、務て弘貸に在り、如し能く順を效さば、亦與に惟だ新にせむ、朱泚、天常に反易して、名器を盜竊し、陵寢を暴犯す、言ふに忍ひざる所罪を、祖宗に獲たり、朕敢て赦さず、加ふる所の墾陌、錢税、間架、竹木、茶、權、鐵の類、悉く宜く停罷すべし、是に於て四方人心大に悅び、山東の士卒感泣する者あるに、至れり而して、上亦竊かに田悅、王武俊、李納に通ずる、其罪を赦して、官爵を與ふべきを以て、す悦の別將許士則も亦悦に説く所あり、武俊も亦田秀をして、悦と進退を約す而して、滔は知らざるなり、悦等遂に上表して、罪を謝し、各王號を去る、是れより先、李懷光の入援するや、盧杞の讒間によりて、朝廷を怨む亦李晟と隙あり、是に至りて兵を擧げて、反し以て朱泚に結ぶ、上梁州(漢中府)に走る、然れども久しからずして、泚と隙を生じ、且反、後臣下多く服せざるを以て、自ら持する能はず、遂に河中に走る、李晟意を決して、朱泚を長安を攻む、瑯城、戴休顔、韓遊瓌等之に従ふ、泚が將張光晟之に内應す、泚出奔して、韓旻に斬られ、餘黨皆平ぎ、天子長安に入ることを得たり。

是れより朝廷日に強く、魏博の田緒は田悅を殺して命を奉じ、馬燧は李懷光を誅し、幽州の朱滔は死して、劉將留後となり、淮西の將陳仙奇は李希烈を殺し、少誠亦仙奇を殺す、朝廷因て鎮を鎮せしむ、吐蕃入寇したれども、得る能はずして去れり。



德宗初政務めて寛大を尙びて貞觀の風ありしも盧杞を任む裴延齡を用ふるに及びて群小帝の性多忌なるを知り因りて疑似をなして群臣を離間し亦上に勸めて嚴刻を以て下を御せしむ之に加ふるに官宦の益々強盛なるあり故に李泌陸贄等ありと雖も遂に回復の功を奏すること能はざりき且兵戈日に止まざるを以て租税日に増し遂に兩税の外諸税を徴すに至れり即ち章都實等の議に従ひ杜佑をして富商の錢を括せしむ凡そ商賣本錢千萬に過る者は其餘を貸出せしめ又錢帛粟麥を蓄積する者は皆四分の一を貸さしむ後日償還の名あるのみにして誅求至らざるはなく長安竊然寇盜を被るが如しまた陳少遊の議に従ひ田税及び商税をはずべて千毎に二百を増すまた趙贊の議に従ひ税間架除陌錢を課す税間架は家屋税にして屋二架を一間となし一等二千二等千三等五百に至る除陌錢とは貿易税にして賣買はすべて舊法千錢につきて二十を税せしに増して五十に至らしむ皆連坐の法を設けて互に告訐せしめ忿怨の聲道に盈つ而して帝また數々宮内の私費を索む貞元三年(希烈等の死したる翌年)の紀に曰はく是歲最も豊稔たり米斗とどに直錢百五十粟八十なり所在に詔して和糶す庚辰上新店に收して民趙光奇が

家に入り問ふ百姓樂きか對へて曰はく樂しからず上曰はく今歲頗る稔す何爲れぞ樂しからざる對へて曰はく詔令信ならず前きに云ふ兩税の外悉く他徭なしと今税にあらざして誅求する者殆んど税に過ぐ後又和糶と云ひて實は之を強取し曾つて一錢を購らざ始め云ふ糶する所の粟麥は道次に納ると今は則ち京西行營に致さしむ動くこと數百里車擡け馬斃れて破産支ふる能はず愁苦此の如し何の樂か之れ有らむ詔書の優恤あることに徒らに空文のみ恐くは聖主深く九重に居りて皆之を知らざるならむと帝在位廿七年にして崩す太子誦立つ是を順宗皇帝となす

順宗の太子たりし時王伾書を善くし王叔文書を善くするを以て俱に寵あり位に即くに及びて皆大政に參與す陸淳柳宗元劉禹錫等は當時の有名なる學者なり皆之と結托す帝また風疾に罹りて音を失し事を決する能はず宦者李忠女宦牛氏等事を用ふ在位八月にして太子純其位を嗣ぐ是を憲宗皇帝となす

元和元年西川節度使劉闢反す闢はもと韋皋の副師たり皋が卒するに及びて自ら留後となる帝初め位を闢ぐを以て強て之を許せしが此に至りて更に三川を兼領



せむことを求む帝許るざりしかば遂に兵を擧げて梓州を圍む杜黃裳嘗つて帝と藩鎮を論じて曰はく徳宗憂患を經しより務めて姑息をなして生除せず節使物故するあるときは先づ中使をして軍情の與ふる所を察せしめて則ち之を授く中使或は私かに大將の賂を受け歸へり之を譽むれば則ち旌鉞を降す未だ嘗つて朝廷の意ありざるなり陛下必ず先づ紀綱を振擧せむとせば宜く稍々法度を以て藩鎮を裁制すべしと是に於て或は蜀の險固にして取り難きを議する者ありたれども帝遂に杜黃裳の德意に従ひ意を決して高崇文に命じて之を伐たしむ崇文勇略あり武都に入り關を執ひて之を京師に斬る夏綏節度使韓全義入朝して其甥楊惠琳を以て留後となす杜黃裳全義が無能にして不遜なるを奏して直に致仕せしめ李愼を以て之に代ふ惠琳兵を勸して之を防ぐ部將張承金惠琳を斬りて降る夏蜀既に平きて藩鎮惕息す鎮海節度使李錡自ら安んせず入朝を求む上之を許す然れども實に來意なく屢々期を變ず武元衡奏して曰はく錡朝を求むれば朝を得止むるを求めば止むるを得可否錡に在り將た何を以て四海に令せむと錡遂に反す別將張子良等之を捕へて京師に腰斬す

是時に當り河北諸鎮既に數十餘年の星霜を経て皆一敵國の如し然るに魏博の田季安田緒の後卒するに及び軍政頗る亂る將士田興を推して首となす興使を發して吏を請ひ奉貢す李絳奏して曰はく魏博五十餘年皇化に霑はず一旦來歸すもし重賞めらざるば則ち以て士卒の心を慰め四隣をして勸慕の志を生せしむるなげむと帝則ち裴度をして魏博に至り軍士を頌賞し興に名を弘正と賜ひ百姓を給復すること一年なり四隣果して皆歸服の志を生ず

初め彰義の節度使吳少陽吳少誠の後陰に亡命を養ひて不臣の志あり死後其子元濟自ら軍務を領し董重質を延きて謀主となし兵を縱ちて侵掠し東都に及ぶ宣武等十六道に命じて之を征す李師道李納の子王承宗王武俊の孫父祖の積威に因りて久く朝廷を輕んず元濟使をして救を求めしむるに及び二人數々上表して其赦を請へども許さず是に於て李師道惡少年を募りて陰かに東都の積聚を燒きまた武元衡を刺殺し裴度を傷けしむ二人は帝を贊けて兵を起さしめたる者なり而して朝廷派遣の將嚴綬韓弘の如き皆環視して敢て淮西を攻めず財帛日に究して群情恟々たり李逢吉等皆之を止む帝益々聽かず更に裴度をして之を征せしむ度曰



はく臣若し賊を滅さば則ち天に朝すること期あり賊在らば即ち闕に歸へること日なげむと上爲めに流涕す部將李光顔李愬烏重胤みなよく兵を用ふ愬賊將李祐の計にあり雪夜兵を引きて蔡州城を襲ひ元濟を捕へて之を京師に斬る淮西四年にして平ぐ平盧都將劉悟また征討の將田弘正に應じ李師道を執へ之を斬る王承宗また賈を納れて吏を請ひ德棹二州を獻ず是に於てか河北六十餘年間の跋扈せる勢力も全く滅して皆朝廷の威を仰ぎ約を奉するに至れり韓退之が平淮西碑に曰はく淮蔡爲亂天子伐之既伐而饒天子活之始議伐蔡卿士莫隨既伐四年小大並疑不赦不疑由天子明凡此蔡功惟斷乃成既定淮蔡四夷畢來遂開明堂坐以治之と憲宗英斷實に能く積弊を匡正せり

帝又心を政事に用ひ屢策試以て人才を登用す崔群白居易韓愈皆一時の選にして讜議正論す是を明て朝政清明貞觀開元に繼ぐに足る文學も大家鉅匠輩出す然れども末年浸々驕侈に流る皇甫鏞度支を司り程異鹽鐵を管するに及び數々羨餘を進めて以て其費に供す是に由りて寵あり遂に同平章事宰相となる朝野駭愕市井の負販者に至るまで亦之を嗤ふまた神仙を信じて不死藥を鍊らしめ方士柳

秘の如きは遂に盛州刺史となる裴度崔群等謀むれども聽かず曰く一州の力を頼はじて能く人主の爲に長生を致さば臣子亦何をか愛まむと帝遂に其金丹を服じて數々暴怒し遂に暴崩す在位十五年なり或は云ふ宦者陳弘志等之を殺すと蓋し唐帝丹藥を信せし者頗る多し太宗穆宗敬宗武宗宣宗皆是れなり太子恒立つ是を穆宗皇帝となす

河北も憲宗の英武により一時降服したれども是に至りて亦反せり初め盧龍節度使劉總奏して其所屬を分つて三道となし張弘靖薛平盧士政に屬せしむ弘靖雍容驕貴にして軍士の心を失ふ將士遂に之を殺じて朱克融朱滔の孫を推して主となす王庭湊其主將田弘正を殺して自ら成德節度使となる史憲誠また其主將田布(弘正の子)を殺して自ら魏博の節度使となり之を征したれども克たず仍て皆之に任ず長慶二年の紀に當時の事狀を記して曰はく上の初め即位するや兩河略ぼ定まる蕭俛段文昌當時の執政以爲へらく天下己に太平なり漸く宜く兵を消すべしと請ふて密かに天下軍鎮有兵の所に詔し毎歳百人の中八人の逃死を限とす上乃に荒宴國事を以て意となさず遂に其奏を可とす軍士落藉する者衆く皆山澤に聚



りて盜をなす朱克融王庭湊亂を作すに及びて一呼して亡卒皆集まる詔して諸道兵を徵して之を討す諸道兵既に少なく皆臨時召募烏合の衆なり又諸節度既に監軍あり其偏軍を領する者亦中使を置きて陳を監せしむ主將號令を専らにするを得ず戰少く勝てば則ち監軍中使驛を飛ばして捷を奏し自ら以て功となす勝たざれば則ち主將を脅迫し罪を以て之に歸す悉く軍中の驍勇を擇びて以て自衛し羸儒者をして戰に就かしむ故に戰ふことに敗る又凡そ用兵の舉動皆禁中より授くるに方略を以てす朝令夕改従ふ所を知らず可否を度らず惟々督して速戰せしむ中使道路織るか如く驛馬足らず八馬を掠行して以て之に繼ぐ故に人敢て驛路より行かず故に諸道十五万の衆裴度の元臣宿望烏重胤李光顔の皆當時の名將なるを以てすと雖も幽鎮万餘の衆を討するに屯守年を踰えて竟に成功なく財竭き力盡く崔植杜元穎相たるも皆庸才にして遠略なし史憲誠既に田布を逼殺して朝廷討つ能はず遂に朱克融王庭湊を并せて節を以て之に授く是れより再び河朔を失ひ唐亡に迄るまで復た取る能はずと憲宗の吳元濟を平定せしより是に至るまで五年を經たり(皇紀後唐千四百八十二年)

帝遊敗によりて賜與節なし李珣丁公著等諫むれども聽かず唐政是に至りて全く頽敗す帝在位四年にして崩す太子湛立つ之を敬宗皇帝となす帝遊行常なく群小を昵比す帝在位二年にして宦者劉克明之れを弑して絳王悟を立つ宦者王守澄等逆黨を誅して江王涵を立つ是を文宗皇帝となす帝精を勵まし治を求め蒼を去りて儉に從ひ奇日毎に宰相群臣を召して政事を延訪す中外翕然相賀して太平冀ふべしとなす然れども此時に當りてや既に二大痼疾の膏肓に入るあり扁鵲また起るども朝政の平癒それ期し難きか

第一宦官の禍東漢及び宋明の宦官主權を竊みて天下を肆虐すと雖も之を唐に比すれば猶ほ淺し肅代二帝の時既に萌芽を生ぜしも未だ甚きに至らず德宗の時涇師の變に當り禁軍倉卒徵集に及ばざるに懲り遷京の後武臣を以て禁兵を典らしめず別に神策天威諸軍を置き内官竇文場霍仙鳴等をして之を主らしめ又樞密の職を設けて詔旨を承受し王命を出納す是に於てか文武の權宦官に歸するに至れり穆宗以來八世にして内宦官に立てらるゝ者實に七君なり穆宗は陳宏志に文宗は王守澄に武宗は仇士良に宣宗は馬元贇に懿宗は王宗實に僖宗は劉行深に昭宗



は揚復恭に立てらる是其帝室に災したるなり又朝廷宦官を派して四方を巡察せしめ或は軍を監せしむ是を中使或は監軍と云ふ而して此等の復命するや徒らに聰明を盡き壘塞を事とし兩間に立ちて私利を營むに過ぎず然らざれば軍將を擧時す安祿山をして征繕の暇を得せしめたるは輔瓊林が厚賂を得其反心なきを奏したればなり高仙芝封常清が僅に一敗の罪によりて戮を受けたるは邊令賊の奏言によるなり僕固懷恩王資臣の叛したるは駱奉先馬承倩の之を激怒せしめたるなり李光弼の忙山に敗れたるは魚朝恩が軍事に容喙したるを以てなり憲宗の英明を以てすら吐突承璀を寵したり穆宗敬宗にありては宮市五坊の擅横あり是に於て上親ら制舉を試むるに當り劉蕡對策して其禍を極言す考官嘆服したれども宦官を憚りて敢て取らず全年の裴休李邵杜牧等曰く劉蕡下第我輩何の顔ありて登科せむやと上もまた王守澄等が定策の功を恃みて擅恣なるを憤ふれども之を奈何ともする能はず

第二朝臣の朋黨初め憲宗の元和三年制舉の士を策試せし時牛僧孺皇甫湜李宗閔等皆時政の失を陳して且當時の宰相李吉甫に及ぶ吉甫之を惡みて其仕途を妨ぐ黨禍是れより生ず故に憲宗既に李絳に問うて曰はく人言ふ外間朋黨太だ盛なりと何の謂ぞや絳曰はく古より小人君子を譖する者必ず朋黨と曰ふ蓋し之を言ふば即ち惡むべく之を尋ねれば即ち跡すべきなし此を以て之を目するときは則ち天下の賢人君子能く免る者なしと當時既に黨派の軋轢せしを知るべし穆宗の長慶元年に至り楊汝士錢徽貢舉を掌る西川節度使段文昌翰林學士李紳各々善くする所の進士を徴に屬せしに及第したる者宗閔の婿蘇巢汝士の弟段士等にして他皆與らず文昌之を上に訴ふ李德裕は吉甫の子なり故に宗閔と隙あり學士元稹もた宗閔と進取を争ひたるを以て之を恨む是を以て曾文昌の言を贊す是に於て更に再試をなして蘇巢等を却け宗閔徽汝士等を取す是れより德裕宗閔各々朋黨を分ちて更に相傾軋し朝廷に進退すること四十年に垂んとす文宗の太和五年李德裕出せし西川節度使たり鎮に至り邊境を作りて士卒を練り堡障を營じ糧儲を積む時に吐蕃の悉怛謀密かに其衆を帥ゐて成都に來り降を請ふ德裕之を受く宗閔の黨牛僧孺奏して曰はく叛將を受るは信を隣國に失ふなりと即ち詔じて之を遣はす二黨の隙是に由りて益々深し文宗毎に嘆じて曰はく河北の賊を去るは易



中の勝黨を去るは難しと

文宗初め意を決して宗申錫と宦官を誅せむことを謀る其黨王播之を泄らす鄭注王守澄等人をして誣奏するに申錫が廢立の策を建るを以てせしむ帝怒りて之を黜く坐して死徒する者數十百人なり既にして上風疾あり鄭注をして藥を止らしめ頗る驗あり注巧譎傾詔よく人意を揣る故に上其蓄惡を忘れて遂に之を罰す李訓また王守澄によりて上に見ゆ口辨文辭ありて權數多し上之を悦ぶ二人上の宦官を制するに意あるを知りて數々微言を以て上を動し遂に密旨を得朝夕計議す即ち先づ宦者仇士良を以て神策中尉となし以て王守澄の權を分ち宦者陳弘志を誅す尋ぎて更に王守澄を鳩殺し之を澧水に葬る是れより先訓注と勢を争ひ之を出して鳳翔節度使となす是に至りて注訓に約するに葬事を以て盡く宦官を澧水に集め一舉誅滅せむことを以てす訓以爲らく事成らば則ち注専ら其功を有せむと更に其親將韓約宰相舒文興等と謀り期に先ちて事を舉げむとし奏して曰はく左金吾聽事の後に甘露降りると上即ち仇子良等をして其信否を驗せしむ士良等

て訓等を捕へしめ盡く其黨を誅して孩穉も遺すなし世之を甘露の變と云ふ是れより天下の事皆北司に決して宰相文書を行ふのみ上嘗つて曰はく報獻は制を疆諸侯に受く今朕は制を家奴に受くと當時の大勢は杜牧の戰論にあり曰はく河北氣俗渾厚戰耕に果にして加ふるに土に健馬を畜へて敵に馳するに便なるを以て是を以て出づれば則ち勝ち處れば則ち饒かなり天下の産を窺はざして自ら封殖すべきこと亦猶大農の家珠璣を待て然る後以て富となさるか如し國家河北なきときは則ち精甲銳卒利刀良弓健馬有るなきなり是れ一支兵去るなり河東盟津滑台大梁彭城東平盡く厚兵を宿じて以て虜衝を塞ぎ他使すべからず是れ三支兵去るなり六鎮の師其數三億首を低れ給を仰きて横拱爲さず則ち淮に沿ふより以北河に循ふ以南東は海を盡し西洛を叩くまで赤地盡く取りて財能費に應ず是れ三支財去るなり咸陽西北戎夷大屯盡く吳越荆楚の饒を割りて以て戍兵に啖はす是れ四支財去るなり天下四支盡く解く頭腹兀然其れ能く是を以て久く安じとせむか文宗在位十五年にして崩す宦者仇士良等太子成美を廢して穎王漣を立つ是を武宗皇帝となす



武宋の時李德裕重用せられて頗る相業あり昭義節度使劉稹自ら其父從諫の後を繼ぎて軍府を領す河東都將楊弁また亂をなして節度使を逐ふ德裕建議皆之を征服す帝在位六年に於て崩じ官者馬元贇等策を禁中に定めて憲宗の庶子忱を立つ之名宣宗となす帝明察沈断にして民物を惠愛し唐人稱して小太宗と云ふ令狐綯其漢當時の人材にして帝皆之に任ず肅宗以來河湟甘肅地方盡く外夷に占領せられしも是に至りて吐蕃回紇黨項等皆衰ぶ帝即ち畢誠等を以て之を招降せしめ盡く其地を復す懿宗の末年に至り再び羌胡に領せらる然れども宦官の疆梁藩鎮の版圖は依然たり帝在位十三年にして崩す官者王宗實等與に太子惲を立つ是を懿宗となす

今日の雲南再び南掌地方老鴉或は哀牢夷の稱ありは王化の沾はざる所たり孔明が所謂瀘水とは此地方にあり其地姚州(雲南省楚雄府内)の西にありて東南交趾に接し西北吐蕃に接す六部落あり曰はく蒙舍蒙越越析浪穹檉備越澹にして王を昭と云ふ兵力相均くして能く相統するなり蒙舍最も南にあり之を南詔と云ふ高宗の時蒙舍の細奴邏初めて入朝し二傳じて皮邏閣に至る浸を暹大にして五昭徵弱法り會及河瓊を平ぐるの功あり劍南節度使王昱に賂ふて玄宗に請ふに六部を併じて一となさむことを以て昱之れがために奏請す朝廷之を許して名を歸義と賜ふ韋牟が西川に在りし時青溪道を通じて以て入貢せしめ且其子弟を招聚して教ふるに書數を以てし以て之を慰悦彌廣す此の如き者五十餘年にして其數増して常に千人に上る軍府頗る稟給に厭く又蠻使入貢するごとに賜與を利して從者益々多し杜棕西川を領するに及びて奏請して其數を節減す是れより互に隙あり遂に酋龍皮邏閣六世孫に至り自ら皇帝と稱して國を大理と號し建極と改元し播(貴州遵義府)廣(廣西南寧府)を陷る

安南地方は漢武以後中國に所屬となり三國の時更に嶺南を分ちて廣州交州となし合浦(廣東省廉州)を以て其分界となす今日の安南は此合浦以南即ち交州の稱なり唐太宗に及びて之を嶺南道に屬せしめ分ちて交峯愛驪の四州となす高宗の時更に安南都護府を置きて之を鎮す安南の稱ある蓋し此に始まると云ふ世々唐に事へしが宣宗の晩年に至りて都護李泳政を爲すこと貪暴にして強ひて蠻中の馬牛一頭を出さしめて報するに僅に鹽一斗を以てするのみ又蠻酋杜存誠を殺し亦



峯州酋長李由獨の歡心を失す是に於て南詔之と通じて以て安南に寇し遂に交趾城を陥れ殺虜する所日に十五万人進んで邊境に入る朝廷諸軍を發して之を禦きたれども皆嶺南西道に逗遛して敢て進まず且輜重困難なるを以て徒らに歲月を費すのみ是に於て高駢を薦むる者あり以て安南都護となす駢は崇文の孫なり駢よく兵を用ひ交趾城を圍みて之を陥れ南詔遠く遁逃して安南遂に鎮定に歸す李涿より是に至るまで十年に垂んとす即ち靜海軍を安南に置きて駢を以て之が節度使となす是れより先浙東の賊夷甫劉暉劉慶等と共に兵を擧げて反し它道亡命無賴の徒四面雲集して勢猖獗なりしが王式に討破せられたり

初め南詔の役徐泗(皆安徽省内)に詔して兵二千を募りて赴援せしめ八百人を分ちて別に桂州(廣西省内)を成らしめ三年一代を約す徐泗觀察使崔彦曾性嚴酷なり成兵期に及びて代遷を請へども之を許さず是に於て許信等相共に龐勛を推じて主となして都將を殺して北徐州に還へり過ぐる所剽掠して州縣能く禦ぐなむ遂に徐州に至りて節度使を殺し諸郡を陥る招討使康承訓敕を奉じて之を討つ承訓朱邪赤心を以て沙陀人三千人を將ゐて前鋒となして之を攻めしむ當時十鎮(義成魏

博鄆延義武鳳翔橫海秦寧宣武忠武天平)の兵多しと雖も皆其驍勇に服す遂に賊將王弘立を澶水に敗り進んで其本據を突く龐勛遂に彭城に走らむとして道に死す沙陀は西突厥の一部處月の別種にして其居大磧あるを以て此名あり朱邪蓋し同音轉訛ならむ本と蒲類海の東に居る玄宗の時嘗つて一たび入貢す後回紇吐蕃等に屬せしが元和中に至りて又唐に附す是に至りて大功ありたるを以て赤心に姓名を李國昌と賜ひて大同軍節度使となる(山西大同府にあり)尋ぎて振武軍に遷る國家此の如く多事なりしにも關せず帝は路嚴婁保衡等の佞臣を寵用し奢侈太甚し咸通八年の紀に曰はく上好音樂宴遊殿前供奉樂工常近五百人毎月宴設不減十餘水陸皆備聽樂觀優不知厭倦賜與動及千緡曲江昆明瀟灑南宮北苑昭應咸陽所欲遊華即行不待供置有司常具音樂飲食幄帟諸王立馬以備陪從每行幸內外諸司扈從者十餘万人所費不可勝紀また其女文懿公主を葬りし時また佛骨を迎へしとき

如き皆奢靡を究極す是を以て唐業愈衰ふ帝在位十五年にして崩す宦官小子僂を立つ是を僖宗となす

是時に當りて朝廷には南牙(政府)北司(宦々)互に相矛盾して政令一ならず賦歛愈急



にして關東連年水旱なれども州縣實を以て聞せず百姓流殍すれども控斷する所なし盧摛の上書に曰はく臣竊見關東去年旱災自虢至海麥纒收秋稼幾無冬菜至少資者積蓄實爲麪著槐葉爲鹽或更衰廢亦難收拾常平不稔則散之鄰境今所在皆饑無所依投坐守鄉閭待盡溝壑是に於て所在群盜蜂起州縣兵少くて加ふるに承平日久きを以て入戰に習はず盜と遇ふごとに官軍多く敗る而して天子幼冲なるを以て政事に宜者田令孜に委し朝政日に亂る

王仙芝亂を唱へて黃巢之に應じ宛民を驅ると數万人遂に河南山南江淮諸州を侵掠す官軍將曾元裕之を董梅(湖北省内)に殪す然るに黃巢は進みて東都を陥れて直ちに長安を攻む帝出て、興元漢中府に走り尋ぎて成都に入る黃巢僭號して大齊皇帝と稱し唐の宗室を殺して遺類なし

李國昌の子を克用と云ふ蔚州(直隸省内)の兵馬使たり沙陀の朱邪盡忠等相計りて曰はく今天下大亂朝廷號令行れず此れ英雄功名を立て、富貴を取るの時なり李振武(國昌)の子勇三軍に冠たり若し輔けて以て事を舉げは代北舉ぐるに足らざるなりと會々防禦使段文楚軍士と隙あり盡忠等即ち克用に勸めて文楚を殺し遂

に自ら代る已にして女子官軍に敗ぶられ俱に逃れて鞏州に入る是に於て朝廷其罪を赦して賊を討ぜしむ克用沙陀を將ゐて來る賊之を憚りて曰はく鴉軍來ると連戰遂に長安を復す賊黨巢を斬りて降る

朱溫は碭山(河南省内)の人にして黃巢の別將たり後降りて名を全忠と賜ひて宣武節度使たり李克用嘗て之と會飲し酒に乗じて氣を使ひ頗る之を侵す全忠不平遂に之を襲ふ克用僅かに身を以て免る即ち表して全忠を討ぜむことを請ふ朝廷方さに姑息を務め但た優詔之を和解して曲直を辨せざるなり是を以て克用快々たり

河中節度使王重榮は黃巢の時京城回復の功あり田令孜が安邑の兩鹽池を領するに及びて之と隙あり蓋し兩鹽地は舊例によれば重榮の領なればなり令孜即ち重榮を徙して秦寧節度使(山東省内)となす重榮肯て之かず却りて令孜が十罪を奏す令孜弼寧節度使朱玫風翔節度使李昌符と結び兵を以て之を伐たしむ外勢と内力との連援此れより生ず

是に於て重榮救を李克用に求む克用兵を引きて河中に趣く京師震恐して土風翔



に走る長安復た亂兵に焚掠せらる洛陽の如きは百戸に満たざりしと云ふ朱玖襄王焜を立てしが久しからずして敗死し帝も此の如く四方に漂泊して在位十五年位を太弟に讓る是を昭宗となす

帝英氣あり前烈を恢復するの志ありたれども初志遂に成らず是時に當りて藩鎮及び四方の豪傑崛起して天下大に亂る鳳翔李茂貞華州韓建邠寧王行瑜等兵を擧げて關を犯して廢立を謀る李克用に鎮壓せられて敗る已にして克用晉陽に去るに及びて茂貞等再び驕横遂に關を犯す帝華州に走りまた京に入る當時長安宮室燔燒俱に盡く初め黃巢長安を侵して車駕出奔するに當り其徒も皆盜をなすこと久し故に四出掠略市肆を焚き人を殺して街に滿つ其李克用に敗ぶられて遁れ去るに及びまた宮室を焚き官軍も亦暴掠太甚し室屋人民存ずる者僅に什に六七のみ主衛留守となりて補營僅に一二を完ふするに過ぎず百官往て袍笏僕馬なきに至る是に至りて遂に空し趙翼が地氣の説頗る觀るべし曰く地氣之盛久則必變唐開元天寶間地氣自西北轉東北之大變局也秦中自古爲帝王州周秦西漢邇都之府秦姚秦西魏後周相間割據中略唐因之至開元天寶而長安之盛極矣盛極必衰理固然

也是時地氣將自西趨東北故突生安史以北其端自後河朔三鎮名雖屬唐僅同化外疆靡不復能臂指相使蓋東北之氣將興西方之氣已不能包舉而收攝之也東北之氣始興而未盛故雖不爲西所制尙不能制西々之氣漸衰而未竭故雖不能制東北尙不爲東北所制而無如氣已日薄一日帝居遂不能安於是玄宗避祿山有成都之行代宗避吐蕃有陝州之行德宗避涇師有奉天梁洋之行地之魘蹙不安知氣之消耗漸散迨僖宗走成都走興元走鳳翔昭宗走莎城走華州又被劫於鳳翔被遷於洛而長安自此夷爲郡縣矣當長安爲郡縣之時契丹安巴堅已起於遼此正地氣自西趨東北之真消息特以氣雖東北趨而尙未盡結故僅有幽薊而不能統一中原而氣之東北趨者則有洛陽汴梁爲之遮遷潛引如堪輿家所謂過峽者至一二百年而東北之氣積益固於是金源遂有天下之半元明遂有天下之全至我朝不惟有天下之全且又擴西北塞外數萬里皆控制于東北此王氣全結于東北之明證也

是時に當りて宦者劉季述權を擅にし諸王十一人を殺す帝宰相崔胤と之を誅せむことを謀る季述懼れて遂に帝を少陽院に幽して其親信を殺す崔胤密かに舊を朱全忠に致して反正を圖らしむ劉季述も亦許すに唐の社稷を以てし全忠猶豫未だ



決せず副供李振曰はく季述は二宦官のみ乃ち敢て天子を囚虜す公討する能はずんは何を以て復諸侯に令せむ且幼主位定らば則ち天下の權盡く宦官に歸せむと全忠大に悟りて蔣玄暉をして密かに胤と謀らしむ既にして崔胤神策將孫德昭と結びて劉季述等を誅し帝位を復したれども宦官の勢力援くへからず韓全誨張彦弘等猶兵柄を有し機を見て胤を去らむとす胤事急なるを以て密詔を蒙ると稱して全忠の兵を召す全忠即ち兵を發して大梁を出て奏請するに東都に幸せむことを以てす京師大に驚ろく全誨帝を劫して出奔し風翔の李茂貞に據る全忠之を圍む茂貞全誨を殺して帝全忠の營に至り俱に長安に還へる大に宦官を誅すること數百人冤號の聲内外に徹す其の出で外方に使用する者所在に詔して收捕して之を誅せしむ止だ黃衣幼弱三十人を留めて以て灑掃に供ふるのみ宦官の專横是に至りて滅ひたりと雖も天下の大權は既に唐室を去りて朱全忠の手中に在り恰も東漢の時に似たり唐の董卓たる朱全忠は先づ崔胤を殺して遂に帝に迫りて都を洛陽に遷さしめ尋ぎて之を弑して昭宣帝或は皇帝と稱すを立つ亦た之を弑して遂に自ら帝位を踐む是を後梁の太祖皇帝とす

唐高祖より是に至るまで二十世二百九十年にして亡ぶ時に我朝醍醐一千五百六十七年(洋紀九百七年)なり

### 第五章 五代の更迭

後梁の太祖朱全忠既に帝位を承けて名を冕と改め洛陽に都したりと雖も其の領する所現今の河南山東二省に過ぎず他は皆唐末諸藩鎮の割據する所なり然れども其名唐を承繼したるを以て一時勢威頗る盛なり惟太原の晋王李克用素より之と隙あるを以て敢て下らず唐室の回復を以て自ら任したりしが其後屢々梁兵に破ぶられ怏々として樂まざり存勗之を勵まして曰はく朱氏凶を究め暴を極め人怨み神怒る殆ど將に斃れんとす吾家世々忠貞を襲ぬ大人正に邊塞時晦以し其衰を待つべし奈何ぞ輕々しく沮喪をなし群下をして望を失はしめんやと克用之を奇として卒するに臨みて其位を襲かしむ是時梁兵來りて晋の潞州(山亞省潞安府)を圍む存勗一舉して其圍を解き威名大に擧がる梁主慙憤疾を加へ其子友珪に弑せらる第三子均王友貞之を誅して立ち汴(即ち大梁にして河南開封府なり)に都す既にして晋大舉して梁を伐ち李嗣源をして鄆州(山東省内)を攻めしむ王彦章よく



防きたれども遂に敗死す晋王進んで大梁に入る梁主自殺して國亡ぶ二君十七年  
なり

(三八三)

晋王存勗も唐を復するの意あり然れども其梁を攻めて魏州に至るに當り傳國  
璽を得たり將佐皆勸めて遂に帝位に就かしむ國を大唐と號す莊宗是れなり當時  
宦者張承業諫めて曰はく今河北甫めて定り朱氏尙存ず而して王遠かに大位に即  
く殊に從來征伐の意に非ずと是に至りて梁を滅して都を洛陽に遷す侍中郭崇韜  
謀略あり忠を竭して隠すなく人物を薦引す然れども宦者と隙あるを以て蜀を征  
したるの時讒せられて主將繼岌に殺さる

唐主初め勤儉以て天下に臨みしも戰勝の後意癢と驕り清暑樓を作て奢侈を極め  
孔謙を以て租庸使となして以て民財を糜す且幼より音律を習ひたるを以て伶人  
を寵し自ら粉墨を傳けて之と與に庭に戯る諸伶宮掖に出入して縉紳を侮弄し群  
臣憤怨敢て氣を出すものなし而して其尤も有力なる者を景進となす進好んで閩  
巷の鄙事を采りて以て聞す唐主亦之を嘉みし委するに耳目を以てす是に由りて政  
事に干預して勢威漸赫附する者皆寵位を得

是より先揚仁最命を奉じて瓦橋(直隸省内)を守ること一年將に歸へらむと唐主  
之を許さず更に留りて貝州(全省内)を成らしむ軍士皆憤怨す時に民間訛言あり郭  
崇韜繼岌を殺したりと或は云ふ唐主已に弑せられたりと人情愈々駭く仁最の部  
將皇甫暉遂に亂をなして仁最を殺し趙在禮を奉じて師となし鄴都による唐主李  
紹榮をして之を鎮撫せしめられたれども克たず更に李嗣源に命ず嗣源兵を將ゐて之  
を圍む部將張破敗等大に謀きて曰はく將士主上に従ふと十年百戰以て天下を得  
たり今主上恩を棄てゝ威に任ず貝州戍卒歸へるを思へども主上之を赦さずして  
曰はく城に克つの後當に盡く軍士を坑すべしと我輩初より叛心なし但だ死を畏  
るゝのみと即ち嗣源を擁して城に入り以て帝となさむとす嗣源兵を聚むるに託  
して僅に城を出て、相州に奔る然るに人既に唐主に奏するに嗣源賊と合するを  
以てす嗣源是に由りて疑懼す女嬪石敬瑭曰はく安ぞ上將叛卒と賊城に入りて他  
日虞なきことを保すべけむや宜しく自全の計をなすべしと康義誠亦之を贊す嗣  
源即ち安重晦をして諸方に檄し兵を會せしめ敬瑭を以て前鋒となし李從珂を以  
て殿となして大梁に入る伶人郭從謙は崇韜の假甥なり由て帝を怨み遂に之を弑

(三八三)



す爾源位に即く之を明宗皇帝となす明宗本と胡人にして克用の養子たり登極の年已に六十を踰ゆ性情忌せず物と競ふことなし在位の間屢豊年にして兵革用ふること罕れなり然るに長子從榮驕狠にして亂を好む故に其嗣とならざるを恐れて唐主の疾を伺ひ兵を擧げて反し遂に斬らる唐主悲駭疾劇し遂に殂す次子閔帝立つ然るに潞王李從珂本姓王氏明宗に養はる嘗て軍功あり閔帝之を忌みて其鎮(鳳翔)を河東に移さしむ從珂兵を起して洛を侵し自立して閔帝を燔殺す河東節度使石敬瑭は素と沙陀種なり唐明宗の女婿にして唐主從珂と共に功名相伴し是を以て相善らず敬瑭の二子は内使たり故に朝廷の事巨細となく皆之を知り以て其父に通ず時に契丹邊を侵す敬瑭之を憚州に防ぐ唐主鎮を憚州に移さしむ劉知遠はまた沙陀種なり説きて命を拒ましむ唐主兵を發して之を伐つ敬瑭桑維翰を押し表を契丹に奉じ事ふるに君父の禮を以てし且つ事成るの日は盧龍一道及び雁門關以北の諸州を以て之に與ふるとを約す知遠諫めて曰く臣と稱するは可なり父を以て之に事ふるは太だ過ぎたり厚く金帛を以て之に賂はし自ら其兵を致すに足らむ必しも許すに土田を要せし恐らくは異日の大患を遺さむと

然れども事の急なるを以て遂に前議の如くす契丹主德光之れを見て大に喜び大に拔兵を發して親ら來り敬瑭を立て、大晉皇帝となし自ら衣冠を解きて之に授く敬瑭即ち兵を率ゐて南行し洛陽に入る唐主焚殂す唐四主十四年にして亡ぶ晉高祖敬瑭の如く契丹に與ふるに燕雲十六州(齒蒨瀛莫涿檀順新媯儒武雲寰應朔蔚)にして直隸山西二省の内を以てし且毎歳帛三十万匹を輸す漢高祖一たび婚嫁の政略を以て匈奴と和親し以て塞外の安寧を計りしより歷朝の對外政略多く之に則とり兩晋の際五胡の侵入ありたれども此れ當時亂離自然の結果にして中國自ら之を求めたるにあらざ唐太宗一たび起りて群蠻を平定したれども其後吐蕃國勢を得遂に唐と婚嫁を結び亦入援して力を反亂の鎮壓に假したり河湟諸州蠶食せられたりと雖も中國未だ自ら之を與へしことあらざるなり然るに是に至りて敬瑭一時の勝敗を貪りて敢て兵を外國に假り以て其内敵を亡し之に與ふるに土地を以てし之に輸すに金帛を以てす豈啻に之に止まらむや之に事ふるに君父の禮を以てす名實俱に之を失せり契丹仆れて金起り元起り清起り漢人種常に其抑壓を免るゝこと能はざるは時運の然らしむる所なりと雖も石晋之を啓



きだるの罪亦免れ難し喰へは虎を借りて狼を禦くが如し狼の害去るも虎の患必  
 ザ腫を旋らさずして至らむ豈寒心せざるべけむや  
 高祖殂して兄の子齊王重貴立つ是を出帝となす契丹の驕慢益々甚し朝野皆之を  
 耻ぢたれども力の及ばざるを恐る是に於て景延廣議を建て書を致すに孫と稱す  
 れども臣と稱せず又其使に謂つて曰はく歸りて汝が主に語れ翁怒らば則ち來り  
 戦ふべし孫に十万の磨劍を横たへて相待つありと桑維翰屢々遜辭以て謝せむこ  
 とを請へども聽かれず是に於て契丹大に怒り來攻すること二回皆克たざりしか  
 は更に大に國を傾けて來寇す晋將王濬戰死し杜重威降り晋主統へらる(二世十二  
 年)契丹汗に留まりて暴掠を擅にすること三月にして還る  
 是れより先晋祖敬瑄の殂するや遺命して河東節度使劉知遠を以て入りて政を輔  
 けしむ出帝之を寢む知遠之を怨み契丹入寇すれども敢て來援せず専ら自全の計  
 をなし晋の滅びたるを觀て帝位に晋陽に即く契丹去る後汗に入り國を漢と號す  
 高祖是れなり一年にして殂し子隱帝立つ楊邠機政を總べて頗る公忠史弘肇宿衛  
 を典どりて道遺ちたるを拾はず王章財賦を掌どりて遺利を拵拾し郭威政代を掌

る是を以て國家頗る安し然るに漢主の左右之と相善からず漢主も亦自ら權を擅  
 にせむとす遂に邠弘肇等を殺し亦密詔を發して威を誅せむとす威時に鄴都に在  
 り兵を率ゐて來攻す漢主絨せらる將士遂に威を擁立して帝位に大梁に即く自謂  
 ふ周駮叔の後なりと即ち後周の太祖となす漢二世四年にして亡ぶ  
 郭威の未だ位に即かさるや漢祖劉知遠の弟崇と隙あり威遺命を奉じて政を執る  
 に及び太原に在りて勇士を選舉し亡命を招納す隱帝害に遇ふに及び兵を起して  
 南向せむとす偶其子贇の迎立せらるゝを聞きて止みしが郭威が遂に自立するを  
 見て乃ち亦帝を晋陽に稱す有つ所は并汾忻代嵐憲隆蔚沁遼麟石の十二州なり是  
 を北漢となす數々契丹と合して周を攻めたれども志を得ざりし周主在位三年に  
 して殂す周主性勤儉にして民隱を察す王峻軍旅に與りて裨益する所多く范質明  
 敏強記にして謹みて法度を守り李穀は沈毅にして器略あり譬喻を美くして主意  
 を開く皆當時の賢相なり世宗其位を嗣ぐ  
 世宗本姓は柴にして名を榮と云ふ先主之を養ふて晋王となす既に位に即くに及  
 び北漢主喪に乗じて來襲す周主大に之を高平に敗る亦自ら將として契丹を伐ち



瀛莫易州を取り瓦橋關南悉く周に入る在位六年にして殂す周主初め韜晦す高平の役より人始めて其英武に服す號令嚴明にして聰察神の如し紛華を却けて學術を好む故に能く敵を破りて地を廣む登遐の日遠近哀慕す恭帝其位を嗣ぐ年僅に七歳なり未だ半歳ならずして位を趙匡胤に讓る周の昭義節度使李筠淮南節度使李重進兵を擧げたれども皆敗死す周三世十年にして亡ぶ唐亡より以來僅に五十二年(皇紀醍醐一千五百六十七年より村上一千六百二十年)にして五代十有三君なり草姓の迅速なる未だ此の如きはあらず而して其間諸雄の四方に割據して名號を稱する者前後十有二國に上る今之を列すること左の如し

第一後唐に亡されたる者三國

其一燕 梁主全忠唐の盧龍節度使劉仁恭が子守光を封じて燕王となす後自ら帝と稱す晋王存勗に斬らる三年にして亡ぶ

其二岐 唐昭宗鳳翔節度使李茂貞を封じて岐王となす二十有四年を経て唐主存勗に降る

其三前蜀 唐西川節度使王建之を立つ子衍に及びて唐主存勗の將繼岌及び郭崇

韜等に亡さる二世十六年なり

第二南唐に亡されたる者三國

其一吳 唐昭宗の時淮南節度使楊行密を封じて吳王となす子渥に至りて不道なり徐溫之を弑して渥の弟隆演を立て専ら諸政を決す隆演卒して溥立つ位を溫の弟知誥に禪る四十九年にして亡ぶ徐知誥姓名を改めて李昇と云ふ是を南唐となす

其二楚 梁の太祖全忠唐武安節度使劉建鋒の部將馬殷を以て楚王となす六世四十四年にして南唐主璟に亡さる

其三 閩梁太祖全忠唐の威武節度使王審知を封じて閩王となす三主を経て贛に至る其弟延政更に建州に據りて殷帝と稱す閩の朱文進贛を弑して自立す延政之を討滅して閩に復す南唐主璟攻めて之を降す六世三十三年なり

第三宋に亡されたる者

其一吳越 唐昭宗の時鎮海節度使錢鏐兩浙を有す梁太祖全忠之を吳越王に封ず三主を経て弘俶に至り宋の太祖の將曹彬に従つて南唐を伐つ太宗の時遂に其



地を献ず五世七十二年にして亡ぶ

二九〇

其二南唐 李昇既に吳に代はりて南唐を開く子璟に至りて楚蜀を亡して頗る強し周世宗と戦ふて屢々勝敗ありしが遂に克つべからざるを知りて盡く江北の地を献じ帝號を去りて正朔を奉ず子煜の時宋の曹彬に降る三世二十九年なり

其三南漢 唐清海節度使劉隱の子晟は梁主均王の時南漢を立て帝と稱す初め越と稱す宋太祖の將潘美之を亡す四世五十五年なり

其四後蜀 唐明宗嗣源の持西川節度使孟知祥を以て蜀王となす唐閔帝從厚の時帝と稱す宋太祖の將王全斌之を亡す二世三十三年なり

其五荆南 梁主全忠の時高季興を以て荆南節度使となす唐主存勗の時南平王に封ぜらる五世五十八年にして宋の太祖の將慕容延釗に降る

其六北漢 起原既に前述す四世二十九年にして宋の太宗の將潘美に降る  
其他契丹北方に割據して國を遼と號し西夏また甘肅省地方に起らむとす事後章に詳かなり

第六章 宋初の内治

宋の趙匡胤は涿郡の人にして前漢京北尹趙廣漢の後なりと云ふ周世宗に仕へ歸德節度使に至る軍征を掌ること六年士卒其恩威に服し恭帝即位の際契丹來襲す匡胤命を奉じて之を禦く時に主少く國危し軍士之を擁立し遂に恭帝の禪を受く歸德は宋州に在るを以て故に國號を宋と云ふ太祖即ち是れなり

吾人は前章に於て如何に天下の瓜分せられたるを知る而して其一方の主の何人なるかを問はば皆唐末藩鎮より勃興せしを知る五代の主皆正統を受けて大號を稱すと雖も其實は亦一節度使の如きのみ是を藩鎮の強梁となす

蓋し唐の中葉以後天子の實權藩鎮の節度使に遷りしが其後節度使の實權更に轉じて軍士に遷る何となれば朝廷の節度使を命ずるは軍情に依ればなり五代に至りて其風益々甚し軍士遂に天子の廢立を擅にするに至る唐明宗李嗣源及び李從珂周主郭威及び宋太祖の如き皆是れなり蓋し軍士にして藩鎮を擁立する時は主帥之を徳とし之を畏れ旬犛月宴驂子に奉ずる如く法を犯すありと雖も亦改めて問はず天子を擁立するときには則ち將校皆超遷を得て軍士又賞賜擄掠を得故に當時は恰かも羅馬の軍隊政治の如きものにして其アントリアンガードの權力を擅

(二九一)



にするや執政官と雖も之を奈何ともする能はず軍士は其好める大將を以て帝となし又直ちに之を殺すそは新帝即位の際は巨多の贈遺を得べき故なり故に同時に數帝あるに至れりと是を軍士の跋扈となす

軍人の權力は單に軍隊は藩鎮の中のみならず朝廷直轄の州郡と雖も其刺史を叙するは多く武人を用ふ故に皆勳を待みて驕恣酷刑暴斂至らざるはなし唐明宗の如き頗る意を吏治に用ひ正廉を進めて脏汚を退けたりと雖も未だ矯正の功を奏する能はざるなり是を吏治の弊害となす

以上の三弊を矯むるは宋太祖内治政略の大方針なり即ち藩鎮を制して尾大不掉の勢を止め軍士を矯抑して武斷を却け以て文治を興さむと欲するなり趙普は補人なり沈毅果斷にして天下を以て己が任となす帝に奏して曰はく唐季以來帝王數易はるは節鎮太だ重きが故のみ今稍々其權を奪ひ其錢穀を制し其精兵を收めば則ち天下安からむと是に於て兵將石守信等の兵權を解きて之を朝廷に收め節度の卒し或は遷徙致仕し或は他職を領する者あらば皆文臣を以て之に代へて其領する所の支郡は皆之を朝廷の直轄となすまた諸州の兵を悉く入衛せしめ禁旅を更代分遣して邊城を守らしむ蘇老泉の審敵に吾宋制治有縣令有郡守有轉運使以大系小絲牽細聯總合於上雖其地在方里外方數千里擁兵百萬而天下一呼於殿陛間三尺童子馳傳捧詔召而歸之京師則解印趨走惟恐不及とは是の謂ひなり又諸州に通判を置きて以て刺史の權を分ち意を民治に用ふ詮選を嚴にし商征及び酒禁を寛し差役法を定め版籍を正す故に五代の峻刑酷法を廢して悉く輕減に従ひ(大群詳覆法折杖法を定め新刑統を頒つ忠厚以て國を開きたりと雖脏吏に於ては少しも貸さざるなり在位の間郭誼李岳成德鈞王訓等皆座して殺さる太宗に至りて脏罪者は赦に遇ふも叙することを得ざるを以て定制となす又志を文學に留めて遺書を求め貢舉を行ひ數々國子監に幸す和峴雅樂を定めて劉溫叟開寶通禮二百卷を上る制度典章彬々として條理あり五代の妖雲全く霽れて太平の日輪茲に現はれ生民始めて蘇息するを得たり在位十七年にして崩す壽五十なり太弟晋王光義立つ是を太宗皇帝となす

初太祖の皇太后杜氏崩するに及びて太祖に語るに國に長君あるは社稷の利なれば其万歲の後は當に位を弟晋に傳へ晋王は之を秦王光美初名延美晋王の弟に傳



へ秦王は始て之を太祖の長子德照に傳ふべきを以てす太祖謹みて其命を奉ず即ち是に至りて位に即くかゝる關係の家庭なれば久しからずして德照は事によりて上の怒を招き自ら刻ね其の弟芳も病みて卒す秦王光美二姪の繼没より心自ら安んぜず遂に罪を得憂を以て亦卒す帝遂に趙普の謀によりて帝位を兄(太祖)の系統に傳へずして自己の子孫に傳ふ帝天下を分ちて十五路となす京東、京西、河北、河東、陝西、淮南、江南、荆湖南、荆湖北、陝西、西川、兩浙、福建、廣南東、廣南西是れなり其後更に小分して神宗に至り二十四路に至る帝在位二十二年にして崩す薛居正、沈倫、趙普、宋琪、李昉、呂蒙正、張齊賢、呂端相繼ぎて相たり皆能名わり太子恒立つ是を眞宗皇帝となす

(二九四)

第七章 朝鮮の上古

吾人は是迄で専ら支那一方に着眼したりと雖も愈々近世に近づくに隨ひて歴史の舞臺は益々廣大となり其舞臺は愈々複雑となり其俳優は滋々多數となりむとす支那の太古より宋に至るまで殆んど二千餘年に垂んとす其間春秋時代の夷狄兩漢の匈奴司馬晋の五胡唐の吐蕃回紇ありと雖も漢人種は盡く之を壓服して以

て其文明を進め其版圖を擴張したり然るに五代の頃より契丹種東北地方に起りて阿保機一たび風塵を叱咤し吳乞買遂に談笑の下中國の勝敗を左右せり是れより東北の塞外地方は支那國亂の大源となり英雄の産出地となる趙宋を攻めて江南半壁の天を有するに至らしめたるの金も此地より起る馬蹄の下歐亞の山川を蹂躪したるの成吉思汗も此地より起る西南の方歐洲南海諸國と交通を結び東北の方遂に我日本帝國の鼎を問ふたるかの元忽必烈も亦此地より起る而して此等の一事件生ずる毎に是迄で隔離して風馬牛の如き各國各種族は次第に其關係を厚ふし痛痒互に相應するに至る此勢は恰も物鉢の落下するに當り次第に勢力を加ふるが如く趙宋之を啓きて其始は濫觴の如しと雖も元を經明を経て遂に清に至り遂に今日に至りては世界の各國皆一堂に會し互に其雌雄を決し其長短を較せんとす江河滔天の勢亦止まる所を知らざるなり今吾人は此活劇を観るに先だちて今日東洋の「バルカン」半島即ち朝鮮の歴史を一覽せんと欲す

現今の朝鮮は西は水にて黃海を隔て、支那山東省と相對し陸にては滿洲の盛京省と相分つに鴨綠江(Yalu-Kiang)或は Amno-Kang 又 Aye-Kiang)を以てし北は滿洲の吉

(二九五)



林省及び露領滿洲に連りて長白山(Shan-yan-San)頭山とも云ふの峻嶺と豆滿江(Man-kiang or mi-kiang)の長流とを以て界となす東南は日本海を隔て、我邦と相對し對馬より相望めは僅かに十里喚へは將に相答へむとす人口の數一千餘万面積の大八道(京畿 Kian-kei 忠法 Tsiang-t sien 全羅 Tsien-la 慶尙 Kieng-sang 咸鏡 Han-kieng 平安 Pi-an-gan 黃海 Hwang-kai 江原 Kan-ven)一万余里に及ぶと雖も上古の朝鮮は其區域頗る異にして今の黃海道以北及び滿洲南部を以て一國となして箕氏の國茲に起り漢江以南また自ら一國をなし三韓鼎立の勢を生ず故に吾人は先づ北方を叙して然る後南方に及ぼんとす

其一 北方箕氏の國即古代の朝鮮

朝鮮開國の起原は茫邈として極むべからず相傳ふ支那帝堯の時に當りて神人檀君あり平壤に(Pien-piang)都して國を朝鮮と號すと其如何なる人種なるや明かならずと雖も扶餘種族なるべし扶餘は盛京省地方の蠻族にして蒙離國より出づのち漢順帝の永和年中其王始めて來朝すと而して蒙離は蒙古科爾沁(Kordian)地方の一部落なり或は云ふ檀君姓は桓氏にして桓國の子桓雄の子なり桓は神に通ず故

に桓因は神伊弉諾桓雄一名神市左世理は神須佐之男なり檀君は太祈にして五十猛神なるべしと此説未だ盡く信すべからざれど上古に於て我國と此地方との關係は必しも河漢の如き者にあらざるや明かなり然れども檀君以後の事明かならず漸く我紀元前四百三十年頃に當り周の武王殷の紂王を亡して天下を一統し箕子を此地に封ずるに至りて朝鮮の正史始めて起る

當時箕子其徒五千餘人と共に來りて王險平壤に都するや村邑城市を造り法律を定め以て遊牧の民を統一し其服せざる者をば收めて以て奴婢となし一國家を組織せむと欲したり然れども四圍の境遇風氣未だ之に適せざるを以て著しき文化の發達なし是の時に當りて遼東には東胡族あり盛京には林胡樓煩あり遼河には山戎あり皆蠻力を以て箕族と相軋轉す其後齊桓公山戎を平ぐるに及びて箕族は直接に燕と界を接したり燕將秦開更に之を討ち侵掠する所あり秦始皇六國を統一して万里長城を築き以て華夷の境となすに及び箕子四十代の孫否之に畏服す其子準に至りて漢楚分争漢高の臣盧縮燕王となり涇水鴨綠江を以て境を接す縮反して匈奴に入るに及び燕人衛滿亡命千餘人を率ゐて涇水を渡り此地に入る準



其歡心を得んと欲して之に方今の蓋平城附邊の土地を興ふ滿途に準の國を襲ひて之を奪ふ準逃れて馬韓に走る箕子より是に至るまで九百餘年にして亡ぶ時に我紀元孝元四百六十七年にして西漢孝惠の代なり是に於て衛滿都を王險に定め其勢頗る強く動もすれば漢地を侵す天下始めて定められたれば漢廷干戈を動すを憚り約して外臣となして南越王尉陀の例に倣はしむ其孫右渠に至りて漢の亡人を誘ひて又旁國の入貢を沮す當時武帝秦皇の跡を繼ぎて八荒を併呑せむとし西南夷に通じ匈奴を攘へ西域に通じ南越を平げしかば元封二年勅使涉何をして説くに入朝を以てす終に聽かず然るに何朝鮮の境を出るに及び右渠の臣稗王長を殺し武帝に奏して曰はく朝鮮の將を殺すと帝之を褒めて遼東々部都尉となす右渠怒りて何を殺す武帝即ち揚僕をして渤海より荀彘をして遼東より夾擊せしめ尋ぐに公孫遂を以てす相戰ふこと二年相參等右渠を殺して衛氏三世四十七年にして亡ぶ武帝其地をわかつて眞蕃臨屯樂浪平安道平壤府玄菟咸鏡道咸興府の四郡となし右渠の子及び參等を封じて侯となす五十餘年を経て昭帝の時に至り平州東府の兩都督府を置きて之を分治す然れども此時

既に江原道地方には濊貊あり咸鏡道地方には東沃沮あり滿州吉林省地方には北沃沮あり平安道の北方には高句麗ありて皆一部落をなして其固有の政治風俗あり殊に高句麗を以て最盛なりとなす

其二 南方即三韓の鼎立

漢江以北の興亡前述の如し而して其以南に於て馬韓辰韓辯韓の三國鼎立して後更に以北に大高句麗起り以南には三韓變じて百濟新羅となりて兩部始めて錯雜なる交渉を開くに至れり今之を記せむとす

馬韓は現今の全羅忠清京畿三道の地にして五十四國を包含す大國は万餘家小國は數千家にして總べて十餘万戸なり箕準の衛滿に破らるゝや其徒數千人を率ゐて馬韓の金馬郡(全羅道益山郡)に居り自立して韓王となる辰韓は今の慶尙道にして秦の時人民苛政を避けて遂に居を此に占む辨韓は慶尙道の南邊にして辰韓と雜居す兩韓皆十二國あり大國は四五千家小國は六七百にして總べて四五万戸あり是れ我紀元五六百年頃の事にして此等の人民は未だ野蠻の狀態を脱せざると疑なし



我崇神六百〇四年(西漢宣帝)の時朴赫居世起り國を徐代羅と號す都を辰韓の十二國中なる斯盧慶尙道慶州府に置く赫居世の妃を闕英と云ふ内助を盡す故に國政頗る舉る赫居世薨じて子南解立つ長女を以て多波那國の昔脫解に妻はす或は云ふ多波那は我但馬國なりと南解斃するに臨み朴昔兩氏の年長者を選びて君となすべきを以て遺命す南解の子儒理先づ嗣き官制を定め民治を務め脫解立つに至り國號を雞林と稱す其後相繼ぎて王たる者皆君德あり故に四方の各種族服する者多し且此人民は前述の如く舊と支那の亡民なれば此を他の種族に比すれば文化自ら發達し智識最も開發す遂に第十代王奈解に至りて我神功皇后之を伐ち遂に我國と交通を生じて漢土の文物始めて日東に入ることを得たり

新羅の建國より二十一年にして高句麗古朝鮮の地に起る初め扶餘王金蛙の子を朱蒙(都牟)と云ふ善射を以て名あり兄弟之を忌む朱蒙逃れて居を鴨綠江の上流に定む之を丸都城と云ふ後更に沸流水(大同江の支流)の上流に遷り城郭宮室を營み蘇羯を攘ひ北沃沮を亡す之を東明聖王となす其子瑠璃王(類利)は鮮卑を降し梁貊を滅し漢の王莽と戦ひて之を破る其子太武神王に至りて勢尤も振盛なり後漢光

武之を伐ちて陸水平安道清川江以南を收めたり再傳して慕本王に至り頗る暴虐なり國人之を弑して瑠璃王の孫宮を立つ是を太祖王と稱す

高句麗の建國より二十年にして百濟起る百濟は馬韓五十四國中の伯濟なり初め朱蒙の逃れて沸流に入るや女を娶りて子を生む之れを温祚と云ふ然れども朱蒙の未だ北扶餘に在りしや既に瑠璃と稱する子あるを以て之を立て、以て高句麗の王位を嗣かしむ温祚即ち恐れて馬韓の慰禮城(忠清道内)に居り國を百濟と稱し部落を撫脩す其二十七年遂に馬韓王を亡す箕準の再興より是に至るまで二百餘年を経たり

以上三韓の外太古辨韓の地に金首露と稱する者起りて一國を立つ之を伽耶又駕洛と稱す時に皇紀垂仁七百〇二年なり其一部に大伽耶(慶尙道高靈縣)あり其始祖を伊珍阿跋王といふ我崇仁帝の時其王子阿羅斯入朝せしが道に迷ひて垂仁帝の時に至り始めて謁見す帝之に國名任那を賜ふ任那とは崇神の御名御間城より來る神功皇后に至り日本府を置く



三韓既に鼎立して相下らず而して各國の内亦殺逆相繼ぎて擾亂止むなし殊に高句麗百濟を以て太甚しとなす高句麗は三面に於て漢と相争ひ南方に於ては百濟と境を接す第六世太祖王(國祖王)既に立ち賢良を擧げ農桑を勸めて國大に治る第九世故國川王處士乙巴素を重用して政事明かなり然るに其薨後王后于氏の姦亂あり當時支那には東漢既に亡びて公孫度遼東の太守たりしかば王の弟發岐の請求により師を發して之を正さむとせしも成らざりき第十一世東川王に至り魏の明帝公孫氏を亡して其地を收む吳主孫權使を王に致して連和以て魏を夾撃せむとせしに王肯んせずして使を斬り首を魏に送る然れども其末年に當り魏帝芳の將母丘儉百濟の請求に應じて來攻し大に王軍を敗る王支ふる能はずして都を平壤に遷す第十六世故國原王の時鮮卑の慕容皝燕王と稱して大に高句麗を侵掠す號の子嵩王を封じて征東大將軍營州刺史となし樂浪公に封ず百濟の近肖古王第十二世に攻められて敗死す第二十世長壽王璉に至り國勢最も振ひ百濟を攻めて其第二十世蓋鹵王を殺し又好を支那南北兩朝に結ひ魏の孝文帝の如きは之を優遇したり百濟新羅も亦此頃より使を支那に遣はし百濟に在りては第十二代近肖

古王新羅に在りては第十七代奈勿王の時なり又屢々封冊を受く高句麗が支那と關係最も深きが如く新羅は我國と最も多く交渉を爲せり神功皇后熊襲を征するに當り急に舟師を率ゐて新羅に入る其國王奈解第十世降りて曰はく今日より永く馬飼部となり毎年貢物八十艘を奉らむ東日の西より出づるも阿利那禮川の逆流するも之を或は怠るなけむと此時百濟の肖古王(第五世)高句麗の山上王(第十世)皆風を聞て貢物を献す然に其後新羅王奈解百濟の朝貢を奪ひて以て自國の貢物となす神功怒り軍を發して府を任那に建て、三韓を掌らしめ又東韓(辨韓)の物を百濟に屬せしむ肖古王大に歎び水く藩臣たることを誓ふ十二世近肖古王に至り高句麗の第十六世故國原王を敗り府を北漢山に建つ王は文學を好みて博士高興を重用す我國に博士王仁を遣はし論語千字文を獻せしめたるも此時なり再傳して枕流王に至り當時支那に在りては秦王府堅の勢力強大なりしかば三韓皆入朝して臣禮を執る堅胡僧及び佛教佛像を高句麗の小獸林王第十七世に送り晋も亦僧を百濟に送る枕流王之を受く(後百六十餘年を経て我國に入る)枕流王薨じて子阿花尙幼なり叔父辰斯篡立す應神帝之を責め國人辰斯を殺して



阿花を立つ以後日本は常に其内政に干預し王位の廢立をも左右するに至れりされば第二十世蓋鹵王の高句麗の長壽王に殺さるゝや其子牟大我國に質たり雄略帝兵士を以て之を護送せしめ立てゝ以て王となす是を東城王(第二十三世)となす新羅は奈解以後三傳して第十三世王婿金味鄒位を嗣ぐ金氏の王統茲に始る十八世金寶聖に至り前王奈勿が己を高句麗に質たらしめしを怨みて奈勿の子未斯欣をして我國に質たらしめ又卜好をして高句麗に質たらしめ後又奈勿の長子訥祇を害せむとす訥祇怨みて之を弑して自立す即ち二弟を見んと欲して朴提上をして高句麗の長壽王健に説き卜好を還さしむ更に我國を給きて未斯欣を奪ふ我國史中質子微叱許智逃去とは即是なり訥祇以後我國及び高句麗の間に來往せしが第廿二世智證王智大路に至りて文物大に發達す是まで國名は斯盧或は新羅の稱ありしも更に定めて新羅となし又王號も居西千尼師今等なりしが自今王と稱す其他法制を裁定し州郡縣の區劃を定む其子法興王律令を頒ち官制を定め年號を稱す是より先第十九世納祇王の時高句麗より始めて佛僧來りしが其後盛に行はる是に至りて遂に國教となり宏大なる寺院精巧なる佛像を設け又教論場八關會

を建つ今日尙慶州府に於て當時の壯嚴を追想するに足るべき者ありと云ふ法興王は單に力を内治に盡せしのみならず更に外敵を却け濊洛を降し(金首露より十王四百九十一年間にして時に我安閑一千一百九十三年支那梁武帝の時なり)て百濟を遠け其子眞興王に至りて更に大伽耶(任那)を亡し(伊珍阿跋王より十六世五百二十年間にして我欽明一千二百二十二年支那陳文帝の時なり)て其威勢益振ふ當時我朝廷よりは近江毛野紀男麻呂河邊瓊岳等前後來援し且百濟をして其回復に力を盡さしめたりしも皆不幸にして成らざりき然れども新羅の我日本に質子を交代せしめたるは第廿九世武烈王の頃に至るまで連続せり新羅の勢此の如く盛なりしかば百濟の第二十五世聖王は之と同盟して以て高句麗に當らむとす眞興王之を拒みたりしかば更に百濟は之を高句麗に求め眞興に軍を發して新羅を攻め事甚だ急なり是に於て新羅は金瘦信をして援兵を支那に求め是より先高句麗第廿六世嬰陽王蘇鞞の衆を率ゐて隋を攻む文帝大に怒りて之を伐たしむ王恐れて和を講ず煬帝立つに及び更に三十餘万を發し陸よりは于仲文于文迷海よりは來護兒等をして之を攻めしめしに嬰陽王の臣乙支文德等よく



拒ぎて隋軍大敗し生還する者二千七百人のみ其後煬帝再び師を發せしも海内亦  
 亂れたるを以て止みたり陽嬰王薨じて榮留王立つ泉蓋蘇文之を弑して寶藏王を  
 立て且唐太宗の使を囚ふ太宗即ち貞觀十八年李世顯王道宗を從へて陸よりし又  
 張亮をして水師を督せしむ且新羅百濟奚契丹に命じて應援せしむ然れども安市  
 城(盛京省蓋平縣内)固守して陥らず天亦寒く糧乏しきを以て太宗遂に師を班へす  
 此時百濟は聖王以後明君賢相なく義慈王に至りて驕奢に耽りて國事を恤へず且  
 新羅を侵して其唐に來貢の路を斷つ是に於て唐の高宗蘇定方を以て萊州より海  
 を濟りて之を擊たしむ新羅の武烈王之が聲援をなす遂に王を降して其國(五部三  
 十七郡二百城七十六万戸)を收めて五都督府(熊津馬韓東明金漣德安)の分轄となす  
 三十王六百七十八年にして時皇紀齊明一千三百二十年なり此時王子扶餘豊日本  
 に質たり宗室福信等之を迎へて王となし唐將劉仁願を熊津に圍み救を我國に求  
 めしも遂に逃れて高句麗に入り百濟遂に祀らず高宗更に勢に乗じ高句麗を攻め  
 しも克たず此時泉蓋蘇文死して其二子相争ふ高宗之に乗じて李勣をして平壤を  
 圍ましめ遂に寶藏王を降し國(五部百七十六城六十九万戸)を收め安東都護府を平

壤に置き九督府四十二州百縣となる始祖より是に至るまで二十八王七百〇五年  
 にして皇紀天智一千一百二十八年なり  
 新羅既に唐の力に依りて多年の仇敵たる高句麗百濟を亡ぼしたりしも後次第に  
 二國故地を蠶食して遂に高句麗の南境に至る第卅六世惠恭王の時より國政次第  
 に紊亂して叛者屢々起る遂に第五十一世眞聖女王曼姿に淫穢を行ひて佞幸志を  
 得綱紀壞敗す是に於て第四十九世憲康王の庶士弓裔其國に棄てらるゝを怨みて  
 高句麗の爲に仇を報ずるを名として兵を起し妖言を以て愚民を聚め國號を立て  
 摩震と曰ひ後泰封と改む都を鐵圓(江原道鐵原府)に定む其領する所全國三分の  
 二に及ぶ漢州の人王建また之に屬して重用せられ威望あり既にして弓裔殘虐日  
 に甚し建が騎將洪儒斐玄慶等相謀り建を推戴して王となし國を高麗と稱す弓裔  
 變を聞きて逃奔し道に殺さる瓢蓋また兵を擧げ都を完山(全羅道全州)に定めて後  
 百濟と稱し使を吳越の錢氏及び後唐に遣はして封爵を受く遂に新羅に入り第五  
 十五世景哀王を弑して敬順王金傅を立て又屢々高麗を侵す然れども高麗の度黔  
 彌等に敗ぶらる既にして新羅敬順王高麗の政すべからざるを知りて遂に降る高



麗王待するに客禮を以てす始祖より是に至るまで五十六王九百九十二年にして皇紀朱雀一千五百九十五年支那後唐閔帝の朝なり後一年にして甄蓋も亦亡ぶ是に於て全土盡く高麗王建に服す是を太祖となす都を松嶽京畿道開城府に定め教化を敷きて節義を勵まし法制を變革して行政を整理す大匡朴述熙文武の才あり能く王業を助く

三韓の事實紛糾錯雜して明かならず故に左に之を彙紀す

新羅

- 第一世 赫居西 朴氏にして國を開く
- 第四世 脫解 昔氏始めて王統を承く
- 第十世 奈解 我神功皇后に降る
- 第十三世 味都 金氏始めて王統を承く
- 第十七世 奈忽 始めて支那に入貢す時に晋孝武帝の時なり
- 第十九世 訥祇 朴提上の事あり高麗の長壽王と同時
- 第二十二世 智證王 文物制度を興起す
- 第二十三世 法興王 國力極盛佛教國教となる眞興王之に嗣ぐ我國任那府を滅す眞興王の廿六年始めて支那北齊の封冊を受く
- 第二十九世 太宗武烈王 百濟高句麗同盟に攻めらる唐と同盟して二國を滅す
- 第三十六世 惠恭王 此時より國政漸く亂る
- 第五十一世 眞聖女王 甄蓋等起る
- 第五十六世 敬順王 高麗王に降りて國亡ぶ

高句麗

- 第一世 東明聖王 國を開く
- 第六世 太祖王 心を政事に用ひて國大に治る
- 第九世 故國川王 乙巴素を用ひ政事舉る然るに薨後王后の姦亂あり支那公孫度之を鎮定せむとせしも成らず
- 第十一世 山上王 我神功の威風を聞きて貢物を獻ず
- 第十一世 東明王 魏明帝の將母丘儉來攻す
- 第十六世 故國原王 百濟の近肖古王に敗らる始めて支那鮮卑慕容氏の封冊



を受く

第二十世 長壽王 百濟蓋鹵王を攻殺す國力最も盛なり

第二十六世 嬰陽王 百濟と同盟して新羅を伐つ又隋を攻む堯後泉蓋蘇文の

亂あり

第二十八世 寶藏王 唐に亡ぼさる

百濟

第一世 温所王 國を開く

第五世 肖古王 我神功の威風を聞きて貢物を獻ず

第十二世 近肖古王 高句麗の故國原王を取る我國に博士王仁を遣はす始め

て晋の簡文帝に入貢す

第十四世 枕流王 秦苻堅に入貢す東晋より佛法來る其堯後辰斯阿花の亂

あり

第十七世 直支王 始めて支那東晋より封冊を受く

第二十世 蓋鹵王 高句麗の長壽王に殺さる我雄略帝牟大を立てて王とな

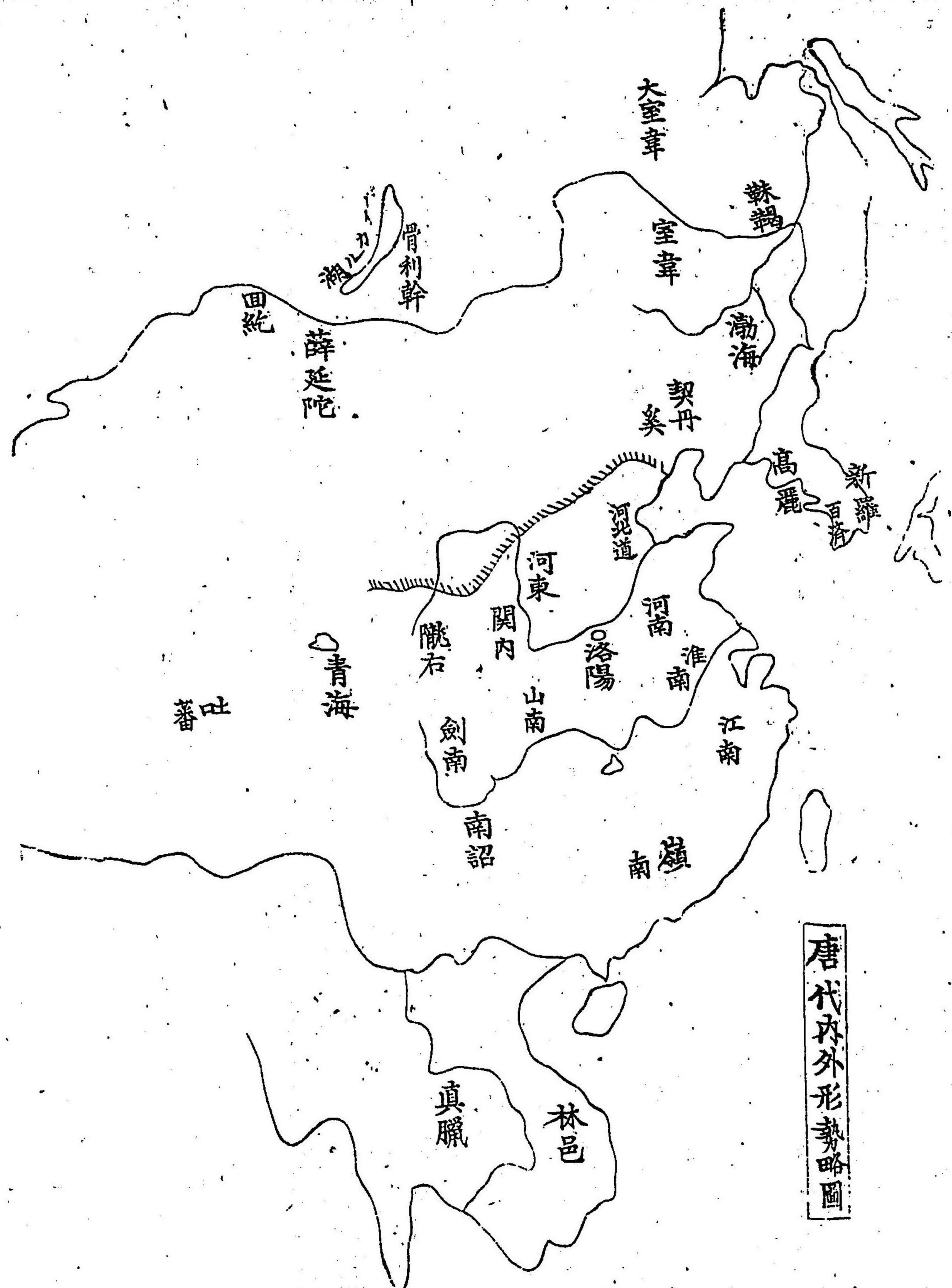
す

第二十五世 嬰王 高句麗嬰陽王と同盟して新羅を攻む

第三十世 義慈王 唐に亡ぼさる

讀者もし此表を讀まば朝鮮と云ふ國は過去に於て如何に我國及次支那と相關せ  
しかを知るに餘りあるべし





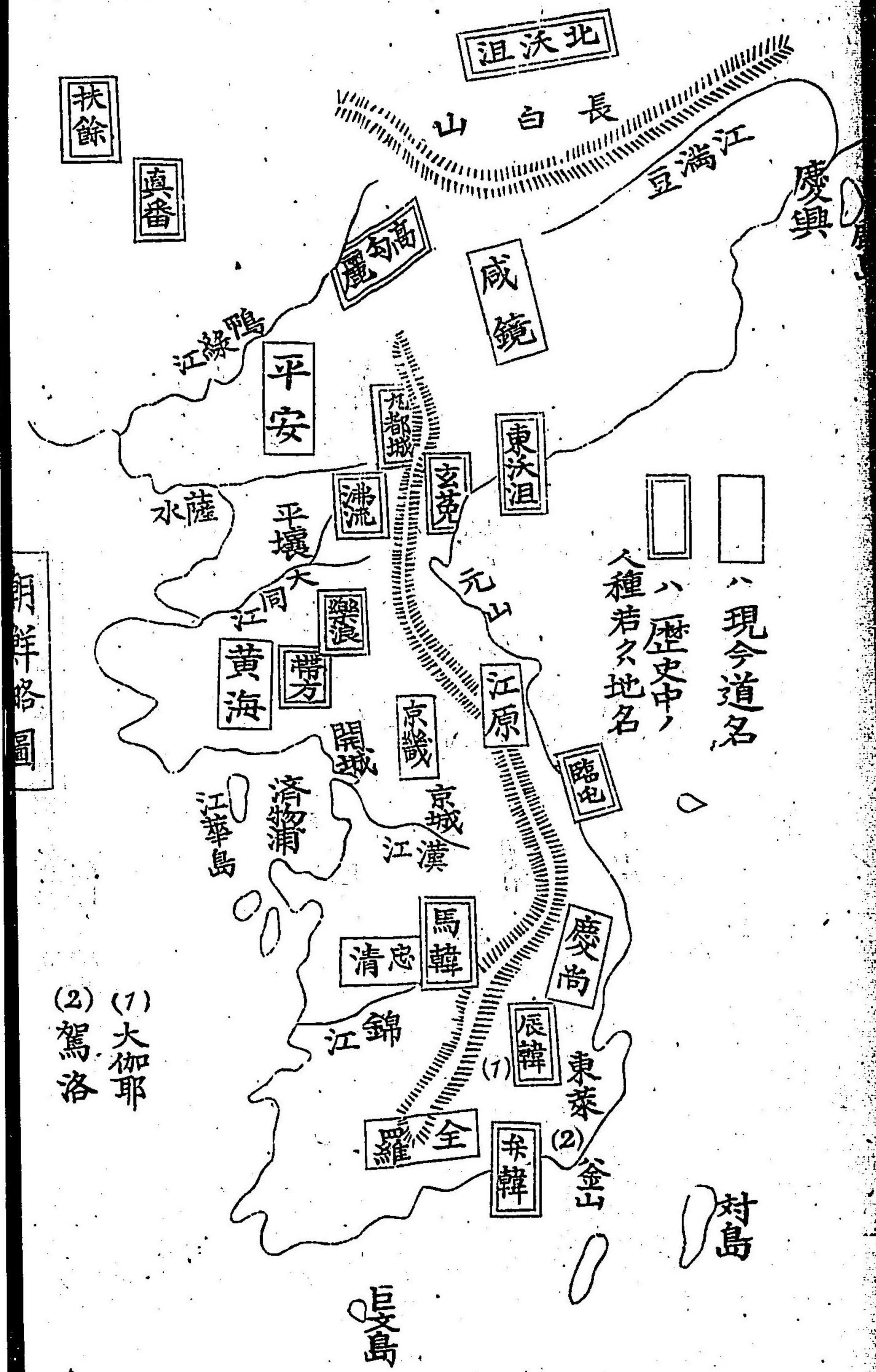
唐代内外形势略图

Vertical columns of text on the right page, likely providing a detailed description or commentary on the map's content.









第八章 契丹(渤海及び北宋の中世)

我朱雀一千五百九十四年(後唐閔帝の時高麗王建新羅を統一せしより十八年前)後梁均王の時契丹(Moan)の阿保機天皇王と稱す太祖是れなり契丹は東胡の遺種にして漠河(内蒙古内西喇木倫河)の北に在り本鮮卑の舊地なり後魏の時衆稍滋蔓し唐の時叛服一ならず分れて八部となり各々一大人ありて之を統べ三歲毎に更立するを例となす其地北は室韋に接し東は高麗に隣し西は奚國を界として南は營州に至る(室韋奚みな契丹と全種にして前者は今の黒龍江省に居り後者は内蒙古の東部を占む)耶律阿保機勇智にして騎射を善くし遂に八部を統す其妻述律氏勇決權變常に其謀に與る國人之を稱して地皇后と云ふ燕主劉守光の臣韓延徽を以て謀主と爲し牙を建てて府を開き城郭を築き市里を立て荒田を墾闢す當時中國衰亂の際なりしかば漢人多く茲に移住す是に於て勢日に盛にして直隸山西の二省を蠶食し臨潢(内蒙古巴林旗の東北)に都し契丹字を製す晋王李克用は約して兄弟となり存勗は事ふるに叔姪の禮を以てす其兵威西は流砂を賧え東は渤海を陥る



渤海は粟末靺鞨(粟末は粟末河松花江(Sungari)邊にして靺鞨は吉林省に居る)にして高句麗の北にあり唐玄宗開元元年(皇紀元明一三七三年)酋長大祚榮(父を仲豪と云ふ)靺鞨王と稱して封爵を中國に求む冊して渤海郡王となす高王是れなり第二世武王の時唐と戦ふ即ち聘使を發して援を日本に求む時に聖武の朝なり第十世宣王第十三世景王に至りては其の版圖は肅慎の東北海濱より南は獺狽朝鮮の咸鏡道(高句麗(平安道)を有し西は沃沮扶餘(吉林省)を并せて遼河に達す五京十五府六十州あり又留學生を唐憲宋の時に派して其制度文物を采り斐頌を我國(陽成帝の時)に使せしめて聘問數々なり五十餘年間海東の盛國たり第十四世哀王大諱讓に至りて遂に契丹に亡ぼされて東丹國と改稱す年を重ねること二百十四年にて時に醍醐一五八三年(後唐莊宗高麗太祖)なり

既にして阿保機(一)に安巴堅と書す崩じて次子德光立つ是を太宗となす太后初年國事を決して其姪を立て、皇后となす其後后族皆姓を肅氏と賜ふ其盛宗室に比す太宗石碣塘を抜けて遂に燕薊十六州を得たり即ち臨潢を以て上府となし幽州を南京となし遼陽を東京となす晋主重貴の時太宗兵を將めて大梁に入り重貴を執へて負義侯となして之を黃龍府(渤海内)に徙し國號を建て、遼と云ひ大同と改元し恒州を以て中京となして廣く四方の貢獻を受く(皇紀村上一六〇七年)胡騎四出剽掠す之を打草殺と云ふ人々生を聊せずして中外頗る憤怒して之を逐はむことを思ひ所在盜起る太宗曰く我中國の治め難きこと此の如きを知らずと三月にして遷る(第六章參看)途にして崩じ世宗廟立つ

時に北漢の劉崇後周の郭威と相攻む即ち姪と稱して師を乞ふ世宗自ら將とし之を救ひて歸化州直隸省宣化府)に至る姪之を弑す子環之を誅して立つ是を穆宗となす亦北漢と同盟して周に當り世宗と戦ひて敗られ關南の地を取らる帝酒に耽りて遊戯に荒み政治頗る紊る途に近臣に弑せらる景宗廟立し宋太祖と好を通す宋太祖既に中國を平定して幽薊を取り契丹を斥攘せむと欲し銀帛二百万を景福殿に儲ふ太宗北漢を滅したる勢に乗じて先志を嗣がむと欲して遼を擊ちて南京を圍む景宗の將耶律休哥大に之を取る是れより兩國相攻むること數回景宗在位十四年にして聖宗隆緒立つ年甫め十二なり承天太后遺詔を奉じて政を攝じ耶律休哥を以て軍務を總べしむ後は明敏にして治跡に通じ休哥は智略宏遠にして克



く邊境を治む是を以て國政大に擧りて宋太宗志を得ること能はず  
 眞宗の景德元年(皇紀一條一六六四年)聖宗其母を奉じて大舉して入寇し中外震駭  
 す陳堯叟は蜀に幸せむことを請ひ王欽若は江南に逃げむことを奏す宰相寇準固  
 執して不可となし遂に親征の義を定む時に契丹遼州(太名府内)を圍みて事急なり  
 準及び高瓊帝を擁して河を渡りて北城に登り黃旗幟を張る宋軍大に振ふ宋の降  
 將王繼仲契丹に勸めて和を講ぜしむ曰く周世宗の取りし所の關南の故地を得ば  
 足れりと眞宗曰はく地は必ず得べからず寧ろ金帛を與へむと寇準は更に一步を  
 進めて臣禮を執らしめ更に幽薊の地を復せむと欲す帝遂に曹利用を以て全權大  
 使となし絹二十万匹銀十万兩を以て和議を定め我を兄となし彼を弟となす是れ  
 を遼淵の誓と云ふ其後帝封禪を行ひ祠祀を崇みて土木葺りに興る在位二十六年  
 にして其間呂端張齊賢李沆呂蒙正向敏中畢士安寇準王旦等相尋ぎ相たり張詠嘗  
 て言ふ謹厚にして德望あるは李文靖沆に如くはなく深沈才德ありて天下を鎮服  
 するは王公に如くはなく面折廷争するは寇公に如くはなく唯だ晩年に及びて  
 王欽若丁謂等庸佞を以て政を得たり識者之を惜む太子禎立つ是を仁宗皇帝とな

す  
 神宗皇帝となす  
 神宗年十三なり劉太后簾を垂れて政を聽くこと十一年號令嚴明にして恩威普  
 及す帝政を親らするに及びて恭儉仁愛の德始終一の如し在位四十二年にして崩  
 ず濮安懿王允讓の子曙立つ是を英宗となす在位四年にして崩す太子頊立つ是を  
 神宗皇帝となす

### 第九章 神宗の政治

#### 其一 遼淵以後の外交政略

宋は外交政略の軟弱を以て敗る遼淵の役寇準策を畫して以て進めて曰く此の如  
 くならば則ち百年の無事を保つべし然らざれば數十歳の後我契丹復た心を生ぜ  
 むと眞宗曰はく數十歳の後當に能く之を禦ぐ者あるべし吾生靈の重ねて困むを  
 見るに忍びず姑く和を聽せと則ち已むなくむは金帛百万と雖も可なることを以  
 てす眞宗當時名を百姓の困苦に假ると雖其實は兵を用ふるに厭きたる者なり故  
 に王欽若其間に乘じて説き曰はく封禪して以て四海を鎮服し夷狄に誇示せむ封  
 禪すれば當に天瑞を得べし前代人力を以て之を爲す者あり河圖洛書も聖人の假  
 設に過ぎざるのみと其意蓋し之を以て契丹を服せむとするなり即ち密に帛書を



作りて之を屋上に置き以て天書降ると稱し群臣をして拜賀せしめ泰山に封じ社  
 首に禪し后土を汾陰に祭る又稱す趙氏の祖司命天尊玉皇の命を受けて來降すと  
 其宮殿を建つ姑息彌縫の手段を以て君臣相欺くこと是の如し然るに仁宗の朝西  
 夏と交渉の未又之に歲幣を與ふること契丹の如くするに至れり  
 西夏は唐末黨項の拓跋思恭より起る思恭黃巢を討じて功あり定難軍節度使を授  
 け夏州(オルドス内)を領し姓を李氏と賜ふ子孫封を襲ぎて五代に臣事せしが宋の  
 太宗の時主李繼捧宋に朝して四州(夏銀綏宥)の地を獻す弟繼遷叛き去りて遼の聖  
 宗に降り夏王に封ぜられ數々入寇す帝繼捧に姓名を趙保志と賜ひて四州に加ふ  
 るに靜州(綏は陝西内他四州は甘肅省内)を以てして其節度使となし繼遷を圖らし  
 む繼遷降る亦姓名を趙保吉と賜ふ兩人復叛く李繼隆太宗の命を奉じて保忠を執  
 ふ又保吉を攻めたれども克たず眞宗の時又反覆常なかりしが西涼府を攻むると  
 き流矢に中りて死す其子德明降る復國姓を賜ひて西平王となす遼又冊して夏王  
 となす仁宗の時子元昊嗣立す雄毅にして大略多し回鶻を擊ちて河西の地を取り  
 大夏州(陝甘兩省及内蒙古に跨る)を據有し興慶甘肅省寧夏に都し自ら大夏皇帝と

號して入寇す西邊騷然たり宋將范雍懼れて戦はず韓琦范仲淹更に命を奉じて邊  
 を守り賊を推して撫綏す夏人之を恐る  
 是時契丹の聖宗既に崩じて興宗位を嗣ぐ西夏の入寇に乗じて關南の故地を求め  
 且南下を聲言す富弼命を受けて遼に至り反覆論難力めて地を割くことを拒み遂に  
 奮幣に加ふるに銀絹各十萬兩匹を以てし和議を定めて遼を尋ぎて趙元昊も復兵  
 力困弊したるを以て臣と稱す策命して夏國王となし發誓と名づけ歲ごとに銀絹  
 茶綵二十五萬五千を賜ふ然れども元昊遼宋二國に臣事し國に在りては主權を有  
 すること依然たり子孫相繼ぐこと十世百九十年にして元太祖に滅ぼさる宋は此  
 の如く二國に歲幣を與ふも夏に於ては賜ふと曰ひ遼に於ては納ると云ふ其名異  
 なれども其實は一なり

其二 宋の施政主義

宋朝國大にして民富む契丹遼の比にあらず然れども常に屈辱を免れざるは何の  
 故ぞや曰はく吏治の偷惰兵備の不振に在り抑太祖五代亂離の後を受け其澆訛刻  
 薄の風を矯めむと欲して政治一に寛大に従ひ風俗専ら忠厚を養ふ是に於て俸祿



を厚しくて官吏を待ち、禍祿恩蔭を加へて功臣及び其子孫を優遇し、其他臨時の恩典亦頗る多し、故に百官皆身家を以て慮となさずして各々自ら其の治行を勉む。眞仁英三朝の時諸名臣輩出して吏治の循良を致したるも、蓋し此に由る然れども、敗軍の將あるも科擧の内賄賂を行ふ者も刑部にあらざして擅に死罪を斷ずる者も此を罰すること皆寛なり、是即ち恩賞獨り行はれて威刑用ゐられず、何を以て内は姦を懲し、惡を退け外は東北の強敵に對して以て國威を張ることを得んや、之を要するに趙宋一代の弊源は一に弱の一字に在り、外交是を以て振はず、内治是を以て張らず、悠悠閑々の中遂に相率ゐて衰滅に漸す、老泉の審勢に曰く、噫、有可強之勢如秦、而反陷於弱者何也、習於惠而怯於威也、惠太甚而威不勝也、夫其所以習於惠而惠太甚者、貧數而加於無功也、怯於威而威不勝者、刑弛而兵不振也、由貧與刑與兵之不得其道、是以有弱之實著於外焉、何謂弱之實、曰官吏曠惰職廢不舉、而敗官之罰不加嚴也、多賂數救不問、有罪而典刑之禁不能行也、冗兵驕狂負力幸貧而維持姑息之恩、不敢節也、將帥覆軍匹馬不返、而敗軍之責不加重也、羌胡彊盛凌壓中國、向邀金繒增幣帛之耻、不爲怒也、

其三 新法

内治の張らず、外交の振はざる、是の如し、殊に外交を以て太甚しとなす、苟くも志ある者、誰か堂々たる衣冠の邦を以て胡羯腥膻を禮するを快とする者あらむや、是に於て神宗慨然として恢復の志あり、嘗て景福殿の庫前、章參看に題して曰く、五季失圖、獮狁孔熾、藝祖造邦、思有德艾、爰設内府、基以募士、曾孫保之、敢忘厥志、又詩あり、每度夕惕心、妄意違遺業、願予不武姿、何日成戎捷、と、朝臣を歴觀するに、與に圖るべきなし、王安石入對し、言必ず堯舜を稱す、士大夫も亦皆之を重んず、神宗之を悦びて遂に延きて參政となす、是に於て建議して、制置三司鹽鐵、廣支、戶部、條例司を制置して、新法を行ふ、呂惠卿、韓絳等之を輔く、

其一、青苗法とは青苗の時節に官金を人民に貸し、秋歛の節來らば息三分を出さしむるを云ふ、

第二、保甲法とは十家を保となし、五十家を大保となし、十大保を都保となし、凡て保丁をして弓習を置き、武藝を習はしめ、衆の服する所の者二人を撰びて正副都保となし、以て之を統べしむ、



其三、保馬法馬を養はむことを願ふ者あるときは官より馬若くは其の價を給し、歳ごとに其肥瘠を閲し死病する者あらば之を償はしむ。

其四、市易法とは京師に市易務を置き官錢を支出し商業を營みて贏利を博す。其他均輸法、預買法、募役法、方田均税法等前後相尋ぎて起る此等の法固より必しも非なりと云ふにあらざれど施行の人其任を得ず且急激たる變革なりしかば大に財政の紊亂を生ずるに至れり殊に青苗法を以て太甚しとなす此法は元來陝兩轉運使李參其の兵の食少なきを苦みて民をして自ら麥粟の贏餘を度り先づ貸すに錢を以てし麥粟の熟するを俟ちて之を官に輸さしむ之を青苗錢と號す安石も亦初め鄆縣に知たりしとき穀を貸して民に與へ後息を立てし之を償はしむ當時皆其結果を奏したり會々河北轉運使王廣廉亦之を行ふ安石即ち意を決して之を天下に施く然れども當局の官吏は強ひて之を民に貸し又強ひて之を償はしむ蘇轍之を論じて曰はく以錢貸民吏緣爲姦錢入民手雖良民不免妄用及其納錢雖富民不免違限鞭箠必用州縣不勝煩矣と蘇軾又當時の官吏を論じて曰はく此等朝辭禁門情態即異暮宿州縣威福便行驅迫郵傳折辱守宰公私煩擾民不聊生と

是に於て議者紛然として之を争ふ韓琦、范純仁、司馬光、程顥、呂公著、唐介、趙抃、富弼、歐陽修、文彥博、蘇軾、蘇轍等是なり然れども神宗固く執りて可かず故に或は外官に補せられ或は貶黜せられ或は獄に下さる王安石既に内政を改め亦外國と戰を開く是時西夏の元昊既に卒して子諱祚立つ宋將神爵之を襲ひ綏州を取る諱祚卒して乘常立つに及び大舉して入寇す王韶平戎策を上りて曰く西夏を取らむと欲せば諸羌吐蕃等が據有する河湟(甘肅省蘭州西寧二府の地)を復して夏人の右臂を斷つべしと安石之を可として熙河路を置く土地を得たれども兵を損じ怨を構へたること少からず又章惇をして湖北察訪使となし現今湖南地方の蠻獠を征伐せしめ熊本をして四川貴州地方の群夷を降せしむ沈起劉彝桂州に知たるに及びて交趾と隙あり其王德乾大舉入侵して現今廣東廣西地方に至る官軍死する者十に六なり仁宗の時遼興宗崩じて道宗位を嗣ぐ宋の邊備を修むること嚴にして蔚(直隸省內應朔)山西省內州を侵すを觀て之れを詰り別に地界を立つるを求む安石曰はく將此之を取らむと欲せば必ず姑く之を與へんと地を失ふと數十里に及ぶ又蔡確王



珪の職を用ひて幸憲をして夏の靈武を攻めしむ克たず士卒の凍餓する者十に五六なり帝中夜報を得起ちて榻を環り以て曉に至る尙ほ徐禧に驕きて永樂新城を築く夏人大擧して來攻し諸軍敗死する者万三千に及ぶ帝奏を聞きて痛悼して食はず

内治外交の狀態此の如し之を責むる者止まらず帝も亦自ら疑ひ且安石の體態を厭ふ故に安石の位を去る三四なりと雖も政權は常に其黨に在り蓋し君臣功名を喜びて急に非常の事を行はむと欲したれども人其器に非るを以て遂に挫折して禍を國家に遺すに至る帝在位十八年精を勵し治を求め日晨まで食するに暇あらず將に大に爲すあらむとして一事の意の如くなる者なく僅に三十八歳を以て崩す時に皇紀白河一七四五年なり皇太子煦立つ是を哲宗となす

第十章 北宋の衰亡

哲宗時に十歳なり神宗の母高氏太皇太后となりて政に與る太后嘗て新法の非なるを神宗に言ふ是に於て盡く新法を廢し司馬光其他諸賢才を任用す天下皆其風采を想望す然るに光薨じ太后亦八年にして崩じ帝政を親らするに及びて揚畏の

言を聽きて章惇を召し以て再び新法を行ひ紹聖と改元す其意熙寧元豐神宗の年號にして安石の政なり(の聖意を紹述するに在り又元祐時代哲宗幼年の年號にして太后及び司馬光等の政なり)の反對黨を目して姦人となして之を貶竄し已に死したる者は其官爵贈封を追奪す

蓋し宋は黨派の争鬭盛なる時代なり仁宋の時郭后尙美人の事によりて呂夷簡と范仲淹相争ふ蔡襄四賢一不肖の詩を作る四賢は范仲淹尹洙歐陽修余靖にして一不肖は高若納を斥す若納は當時の諫官にして夷簡に黨して歐陽修の譴責を受けたる者なり(八家文中與高司諫書參看帝又王素歐陽修余靖蔡襄を以て諫院の職に充て韓琦范仲淹を以て樞密副使となし夏竦を以て樞密使となすに當り諫官論じて諫を罷り壯術を以て之に代ふ石介慶曆當時の年號聖徳の詩を賦して之を祝す竦大に怒りて其黨と論を造りて衍等を目して黨人となし互に相軋轢して朝廷に進退す歐陽修朋黨論を上りて之を辨ず英宗の時濮議ありて韓琦歐陽修等と王珪司馬光呂晦范鎮范純仁呂大防呂公著と相争ふ(八家文中論濮安懿王典禮劄子參看蓋し守人議論を好みて公正相高ぶらんと欲するに由る神宗の時王安石黨と非



新法黨と相軋して水火も嘗ならず哲宗の朝に至りて學術上の争之に加はりて非新法黨の内又小黨派を生ず洛黨は程頤朱光庭賈易等川黨は蘇軾呂陶等朔黨は劉摯王巖叟劉安世等にして互に相攻隙す故に安石黨其間に乘じて摺撃し一綱に打ち盡すを得たり哲宗在位十五年にして崩じ皇弟信立つ是を徽宗皇帝となす帝即位の初め韓忠彦韓琦の子の言によりて范純仁等を任用し元祐の正人を追復して蔡京蔡卞章惇等を却けたれども久しからずして更に蔡京等を任用し再び司馬光等を追貶して其子孫の京師に官するを止め蘇轍范純禮劉奉世等五十餘人の官を黜け前後すべて一百二十人を姦黨となして御書を以て之を端禮門前の石に刻し更に諸州縣をして蔡京自筆の黨人碑を立てしめ王安石を以て孔子に配享し熙寧元豐の新法黨を顯譏問に圖せしむ京或は相位を去て趙挺之張商英何執中鄭居中劉正夫余深等之を承けたれど京の権力は依然たり其子收亦大に寵用せられ滿朝皆其黨なり享以爲へらく豊亨豫大の運に當ると専ら奢侈を以て上に勤めて土木の功を究極す内侍童貫梁師成之と表裏して勢欲奮灼す帝亦昏愚にして道士を寵し政事大に亂る

此時遼も亦頗る衰ふ初め遼興宗西夏の變に乗じて宋を脅迫し其歲幣を増さしめたりしが當時既に衰運の兆見はれたり故に黨項叛去し夏主元昊之を救ひたりし時帝之を服する能はず遂に和を許すに至る帝宋の至和二年を以て崩じ道宗其位を嗣ぐ初政頗る觀るべきも耶律乙辛權を擅にするに及び群邪重用せられて忠士斥逐せらる諸部反する者多し帝徽宗即位の元年を以て崩じ天祚帝其位を嗣ぐ乙辛を誅したれども大勢既に去る是に於てか金起る

金もと女眞 *Nehin* と稱す肅愼氏の遺種にして朝鮮現今の咸鏡道の東北境及び滿州吉林黑龍江二省の地を占む漢魏に之を挹婁 *Tih-lo* と謂ひ後魏時代には勿吉 *Wuh-keih* 三韓隋唐には靺鞨 *Moh-hoh* の稱あり唐初黑水粟末の二大部あり渤海國は實に粟末氏なり契丹太祖渤海を亡すの後其民二に分かる西方にありて遼に屬する者を熟女眞と云ひ黑水(黑龍江)に居る者を東女眞若くは生女眞と云ふ風俗朴陋なれども驚悍にして騎射を善くし遼を攻め高麗と戦ひ或は我國を侵す後一條天皇の時(宋の眞宗)五十餘船來寇して對島隱岐を殺略す太宰權帥藤原隆家逆撃して大に之を破る事國史に在り遼道宗の時完顏烏古迺もと按出虎水阿勒楚喀河にして吉



林省內黑龍江上の一支流に住す遼の叛臣を捕へて功あり遂に節度使となる其子  
 を効里鉢と云ふ烏雅東阿骨打等十一子あり阿骨打沈毅にして大志あり立つて長  
 となるに及び遼天祚帝禽色に荒み歲毎に名鷹を求む阿骨打初め命を奉せしも其  
 項擾に勝へずして遂に自立し混同江(混同江の混同はハルハイン)邊を侵掠す遼一たび之を征して敗ら  
 れ天祚親征して復敗らる阿骨打國を建て大金と號す是を太祖武皇帝となす時に  
 宋徽宗の政和五年(皇紀高羽一七一五年高麗第七十六世睿宗十年)なり  
 是れより先遣貫嘗つて西夏を攻めて功あり遂に謂へらく契丹も亦圖るべしと乃  
 ち自ら使を奉じて之を覘ふ燕人馬植燕を復する計を獻す貫之を喜ぶ姓名を趙良  
 嗣と改めしむ其策に曰く眞遼人を恨むこと甚し今天祚荒淫にして道を失す之と  
 相結ばし圖るべきなりと遂に馬政をして同盟の計をなさしむ宋昭曰はく金遼と  
 限る猶虎狼の陷阱に陥らるゝが如し之と合して遼を攻むるは陷阱を去りて虎狼  
 を抱くなりと宰相王勳等以爲へらく機失ふべからずと遣貫蔡攸等亦之れを懇懇  
 す帝遂に良嗣をして約せしめて曰はく金は遼の中京大定府(内蒙古科爾沁右翼南)  
 を取り宋は燕京及び西京(山西省大同府)を取らん彼此の兵は故北口(關名)にして順

天府密雲縣の東北を過ぐるを得ず歲幣は猶遼の如しと是に於て金兵を發して中  
 京を陥る宋將童貫等之に應じて燕を攻む遼參政李處温燕王淳を立てて天錫帝と  
 なし耶律太后蕭幹と共に之を拒ぐ既にして淳死して太后蕭氏固守して降らざ貫  
 等即ち援を金に求む太祖兵を進む燕降る太祖更に其將幹魯幹離不等をして天祚  
 を攻めしむ夏主李乾順(曇雲より)第四世之を迎ふ既にして金太祖在位九年にして  
 崩じ太定吳乞買嗣ぎ立つるに及び遂に天祚を追擒す遼九世二百十年にして亡ぶ  
 時に宋の徽宗宣和六年にして皇紀崇徳一七八四年なり耶律大石遁れて吹河(Blind)  
 邊に國を立つ是を西遼となす事後章に詳かなり  
 此の如く宋は金と共に遼を亡したれども其實際を觀れば全く金の獨力たり是に  
 於て事平ぐの後宋使約の如くせむことを求めしに太祖其出兵の期を失ふを責め  
 且つ曰く燕京は金兵を以て攻下したれば其地は宋に與ふも租税は之を我に輸す  
 べしと即ち遂に契丹に與へたる歲幣に加ふるに百万緡及び糧二十万石を以てし  
 僅に六州(燕京涿易檀順景薊)を得たるのみ宋人燕京に入りたるも得る所一空城の  
 みと云ふ宋は此の如くにして辛うして石晋が契丹に賂ひし故地を得たれども



と劉守先が與へたる三州(營平灤)にして此時營灤は平に屬す(を)忘れられれば關内の地未だ全く之を復したりと云ふべからず然るに平州の將張毅は遼の故將にして金に降りし者なり是に至りて更に宋に降る宋即ち之に乗じて平州を收めむと欲して之を許すまた宋が遼の故帝天祚と相應するを聞き金太宗韓離不等をして一面は天祚を滅し一面は宋を攻めしめ長驅して京師を圍む徽宗内禪す太子桓立つ是を欽宗皇帝となす

帝即ち蔡京等の諸姦を貶黜し天下に令して勤王の師を徵し李綱に任ずるに城守の策を以てす种師道等之を助く然れども宰相李邦彥張邦昌等和議を執る金將求めて曰はく金五百万兩銀五千五万兩牛馬万頭表段百万匹を出し且中山河間太原の三鎮二十餘郡を割き宰相親王を以て質となさむと帝遂に之を許して三鎮を割くを約し且京城の括金二十餘万兩銀四百餘万兩を與ふ金人即ち去る城を圍むこと三十日なり是時勤王の師前後二十餘万至りしも朝廷之を許さざるを以て傍觀するのみ然れども密かに三鎮をして堅守せしめ且耶律余覲遼の遺族にして金將たりと内應を約し耶律雅里遼の遺族にして西夏の北にありを招かむとす金

太宗怒りて更に韓離不粘罕をして東西より侵入むと再び京師を圍まじむ張毅夜等力戦したれども城遂に陥り二帝を捕へ并せて后妃太子宗戚男女三千餘人に加ふ城中の子女寶玩軍服圖書盡く括取せられざるはなし時に靖康二年なり太祖より此に至るまで九世一百六十七年を経たり(皇紀崇徳一七八七年)

第十一章 南宋と金との交渉

金の北宋二帝を捕ふるや張邦昌を汴に立て帝となじて國を楚と號せしむ居ること三十日にして邦昌馬紳に勧められて徽宗の第十一子康王構を迎立して位に南東(河南省歸德府)に即く是を高宗となす李綱を召して軍政を委し宗澤をして汴を守らしめ李邦彥耿南仲等を貶黜す蓋し彼等は靖康の時和議を主張して國を誤りし者なり然ども帝亦一定せる堅志なし黃潛善汪伯彥相由りて講和説を進めたりしかば國論屢々動きて將帥力を用ふる能はず既にして金人來攻じ高宗鎮江杭州明州越州の各地に轉走すると二三年(此間御營將苗傅劉正彥等反を謀り帝を廢したれども韓世忠等直に之を誅す)遂に都を臨安(杭州)に定む是に於て河北の四京(東京開封府西京河南府南京應天府北京大名府)盡く金の有となり但だ獨には張毅



吳玠吳玠が死して宋を助け高宗の版圖は江南の一帯のみ金太宗即ち粘罕の議を用ひて劉豫を汴に立てし帝となし國を齊と號せしむ八年にして金熙宗に廢せらるる既にして高宗到底其敵すべからざるを知り數を臣と稱じ表を奉じて和を求め且二帝を還すを願ふ金の左副元帥撻懶亦此意あり即ち秦檜を縱ちて之を調停せしむ檜は嘗て二帝に従ひて金に留りたる者なり檜國に歸りて曰く天下の無事を欲せば南は自ら南北は自ら北たるべしと王倫亦之を贊す是時内に在りては胡詮外に在りては李綱張浚韓世忠岳飛皆主戰論を唱ふ檜聽かず王倫遂に命を奉じて金に往く偶々撻懶反を謀りて誅せられ賊中ころ沮す是時金太宗既に崩じて熙宗位を嗣ぐ更に兵を發して宋を攻む劉琦之を順昌安徽省内に敗り岳飛之を郟城河南省内に敗り兩河の豪傑應ずる者頗る多し尋ぎて劉琦等亦之を棄置安徽省内に敗る秦檜其和を取るを恐れて皆諸將を召還し金將兀朮等も亦書を遣りて曰く爾ち朝夕和を請ふも岳飛頻りに河北を圖るは何ぞやと副宗使張俊素と飛と隙あり即ち檜と與に其罪を構成して飛父子を論殺す天下之を冤とす檜又大に文字の獄を起して盡く主戰黨を貶竄し權を攪ること十八年高宗成を仰ぐのみ和議遂に成り

河南は淮を以て界となし其唐鄆南陽近邊三州をば金獲之を有し陝西は大散關(鳳翔の西南)を以て界となし歲毎に銀絹二十五万兩匹を貢じ表は臣と稱す金熙宗之を呼びて廢王となし後更に冊以て宋帝となし徽宗の梓宮及び章太后を歸す時に紹興十二年(皇紀近衛一八〇二年)なり(卅年欽宗五國城に殞す)當時金國屢々内亂あり宗晟大臣相繼ぎて誅夷せらる且つ蒙古北に起りて互に兵を交ふ故に宋と和す若秦檜の和議なかりせば回復或は幾すべきか七年を經て皇族亮遂に熙宗を弑して自立亡之を海陵王となす上京會寧府の僻在を以て燕京に城きて之に遷り名けて中都大興府となし上京を北京となし汴京を南京となし遼陽を東京となし大同を西京となし蕃漢の地を分ちて十四路となし總管府を置く更に南侵を圖りて汴に遷り紹興卅一年盟を破りて六七万人を率ゐる五道より來侵す宋之を采石安徽省内に敗る亮淫虐にして宗室を殺し大臣を誅じて人理なし諸將之を陣中に弑して北遷し皇族烏祿漢名雍を立つ是を世宗となす翌年宋高宗位を皇太子睿に禪る是を孝宗となす(高宗在位三十六年)孝宗銳意回復を企てたれども輔佐其人を得ず即位の始め一たび張浚等北侵したれども利ありず遂に世宗と



和を結ぶ是れまで兩國書を遣るに君臣の禮を用ひ金は詔を下すと曰ひ宋は表を奉ずと曰ふ大宋の大皇帝の皇を稱するを得ず金使至れば則ち起立して其起居を問ひ坐を降りて書を受け館伴の屬皆金使を拜す宋使は金に至れば陪臣に同じ孝宗の和議に至り始めて叔姪の國となり皇帝と稱するを得詔表の稱を變じて國書となし歲貢を更めて歲幣となして且其數十万を減じ地界は熙宗の舊に復す是に於て兩國姑く休息を得たり金世宗賢明仁慈宗戚を賊めて儉約を務め賢才を任用して心を民治に盡す金人號して小堯舜となす宋孝宗の大に志を得ること能はざるは多く此に因る孝宗在位二十七年にして位を太子惲に禪る是は光宗となす其歲金世宗在位二十八年にして章宗之に代はる光宗皇帝在位五年にして崩じ太子擴立つ是を寧宗皇帝となす其の此に至りたるは趙汝愚韓侂胄等の力なり是を以て侂胄専ら定策の功を負みて權人主を傾け戚上下を制す黃裳嘗て朱熹を薦む熹政事の日非なるを觀て論奏し侂胄の怒に觸れて罷めらる朱熹は當時の碩學にして其門人頗る多し侂胄即ち之を偽學の黨人となし貶黜構陷遺すなし李沐何澹劉德秀胡紘沈漸相之が爪牙たり趙汝愚も亦讒せられて貶竄せられ藥を服して死す開禧二年(皇紀土御門一八六六年)侂胄更に金と和を破りて北伐したりしが却て逆攻せられ蜀漢荆襄兩淮皆陥らる朝廷大に震ふ皇后楊氏史彌遠と計りて之を誅し其首を送りて金に獻す和議復た成る叔姪を改めて伯姪となし歲幣を増して三十万兩匹となし犒軍銀三百万兩を償ふ侂胄政を専らにすること十三年なり其歲金の章宗崩じて永濟位を嗣ぐ

第十二章 蒙古の勃興及び宋金の滅亡

蒙古は(蒙古は勇悍の義なり)女眞の北に在り夏の獯鬻周の獯豷秦漢の匈奴みな茲に據る唐の時蒙兀部あり亦蒙骨斯と號す字端父兒(Budansar)と云ふ者あり稍強大にして幹難(Onon)克魯論(Kerulion)兩河の間を有す其八世の孫也速該(Yenchai)烈祖と號す及び諸部を併呑して始て強大なり宋の高宗紹興卅二年(我二條一八二二年)也速該塔々兒部を攻め其部長鉄木眞(Timur)を獲て還る會々其妃月倫(Milun)一子を生む手に凝血赤石の如き者を握る即ち名づくるに鉄木眞を以てす十三歳にして嗣立す諸部之を侮りて叛き去る者多し是に於て先づ泰赤烏(Taischuh)部を破り克烈(Kerite)を服し乃蠻(Naiman)の會長太陽汗(Toyangshan)を獲弘吉剌(Konguras)を降



して其の女を納る兵を用ふること三十餘年宋寧宗開禧二年(皇紀土御門三六六六年)大に諸部を幹難河上に會し九游の白旗を建て、位に即く是れを太祖成吉思汗(Jenghis Khan)となす時に金章宗泰和六年なり此時金國既に亂れて太祖其命を奉せ、  
 遼帝衛王永濟位に即ぐに及びて使を發して曰はく應に來り拜すべしと太祖嘗りて曰く我謂ふ中原の皇帝は是れ天上の人なりと此等も亦之を爲すや何を以て拜するを爲さむと金王怒る是れより連歲兵を交ふ此時金國頗る衰へ山東地方盜賊蜂起し遼の遺族耶律留哥も亦叛きて蒙古に降り永濟將士の心を失ふ遂に結せられて宣宗立つ蒙古太祖既に西夏と姻を結びて三道より金を侵す其の三子尤赤(ユウ)察合臺(Jagatai)窩渾臺(Oghatai)は右よりし其弟哈散兒(Hachar)は左よりし中軍は太祖親ら第四子拖雷(Tögröq)と與に進む燕南山東河北五十餘郡皆降り蹕を燕北に駐む金主宣宗岐國公主宣宗の女及び童男女五百馬三千と金帛とを與へて以て和を結ぶ然れども燕に自立する能はざるを度りて汗に還る太祖怒りて曰く是れ我を疑ふなりと更に兵を發して燕京を陥り汗を距る二十里にして止る是に於て金人之を南に償はむと欲して遂に盟を破りて宋を侵す(韓侂胄誅後)其七年を經たり

宋寧宗之を防ぎて互に勝敗あり既にして金章宗在位十二年にして崩じて哀宗立ち其翌年宋の寧宗崩ず在位卅年なり史彌遠佞胄を誅せしより頗る驕恣なり昭々として皇子的を立つ是を寧宗皇帝となす(韓侂胄誅後)其七年を經たり  
 是時蒙古太祖西域諸國を征服して(事後章にあり)還り更に金を侵さむとせしが途中六盤山に殂す(在位三十二年壽六十六時)に宋寧宗寶慶三年(皇紀後堀河一八八七年)なり太祖深沈にして用兵神の如し其版圖歐亞二州に跨り西は裏海より東は支那海に達す第三子窩渾臺位を嗣ぐ是を太宗となす初め太祖崩ずるに臨み遺言して曰く金の精兵潼關に在り南は連山に據り北は大河を限る以て遠に破り難し道を宋に假るに若くなし宋金は世讎なり必ず我に許さむと是に於て太宗は一面は金を攻め一面は宋に好を通ず宋人初め之を聞かざれども遂に之を許し事成らば河南の地を取るに約す朝臣皆以爲らく復讐の舉を遂ぐべしと獨り趙范喜ばず曰はく宣和海上の盟金と連合して遼を亡ぼせしと鑑せざるべからずと既にして蒙古將連不魯(Shangbu)汴京を陥れて哀宗出奔終に蔡州(河南省内)に據る使を宋に遣して曰く宋金は唇齒なり金亡はば宋死はむと宋人許さず更に孟洪をして蔡州を



攻めしむ哀宗位を承麟に傳ふ宋元の師入る哀宗自經して承麟獲らる金太祖より九世百二十年にして亡ぶ時に宋理宗端平元年(皇紀四條一八九四年)なり理宗初年彌遠政を専らにして正入を貶斥し金亡の前年を以て卒し帝始て政を親らず丞相鄭清之國家を以て己の任となし賢に任じ能を使ひ眞德秀魏了翁を任用す是に於て趙范趙葵等金の亡に乗じて恢復の計を薦む鄭清之亦之を賛し日を刻して師を進む史嵩之(彌遠の姪)丘岳杜果等皆之を諫む聽かれず趙范遂に汴及び洛陽を取る蒙古の太宗王機をして宋の破約を責めしめ是れより淮漢の間寧日なし其後相繼ぎて相たる者皆凡庸にして景定年間晋似道政を執りしより總明を墜蔽して善類を杜絶し國勢益々衰ふ然るに元に在りては太宗賢相耶律楚材に任じて國政日に舉り賦税の法を定め科擧を試み學校を設く國家殷富にして庶民業を樂む在位十三年にして殂す(理宗淳祐元年)皇后乃馬眞朝に臨で制を稱すること五年にして太宗の長子貴由(Köge)位に即く是を定宗となす三年にして殂し蒙哥(Möngke)拖雷の長子を以て位を嗣ぐ是を憲宗となす内亂を鎮定し史天澤趙壁を以て河南經略使となし親ら大軍を率ゐて蜀に入りて一軍は瀘州を圍み一軍は鄂州を圍み親ら合州を攻む在位九年にして崩す太弟忽必烈(Kublai)當に鄂州を苦攻す買似道之を禦きたれども當るべからず即ち密かに宋京を蒙古の營に派して巨と稱し幣を納るるを請ふ太弟許さず會々合州太守王堅憲宗の訃を似道に報ず似道再び之を乞ふ是時忽必烈其弟阿里不哥(Arighbaha)の立たむとするを聞き郝經に勸められ即ち和を許し還へりて開平府に至り位に即く是を世祖となす是に於て買似道その和議を匿し上表して言ふ鄂圍始めて解け江面肅清なりと帝之を賞す既にして世祖郝經をして來り和を議せしむ元將王文統もと經と隙あり陰かに田李壇に諷して宋を侵し以て之れを沮撓し手を假りて經を害せむとす而して買似道も亦秘密なる和議の顯はるるを恐れて李壇を以て辭となして經を囚禁し諸功臣向士璧曹然雄を貶死せしむ瀘州守劉整亦禍を懼れて元に降る呂文徳また瀘州を復す然るに元人貿易場を設くるに托して城堡を襄陽城外に建てて兵を畜ふ理宗在位四十一年にして崩す太子壘立つ是を度宗皇帝となす是時蒙古の國勢益々盛なり桃樞劉秉忠安童伯顔等を任用し都を燕京に奠め至元と改元し師を出して襄陽を攻む守將呂文煥文徳の弟苦守す此時宋に在りては買



似道權を執りて太平を襲ひ他相手を撰するのみ一時正人斥逐せられて殆ど盡く上書して襄陽を救ふを乞ふ者あるも之を達せず是を以て將士元に降りて國の虛實益明かなり六年にして襄陽遂に陥る至元八年(宋咸淳七年)皇紀龜山一九三一年)遂に國を大元と號す劉秉忠の義に従ふなり三年を経て度宗崩じ(在位十年)皇子昞立つ是を孝恭懿聖皇帝となす元世祖史天澤伯顔をして南侵せしむ天澤遂に卒す天澤忠亮にして大節あり將相に出入する五十年に近し伯顔獨り進んで兵を襄陽に會し建康を攻む似道漸く師を出したれども潰敗し尋ぎて貶死す元兵進んで臨安を攻む張世傑陳宜中文天祥等防禦を力めたれども遂に支ふべからず賈餘慶帝及び皇族を奉じて降る在位二年なり兄益王昰逃れて福州(福建省内)に至る陸秀夫陳宜中張世傑來會し之を立てて端宗となす間關三年福州島(廣東省に屬す)に崩す弟昺立つ元帝張弘範をして之を攻めしむ文天祥執へらる帝奔りて崖山(全上)に據る弘範更に之を襲ふ陸秀夫帝を負ひて溺れ諸將皆敗死す高宗より九世一五三年宋凡べて十八帝三二〇年にして亡ぶ時に元世祖至元十六年にして皇紀後宇多帝一九三九年なり讀者若し宋の外交政略を熟考せば蓋し思半に過ぎん

第四篇 近世史

第一章 蒙古人の歐亞侵襲

西歷十三世紀の歐洲は將に是れ暗黒時代(Dark Age)を脱して近世文明の萌芽を生ずるの時なり封建制度騎士制度も既に衰へ法王の權力十字軍の餘燼漸く去らむとす當時政治上の狀況を云はむに日耳曼に在りては奥國ハンヌメンブルグ家(Hapsburg)王位に在りて雖も實權擧諸侯の手中に在りて佛蘭西にはカペー(Cape)家王位を嗣ぎて「ハンリー」(Henry)第一世以來英吉利と相争ひ英吉利に在りては「ノルマン」(Norman)系統既に絶して「プランタゲネット」(Plantagenet)家位を踐み其第三世「ジョン」(John)王に至り「ノルマン」を失ふも大憲章(Magna charta)を得て他日民權發達の種子を蒔き伊太利に在りては二十三市府連合して「ロンベノマー」(Lombardy)同盟茲に生じ日耳曼帝の羈絆を脱して共和政治を行なひ「ヴェニス」(Venice, Genoa)當時商業上の中心となりて屢々東洋と交通を生ず西班牙に在りては「ムーア」(Moors)權力を失ひて「カスティー」(Castile)の「フェルディナンド」(Ferdinand)「アラゴン」の「イサベラ」(Isabella)の祖先王國を組織す之を要するに African 人種の内羅句



Celts, Franks 等既に國家の組織を成せども Slavonians の如きは全く草昧の中に在りて今日の聖彼得堡も莫斯科府も寒月照らして狐兔躍るの時なり是時に當りて餘蹄の向ふ所羽旄の指す所攻むれば取り戦へば勝ち中央亞細亞を制服して南露を侵略し匈牙利に入り埃地利を脅かしたるは實に蒙古人の雄圖にして將に歷山王印度の侵入より年を距ること大凡一千五百年なり東西兩人種の衝突再び新たにせられて遂に今日の世界を生ずるに至るを少く之を記せむ。

初め元太祖成吉思汗の位に幹難河上に即くや大陽汗の弟トゴトギス(Toqtoq)と與に逃ちこれを殺す太陽汗の子屈出律(Kushlek)萬里乞(Merkit)の酋長脱々(Toto)と與に逃れて世里的石河(Iris)に走る成吉思汗之を襲殺す脱々戰死して屈出律西逃に逃る是れより先き金の邊を亡びせし時遺族耶律大石衆を率ゐて西走し回鶻諸部を服し肌爾薩吹河(Oron)上に在りに至り都城を建て骨斯訛魯朶と名づけ濶兒汗と稱す天祐帝是れなり時に宋徽宗宣和七年(西曆一一二五年)なり史にこれを西遊の徳宗と稱す或はこれを黑契丹若くは合刺乞塔(Kashkit)と云ふ是れより先き塞爾受克(Seleuk)シベリヤ(Sibirian king malek sha)土耳其人種 Syria Palestine 等を襲ひて其の權力頗る強大なり其一支族東羅馬より小亞細亞地方を取りて Ikonium 國(現今

亞細亞土耳其の一部)を建つ是に於て徳宗西下して此地方を侵掠し東西土耳其機斯坦全部及び花刺子模 Khwarezm (波斯灣より印度土耳其機斯坦の境に至る)を一統し其勢頗る盛なり相傳ひて天祐帝直魯克(Terek)に至り頗る衰ふ屈出律これに乗じ花刺子模の梭里檀(回教の君主)と謀りてこれを襲ひ其位を篡ふ(西遊四世八十八年にして亡ぶ)

是に於て成吉思汗先づ屈出律を滅して更に使を花刺子模に發す梭里檀之を殺して答へず又蒙古の隊商にして訛答刺(Chagatai)川邊に在り城主イナルハン(Altai)に殺されたる者ありしかば即ち意を決して宋寧宗嘉定十二年(西曆一一一九年)和林(喀爾坤 Karakorum)を發して兵を分ちて二となし一は察合台之を率ゐて訛答刺城を陥れ他は朮赤之を統べてゼンド(Zend)に向ひ大に敵軍を敗る太祖拖雷と與に蒲華(Bokhara)を陥れ撒馬兒罕に侵入す梭里檀國を其子札蘭丁(Jalal-din)に禪り走りて裏海の一島に逃る成吉思汗即ち拖雷をして波斯に入らしめ也里(今 Herat)を取りて更に與に札蘭丁を「インダス」(Indus)河畔に破る札蘭丁身を以て Delina に逃る成吉思



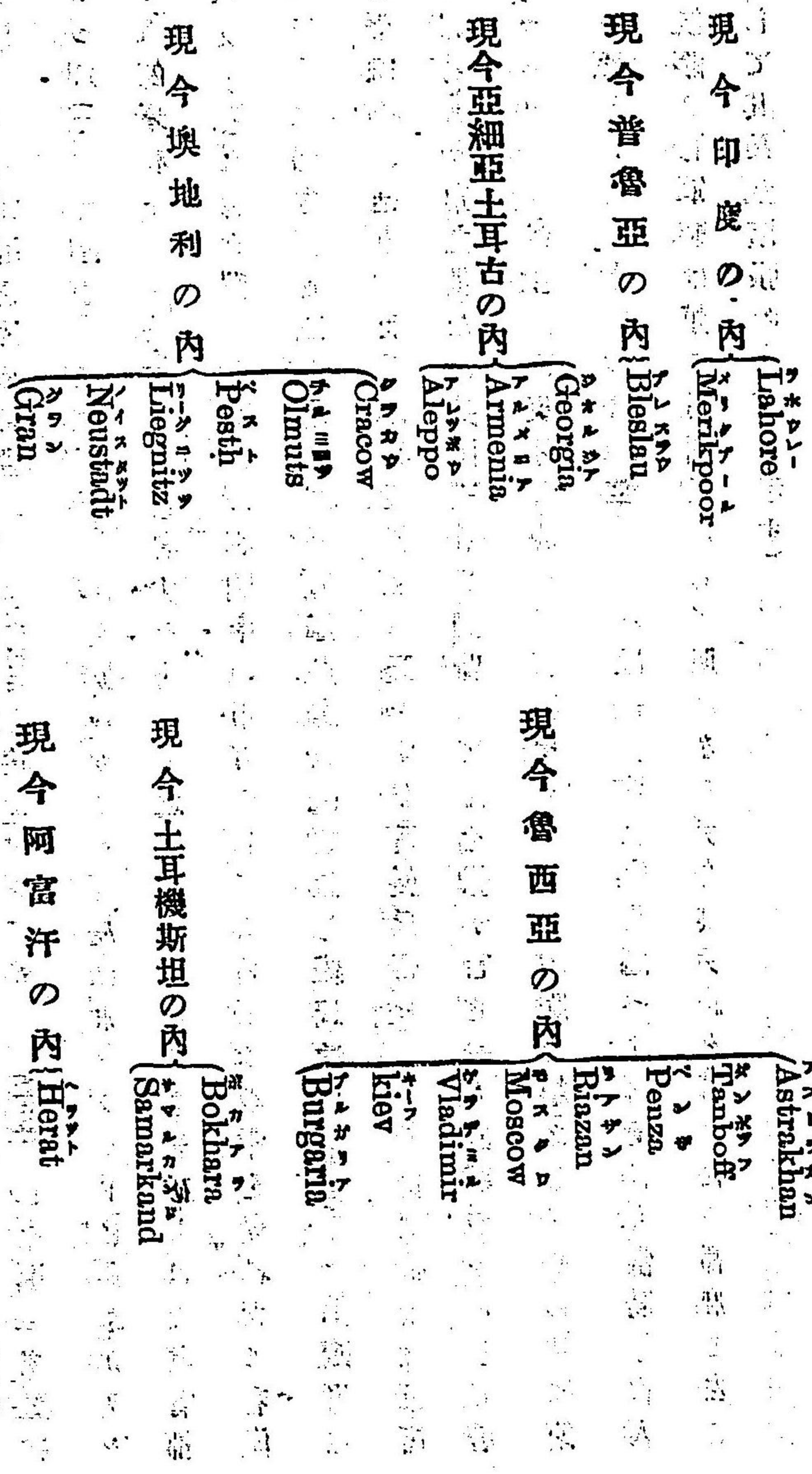
汗之を逐はしめられたれども及はず且薩燕の恐ありしかば Lalore Melikpoor 等を抄略して遂に和林に還へる然れども其將只別 Chope 速不台の二將は梭里檀追撃の命を受けて「マナルマヤ」(Georgia)に入り甲加索地峽を横ぎりて南方露西亞に侵入す時に太祖十八年(西曆一二二三年)なり是時魯の諸侯皆驚愕して爲す所を知らざりしも漸く Galicia 侯 Mislifor 之を統へて防禦せしむ一戰して Kalka (ヤン川の口の近邊)に大敗す二將進んで不里阿耳(Bulgaria)を攻略し寶貨子女を奪ひて Altuba 河に沿ひて歸陣す南宋理宗寶慶三年成吉思汗遂に西夏を滅して(西夏彝宥より十世百九十年にして亡ぶ)金を侵さんとしが途にして崩す時に西曆一二二七年(英國の大憲章創定より二年後)なり

此時成吉思汗の版圖は實に歐亞二州に跨る長子朮赤既に死したれば其遺族南方露西亞及び北方亞細亞を與へ次子察合台には中央亞細亞を與へ第三子窩骨台は帝位を踐みて太宗となり第四子拖雷之を助く太宗六年(西曆一二三四年)宋理宗と約して金を亡し更に宋を侵さむとせしが扎蘭丁「アルロ」の公主に尙して來攻するを聞き逆撃して之を破る扎蘭丁遂に土民に殺さる翌年太宗朮赤の子拔都(Batu)を元帥となし蒙哥(憲宗)にして拖雷の子海都(Kaidu)太宗の孫等之を助け五十餘万人を引率して露國を征伐す先づ「マオルマヤ」を襲ひ更に進みて亦的勒河(今 Volga)を渡り更に速不台をして不里阿里を陥れ拔都親ら南露に入りて烈也贊(Biazan)府を屠り頗る慘酷を極め長驅して Moscow を並せ「サラヂミル」(Vladimir)を屠りて更にドン川(Dnie)を南下して「乞瓦」(Kiev)城を圍み「ガリシヤ」及び「ボツラント」に向ふ「ガリシヤ」人匈牙利王「ベラ」(Bela)第四世と力を合して之を禦ぎしも直ちに破られて其首都「ペスト」(Pest)を陥る當時匈牙利國中の市府にして蒙古人の攻撃を免れたる者僅に三處に過ぎずと云ふ是に於て西歐諸國大に震動し羅馬法皇 Innocent 第四世は書を拔都に送りて和を求めたれども聽かず日耳曼皇帝 Friedrich 第二世は佛蘭西の路易 Louis 第九世及び英國王等と同盟して之を禦がむとせり其勢熾々として恰も「マホメント」教主が西班牙を略して將に「ピレニース」山脈を越えむとせし時に似たり然るに會々太宗の訃報至りしかば拔都遂に師を還へすに至れり(當時蒙古人の侵略せし軍略は頗る紛糾錯雜して明かならず今其兵禍を被りたる都府を左に記して其兵威擴張の一斑を示す)

汗之を逐はしめられたれども及はず且薩燕の恐ありしかば Lalore Melikpoor 等を抄略して遂に和林に還へる然れども其將只別 Chope 速不台の二將は梭里檀追撃の命を受けて「マナルマヤ」(Georgia)に入り甲加索地峽を横ぎりて南方露西亞に侵入す時に太祖十八年(西曆一二二三年)なり是時魯の諸侯皆驚愕して爲す所を知らざりしも漸く Galicia 侯 Mislifor 之を統へて防禦せしむ一戰して Kalka (ヤン川の口の近邊)に大敗す二將進んで不里阿耳(Bulgaria)を攻略し寶貨子女を奪ひて Altuba 河に沿ひて歸陣す南宋理宗寶慶三年成吉思汗遂に西夏を滅して(西夏彝宥より十世百九十年にして亡ぶ)金を侵さんとしが途にして崩す時に西曆一二二七年(英國の大憲章創定より二年後)なり

此時成吉思汗の版圖は實に歐亞二州に跨る長子朮赤既に死したれば其遺族南方露西亞及び北方亞細亞を與へ次子察合台には中央亞細亞を與へ第三子窩骨台は帝位を踐みて太宗となり第四子拖雷之を助く太宗六年(西曆一二三四年)宋理宗と約して金を亡し更に宋を侵さむとせしが扎蘭丁「アルロ」の公主に尙して來攻するを聞き逆撃して之を破る扎蘭丁遂に土民に殺さる翌年太宗朮赤の子拔都(Batu)を元帥となし蒙哥(憲宗)にして拖雷の子海都(Kaidu)太宗の孫等之を助け五十餘万人を引率して露國を征伐す先づ「マオルマヤ」を襲ひ更に進みて亦的勒河(今 Volga)を渡り更に速不台をして不里阿里を陥れ拔都親ら南露に入りて烈也贊(Biazan)府を屠り頗る慘酷を極め長驅して Moscow を並せ「サラヂミル」(Vladimir)を屠りて更にドン川(Dnie)を南下して「乞瓦」(Kiev)城を圍み「ガリシヤ」及び「ボツラント」に向ふ「ガリシヤ」人匈牙利王「ベラ」(Bela)第四世と力を合して之を禦ぎしも直ちに破られて其首都「ペスト」(Pest)を陥る當時匈牙利國中の市府にして蒙古人の攻撃を免れたる者僅に三處に過ぎずと云ふ是に於て西歐諸國大に震動し羅馬法皇 Innocent 第四世は書を拔都に送りて和を求めたれども聽かず日耳曼皇帝 Friedrich 第二世は佛蘭西の路易 Louis 第九世及び英國王等と同盟して之を禦がむとせり其勢熾々として恰も「マホメント」教主が西班牙を略して將に「ピレニース」山脈を越えむとせし時に似たり然るに會々太宗の訃報至りしかば拔都遂に師を還へすに至れり(當時蒙古人の侵略せし軍略は頗る紛糾錯雜して明かならず今其兵禍を被りたる都府を左に記して其兵威擴張の一斑を示す)





太宗の後に、は定宗位に在り、拔都は露西亞に止まり、國を窩爾瓦河の分流 Akubba に建てて之を薩來 (Sarai) と稱し、之を金黨 (Golden Horde) と號す、其領する所カトルマン山より Balkash 湖に及ぶ、或は欽察 (Kipchak) の稱あり、拔都兄あり、幹魯朵 (Orda) と云ふ

裏海と Aral 海との間地より烏拉 (Ural) 川に至るの地を領す、之を白黨 (White Herde) と稱す、又弟あり、昔班汗 (Sheibani Khan) と云ふ、今の魯領西比利亞の Tatarsk を治む、昔金黨に隸屬す

西曆一二五五年蒙古憲宗五年宋理宗、拔都死して子別兒哥 (Beleko) 嗣ぎ、忽必烈の帝位に即きしを快とせずして、遂に元室と交を絶つに至れり、別兒哥大に耶蘇教徒を虐待したりしかば、羅馬法王亞歷山第四世之れを斥逐せむとせしめ、事成らざる金將 Zogai 等直に波蘭に入りて、シラーカウ附近を掠略して還る、是時金黨の勢力は益々強くして、露國の諸侯皆其の命令を奉じて來朝し、西歐の君主もた婚嫁を結ぶに至れり、子孫相繼ぎて西曆一千三百十三年元仁宗、皇慶二年、月、即別汗 (Uzbek Khan) に至り、雄略ありて國威大に擧る、亦耶蘇回々の兩教の流傳を獎勵して文華都々たり、汗死して漸く衰へ、遂に露人に亡ぼさる、拔都より大凡二百五十餘年なり

忽必烈の弟を旭烈兀 (Hulagu) と云ふ、西曆千二百五十六年元憲宗六年波斯の「イスマイル」家「ロクン」ノ「イスマイル」(Ismaihides, Roknal-din) 帝を降し、Bagdad 國(回教徒の國)を亡じ、更に Aleppo に進み、Damascus を陥れ、Jerusalem を襲はむとせしめ、憲宗の詔を聞き



て師を遣へし征服せし國を統一して伊蘭汗(白)帝國と稱し子孫相繼ぎて西曆十  
四世の末葉に至りて帖木兒に亡ぼさる。嗚呼蒙古人の雄略偉なりと云ふへし更に百餘年を経て帖木兒の興るあり吾人は  
後章に於て其偉績を紹介せむ

### 第二章 元世祖と外國との關係

元世祖忽必烈既に趙宋を亡して都を燕京に奠め以て支那に君臨す漢人種以外の  
眞帝王此を以て始となす帝蒙古人の勇悍なる氣質を承けたりしかば更に兵威を  
四方に耀さむとして朝鮮を介して我國に好を通ず  
我國と漢土との交通は其始を詳にせず後漢書の記事を以て彼が史上我國を傳ふ  
るの始となす蓋し漢武の朝鮮征伐は略ぼ我開化天皇の朝なり(或は云ふ神武帝の  
時なりと蓋し紀元論數種ありて明かならず)彼史に曰はく倭凡百餘國にして當時  
譯使を發して通ずる者三十餘國と又後漢の光武祭彤をして遼東地方を制服せし  
むるに及び其中元二年漢委奴國王の金印を賜ふ(我垂仁の朝)次に後漢の安帝永  
初元年(景行の朝)倭國王師升等生口百六十人を獻じて謁見を請ふと又曰はく桓靈

(我成務の朝倭國大に亂るも男子之を治めしが七八十年にして女子卑彌呼と云  
ふ者あり侍婢千人にして見る者少なし唯男子一人ありて飲食を給し辭服を傳ふ  
居處宮室樓柵城歎皆な兵を持して守衛す魏の明帝景初二年(仲哀の朝)女王使を派  
して帶方の太守劉夏に詣り其吏と共に京師に謁す明帝冊して親魏倭王となす卑  
彌呼死して壹與(女子)立つ其後明かならずと蓋し是れ皆我西陲土豪の私交なり其  
三十餘國は筑紫地方の國造又委奴は怡土伊都にして今の志摩郡船越津なりと云  
ふ卑彌呼は熊襲の女主なり之を要するに當時我國の西海道は未だ王化に霑はず  
して各種族四方に割據し遙かに一葦水を隔て、三韓及び漢土と相對するを以て  
彼土の治亂興亡の影響を受くること少なからざるなり  
神功皇后新羅を服するに及び漢人多く我國に遷徙す中に阿知使主都賀使主と稱  
する者あり後漢靈帝の子孫なりと云ふ應神天皇之を國使となして吳に使せしむ  
吳人始めて繡織女即工女を獻ず時に晉懷帝永嘉四年なり是れ我朝使の支那に至  
るの始めたり其後珍濟興武四王ありて皆南朝の官爵を受け使持節都督倭百濟新  
羅任那秦韓慕韓秦韓は辰韓慕韓は馬韓六國諸軍事安東大將軍倭國王と稱すと蓋







宋興るに及び僧徒商民の交通再び盛にして太宗の時には我僧奮然あり真宗の時には全寂昭あり神宗の時には全成尋と宋商孫忠あり徽宗の時には宋商孫俊明鄭清等あり然れども純然たる國交にあらず唯高倉天皇の時宋明州刺史牒書を上りしに書辭不禮なりしを以て之を却けむとせしも後白河法皇之を許さずして平清盛に議して報書及び聘物を贈らしむ時に南宋孝宗の朝なり後鳥羽帝の時南宋光宗我僧榮西順徳の時寧宗我僧俊芴あり宋商陳和卿あり後嵯峨帝の時理宗僧道隆あり後深草帝の時全上僧道元あり然れども皆私信に屬するを以て元世祖之を回復せむと欲して龜山天皇文治五年戊辰春正月使を我國の太宰府に致す時に至元十九年にして西曆一二八二年なり

時に北條時宗兵權を執り惟康親王を奉じて征夷大將軍となす府帥之を鎌倉に致し更に之を京師に進む其書の略に曰はく朕惟小國之君境土相接尙務講信修睦况我祖宗受天明命奄有區夏遐方異域畏威懷徳者不可悉數高麗朕東藩也日本密邇開國以來時通中國至朕躬而無一使以通和好尙王國知之未審特遣使持書布告朕志聖人四海爲家不相通好豈一家之理哉至用兵夫孰所好王其國之也朝廷之を議せしむ

時宗其不禮を以て答書を不可とす元使潘阜等報を待つこと五月にして卒に筑紫より還る六年蒙古使黑的對馬に至り島人二口を俘にして還り高麗の金有世高柔等更に蒙古の命を奉じて圖書を齎らし太宰府に來り俘を還へせしも亦報せず世祖更に趙良弼を國使となして先づ高麗に抵らしむ良弼命を高麗王元宗順孝王植福に作る第廿四世の君主に傳へて曰はく日本昔より好を上國に通ず爾が國密邇是を以て嚮導を命ず且王昌國洪茶丘等をして金州に屯駐せしむ王其れ軍需を供給せよとまた忻都史樞等をして高麗に諭さしめて曰はく朕嘗て日本に通諭す爾はさりき執迷固滯以て開諭し難しとは今將に經略せむとす有司に敎し卒を發して屯田し用て進取の計をなす庶くは兩國轉輸の勞を免れむ仍りて先づ相懷を示す卿其れ努れせよと十月良弼遂に高麗の徐稱金貯と共に筑前の今津に至る太宰小貳武藤資能これを詰問す良弼實むるに前書の報なきを以てし且京に至りて親から其國書を奉らむとす資能其慣例に反するを以てこれを止む良弼終に副本を以て授く其書の略に曰はく蓋聞王者無外高麗既爲一家王國隣境故特馳使修好疆場之吏抑而不通所獲二人敎有司慰撫資能以還復無所聞日本素號知禮之國王之



君臣寧肯漫爲弗思之事乎特令秘書監趙良弼爲國信使持書以往如即發使與之偕來親仁善隣國之善事其或猶豫以至用兵天誰所樂王其審圖之也時宗書辭不遜なるを以て奏してこれに答へず良弼止ること歲餘にして還へり具さに頗末を陳す世祖頗る怒り兵を發せむとす良弼曰はく臣日本に居る歳餘なり其民俗を觀るに狼勇にして殺を嗜み父子の親君子の義あるを知らず其地山水多くして畊桑の利なく其人を得るも役すべからず其地を得るも富むべからず况や舟師海を渡る禍害測るなし是れ有用の民力を以て無究の巨壑に填むるものなりと世祖從はずして大に軍備を修め高麗をして水軍を裝はしめ忽教を元帥となし洪茶丘を副となし蒙漢麗兵二万三千戰艦九百を以て對馬壹岐に入寇し其守將を殺し直に博多を侵して互に勝敗あり

至元十二年(我後宇多一九二五年南宗恭帝)世祖また杜世忠等をして書を通せしむ時宗之を斬る周福樂忠等至る復之を斬る至元十七年世祖既に宋を亡し之を聞き兵艦を修め忻都洪茶丘范文虎阿剌罕を以て將となし高麗の主忠烈王之を助く十八年忻都等直に對馬壹岐に入寇し進んで博多を侵す肥筑の間蕃艦海を蔽ふ我軍之を防ぐ元軍鷹島(玄海島)に據る時に八月颶風大に起りて元艦盡く碎覆して流尸海を蔽ふ我軍之に乗じて掩撃す文虎獨り身を以て免れ十方の軍子遺なし(時に後宇多天皇弘安四年(西曆一二八一年)なり世祖再び師を興せしも國中盜起り且我國の兵備も益嚴重なりしかば遂に志を得ること能はず帝また安南を征し瓜哇を伐つ西洋の「マルコポーロ」亦來り通ず版圖の廣大漢唐に駕す事後章に詳かなり

第三章 元世祖の内治及び其以後の盛衰

世祖身朔漠より起りたれども夙に志を文學に用ひ侍御史程文海をして江南の人才を訪求せしめ大に宋の遺臣を召用す趙孟頫葉李是れなり文天祥射柳得等を死せしめたるは其本意にあらざり劉因も亦徵に應せずして卒す然れども宰相は必ず蒙人を以て之を爲す文學の士も乏しからずと雖も往下僚に沈みて其力を逞くすると能はざるなり且屢征伐を起したるを以て國用足らず財利の臣因りて其姦を濟す左丞相阿合馬は王著に殺され右丞相盧世榮は陳天祥に劾せられ桑哥は徹里に彈せられて前後皆死に就くも廣東地方猶盜賊の起るを免れざるなり帝在位三十五年にして崩す壽八十なり皇孫鉄木兒(テムギ)位を嗣ぐ是を成宗皇帝となす時



に皇紀伏見一九五五年なり  
 成宗は世祖の太子眞金 (Chingkin) の第三子なり眞金仁孝にして中外夙に望を屬せしも世祖に先だちて薨ず是に至りて白顔等に勸められて帝位に即く白顔深沈にして謀密あり嘗て二十万人に將として宋を伐つも一人に將たるが如し天下之を仰ぐ不急求亦賢名あり帝の時劉深の言を用ひて西南夷を討つ蠻酋宋隆濟等狙獾にして深却て圍まる幸ひにして劉國傑の來援に遇ひて免る然れども元軍其の勞を償ふ能はざるなり帝在位十三年にして崩じ太子海山 (Haissan) 立つ是を武宗皇帝となす

武宗は成宗の兄の子なり成宗嘗てこれを封じて懷寧王となして漠北を鎮す成宗崩じて皇后伯岳吾氏己れ嘗て海山の弟愛育黎拔力八達及び其母を出して懷州に居らしめたるを以て若し海山立たば必ず前怨を報するを恐れて安西王阿難答を立てむとす右丞相哈孫聰かす海山適人をして事を京師に計らしむ右丞相急に還り報せしめまた使をして愛育黎拔力八達を迎へしむ八達狐疑したれども其傅李孟曰はく今宮車晏駕して皇太子遠く万里に在り殿下當に急に宮庭に還りて以て

人心を安すべしと是に於て其の母を奉じて大都に還り安西王の黨類を驅け海山を迎へて立つ八達皇太子たり武宗在位四年にして崩じ皇太子立つこれを仁宗皇帝となす

仁宗在位の首め先づ太師脱虎脫司徒蕭珍等を誅す彼等は皆武宗の時朝政を亂せし者なり又武宗の時官者李邦寧等勢ありしも帝に至りて自今官者は文階を受くることなからしむ程暉飛董士選陳天祥郝天挺程文海等十五人を選用す特に李孟宰輔の器あるを以て最も重んぜらる帝聰明恭儉にして儒術に通達したれば始めて科擧を行ひて進士護都魯魯等五十六人を得たり元代の極盛は實に是時に在り然るに仁宗素と弟を以て兄武宗の後を承けたる者なれば義當に武宗の子和世疎を以て位を繼かしむべきに丞相鐵木迭兒蕭を微めむとして皇子碩德八剌を立てしめ且和世疎を讒して周王となす和世疎命を奉じて延安に至りしに臣僚相計りて之を奉じ關中の兵を發して京師に入らむとす事敗れて和世疎漠北に走る是れより鐵木迭兒太后に結托し勢を擅にして貪虐なること桑哥阿合馬の上に在り蕭拜住等屬々劾奏したれ共太后の故を以て聽かれざるなり帝在位九年にして崩じ



(皇紀後醍醐一九八〇年)皇太子位に即く是を英宗皇帝となす  
 鐵木迭兒專横太甚し蕭拜住を殺し李孟を貶し且蕭を願ひて武宗の第二子圖帖睦爾を瓊州に遷す諸王大臣皆惴々焉たり帝亦頗る之を服ひて乃ち拜住に任じて委するに心腹を以てす迭兒快々として出でず遂に家に卒す後其官を奪ふ拜住右丞相となり身を以て天下に任じ宿儒吳澄を薦めて翰林學士となす帝在位四年にして迭兒の黨鐵失等帝を弑して拜住に及び泰定皇帝を立つ  
 泰定皇帝は也孫鐵木兒 (Yesün Temür) といひ裕宗(世祖)太子真金の嫡孫にして晉王たり即位の後買奴の言を用ひて逆臣を誅滅す在位五年にして崩せり燕帖木兒等議して曰はく武宗の二子周王和世㻋懷王圖帖睦爾あり當に大統を承くべし然れども周王は漢世にありて猝かに至る能はずと江陵の懷王を迎へて燕都に入らむと懷王一たび國王の在るを以て辭せしむ事急なるを以て位に即く然も中外に告るに攝位の意を以てす是時泰定の左丞相倒剌沙上都に在りて皇太子阿速吉入を立てて帝となし天順と改元し燕都を改む利ならずして遂に降る懷王即ち周王を迎へ重を奉じて眞皇帝の位に即かしむ之を明宗皇帝となす然るに帝將に燕に入らむとするに際し懷王之を迎へたる時暴崩す世是を以て懷王を怪む懷王位に即く是を文宗皇帝となす燕帖木兒定策の功あるを以て大に寵遇を得たり帝在位五年にして崩じ明宗の次子懿璘質班立つ是を寧宗皇帝となす兩月にして崩す明宗の長子妥懽帖睦爾 (Toghon Temür) 立つ是を順皇帝となす伯顔を以て太師右丞相となし撒敦を太傅左丞相となす時の阿魯輝帖木兒奏して曰はく天下の事は盡く宰相に委すべし然らざれば聖斷或は當を失して惡名を負はむと帝之を然とす已にして撒敦卒したりしかば伯顔獨り權力を擅にす是時燕帖木兒も亦卒して子唐其勢其位爵を襲ふ其權の日に去りて伯顔益々強きを見て遂に之を殺さむとす事覺はれて皆伯顔に殺さる皇后は唐其勢の同胞なり故に亦弑せらる伯顔大丞相に上ぼりて獨り國鈞を秉る帝頗る不平なり伯顔の養子を脱々と云ふ其義父の專横を憂へ帝と計り世傑班阿魯と謀を合して伯顔を捕へ之を放つ途にして病死す帝また文宗の廟主を撤して太皇太后文宗の后を東安州に遷す太后は嘗て帝の父明宗の皇后を害したる者なり亦燕帖木兒文宗の子古剌答納にして燕帖木兒に養はれて姓名を改めたる者を高麗に放つ帝奢侈に耽りて善僧伽璘眞等を寵用し政

(三六一)



事大に亂る是に於て天下瓜分英雄諸方起る

### 第四章 明室の創業

至元六年冬靖州(湖南省内)の苗賊吳天保起りて兩廣地方之に應ずる者多し七年台州(浙江省内)の方國珍起る十一年黄河決す賈魯の議を用ひて河南河北の民十七万人を發し之を故道に復す五閱月にして成りたれども人民頗る苦み且連歲既に凶歉なりしかば天下益亂を思ふ故に河南地方に韓山童起りて白蓮會を組織し自ら宋徽宗八世の孫と稱す紅巾を以て號となす劉福通杜遵道等之を助く暫くして山童擒せられたれども其子韓林兒逃れ去りて遂に宗帝を稱す徐州(江蘇省内)には李二また同地方に起りて燒香を以て愚民を囑聚す之を芝麻李と稱す蕪水には徐壽輝起りて帝と稱して國を天完と號す濠州(安徽省内)には郭子興起り滁陽王と稱す高郵(江蘇省内)には張士誠賊王と稱し國を大周と號す此の如く前後叛反頻りなりしかば右丞相脱々命を奉じて先づ芝麻李を敗り高郵を征して連戰連勝の功ありしが平章政事哈麻素と脱々と隙ありて之を讒陷し代はるに太不花を以てす哈麻其弟雪々と大柄を執りしが久からずして誅せらる陳友諒は黃州に據り明玉珍は

成都に據る二人は徐壽輝の將なり既にして友諒徐輝を弑して自ら帝と稱し國を漢と號す明玉珍も亦隴蜀王と號せしが遂に帝を稱して夏と改む張士誠も亦吳王と稱す是れより先濠州(安徽省内)の人朱元璋と云ふ者あり字は國瑞にして父は世珍母は陳氏と稱す元順宗至正四年大饑饉ありて父母及兄皆疫死す元璋時に年十七乃ち身を皇覺寺に託し江淮に遊食すると三年遂に郭子興に従ひて兵を起す子興之を奇として養女の馬氏を以て之に妻はす時に年廿五なり徐達湯和等之に従ふ定遠を服するに及びて馮國用弟國勝と來歸し説きて曰はく金陵は龍蟠虎踞帝王の都なり若し能く鼎を定めば則ち天下平け難からずと元璋悦ぶ常遇春李善長亦來歸す既にして子興卒す元璋其軍を統べ采石を渡りて元兵を敗り太平(安徽省内)を取り遂に金陵を破り鎮江廣德皆下る尋きて婺州を定む青田の劉基浙人王禕等を薦る者あり元璋之を優待す

漢王陳友諒(武昌に都す)大兵を發して金陵を犯す元璋逆擊して大に之を破り再び之を鄱陽湖に戰ふ友諒敗死す子理其位を嗣ぐ至元廿四年元璋國を吳と號して王位に即き親ら漢を征して盡く之を滅し湖廣江西を平げ廿七年徐達常遇春をして



張士誠を平江に圍みしむ士誠經死す蘇抗の地方悉く平ぐ是に於て吳王元璋盡く江南を統一したれば大將軍徐達副將軍常遇春をして甲士二十五万を率ゐて北伐せしめ以て中原を定めむとし徽を齊魯河洛燕荆齊秦に飛す是れ元人胡種を以て中國に帝たるは冠履倒置の如きを慨するなり是時元朝に在りては外は屢々宋に攻められ内は右丞相梁思監及び皇太子愛猷識理達臘の一派朝政を亂じて禿堅帖木兒孛羅帖木兒老的沙の黨と隙ありて相攻むかゝる狀況なれば素より吳の兵を支ふべからず帝遂に后妃太子と與に夜半京城を逃れて應昌に駐まる在位三十六年にして元世祖至元十七年より是に至る迄十世八十八年にして亡ぶ時に皇紀後村上正平三十二年西紀一三二七年なり然れども元主尙應昌に在り其將據廓帖木兒數々西北に入寇す徐達之を伐ちて和林に走らし李文忠亦應昌を破る時に順帝既に崩じて太子位に在りしが北走すまた胡廷瑞に命じて廣東を略し楊璟をして廣西を取らしめ湯和をして方國珍を滅さしむ福州の陳友完之將夏の明身玉珍の子梁玉把匝刺瓦爾密等前後皆亡ぼさる



元順帝燕京を逃れたるの翌年吳王朱元璋帝位に即く國を明と號し洪武と改元し金陵に都じて南京應天府となす太祖高皇帝是れなり海内既に統一に歸せしかば専ら意を内治に用ひ天下の府州縣に命じて學校を建てしめ科擧の法を設けて三年毎に之を行はしめ孔子の後を封じて公となし釋奠を行ひ學者を優待し圖書を集聚し劉性謙宋濂等をして大明律を定め兵制を更め賦役法を制し六部(吏戶禮刑工兵)の官を設け元代の胡俗を禁じて盡く中國衣冠の舊に復せしむ文物蔚然として漢唐と比肩するに足る



帝また宋元孤立の弊に懲りて大に同姓を四方の要地に封ずること左の如し

爵名

都

秦王棟

西安

晋王楨

太原

燕王棟

北平

吳王楨(後周と改む)

開封

楚王楨

武昌

齊王楨

青州

潭王梓

長沙

魯王楨

兗州

蜀王楨

成都

湘王栢

荊州

漢王植(後肅王と改む)

甘州

衛王楨(後遼王と改む)

廣寧

慶王楨

寧夏

寧王權

大寧

岷王楨

岷州

谷王楨

宜府

韓王松

開原

濟王楨

路州

安王楨

平涼

唐王楨

南陽

鄧王棟

安陸

伊王楨

洛陽

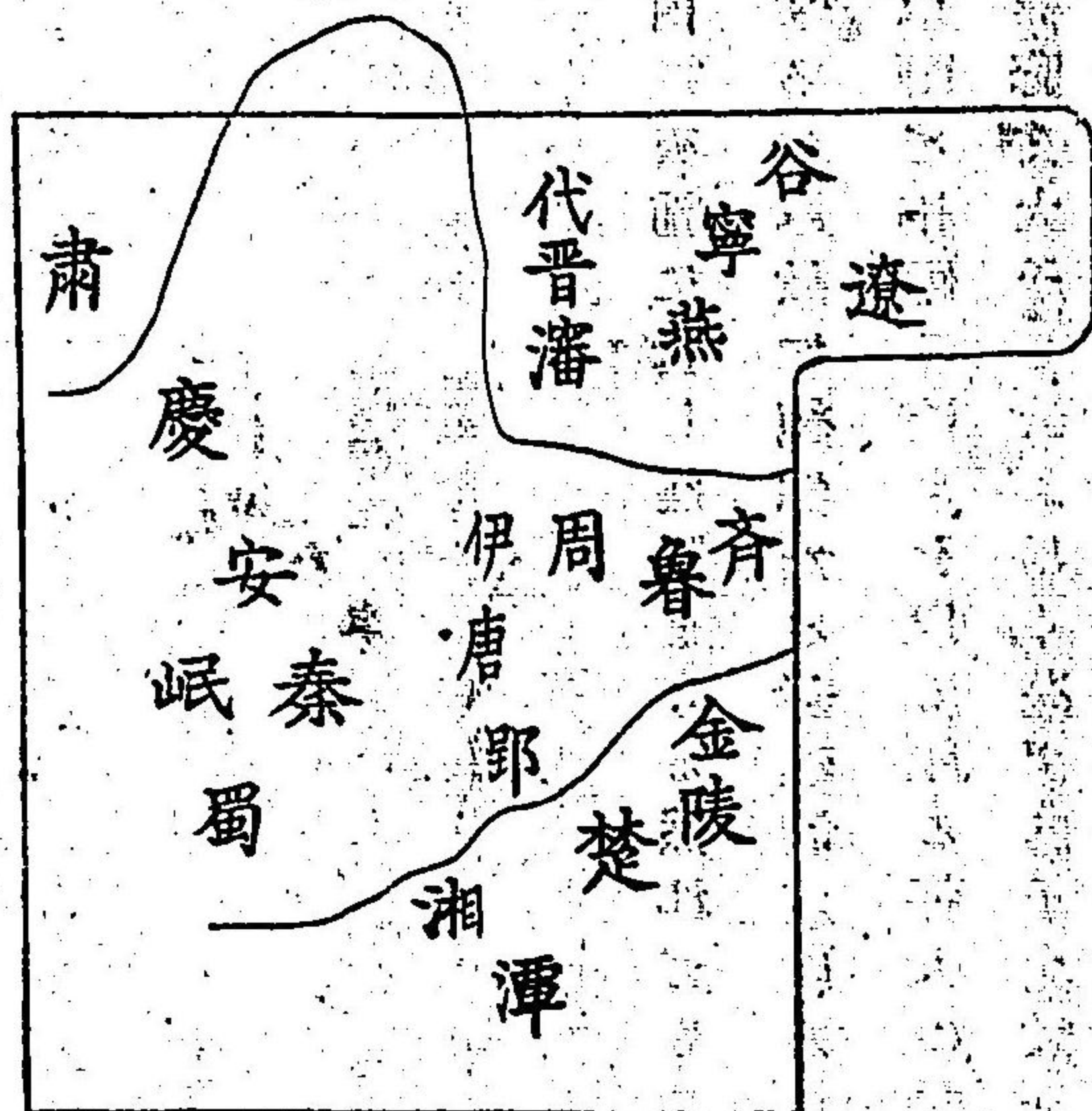
此の如くして内は夾輔に資し邊陲を守る然れども其名列土たれども秩祿を賜ひて護衛兵を給するのみ故に純然たる封建制度にあらざるなり唯燕晋二王の如き邊陲に在りて京師と相距る遠きを以て頗る強大の勢を成す  
帝の皇太子と標(懿文太子)と云ふ早く薨す其子允校を立て、皇太孫となす帝祖既

東洋史綱要

東洋史綱要



に六十餘にして而して允杖孱弱なり而して當時宿臣猛將仍ほ朝に列す一旦不諱の後或は少主の命を用ひざるを恐れ遂に兩たび大獄を興して諸功臣を殺す其一是洪武十三年胡惟庸逆を謀て誅せらる十年を経て李善長等誅せられ坐する者三万餘人其二是二十六年藍玉反を謀りて亦誅せらる傳友德等誅せらる坐する者一万五千人に及ぶ廖永忠汪廣洋等亦皆事を以て誅せらる雄猜にして殺を嗜むこと



之を要するに趙翼の説の如く太祖は猶漢高の如し其都を金陵に定めて宮闈壯麗を極めたるは蕭何の未央宮なり江南富人十四万户を中都に徙したるは夏徵舒が齊楚諸大族を關中に實したると同じ子弟の分封功臣の末路をた略同じ是れ胸中自一漢高の在るなり李善長曰漢高起布衣奮遠大度知人善任五年遂成帝業公孫述距沛不遠法漢高所爲天下不足定也と帝も亦孔克仁に語りて曰はく秦政暴虐漢高以寛大取群雄遂有天下今群雄蜂起不知修明法度此其所以無成也と帝在位三十一年にして崩す壽七十一なり皇太孫位に即く是を恭愍惠皇帝となし建文と改元す

第五章 成祖の建立及び仁宣の治績

建文帝の即位元年燕王棣反す初め太祖諸子分封の時棣居昇既に上書して曰はく分封太侈也先王之制大都不過三國之二十今秦晉燕齊梁楚吳蜀諸國無不連城數十異時尾大不掉然後削其地而奪之權必生缺憾願及諸王未之國之光節其都邑減其兵衛限疆里以待封諸王子孫劉二時之恩制万世之利莫先於是と然るに太祖却りて之を誅さり然れど亦眞理は滅すべからず帝の皇太孫なることより北邊の諸王頗る不





に六十餘にして而して允熈孱弱なり而して當時宿臣猛將仍ほ朝に列す一旦不諱の後或は少主の命を用ひざるを恐れ遂に兩たび大獄を興して諸功臣を殺す其一是洪武十三年胡惟庸逆を謀て誅せらる十年を経て李善長等誅せられ坐する者三万餘人其二是二十六年藍玉反を謀りて亦誅せらる傅友德等誅せらる坐する者一万五千人に及ぶ廖永忠汪廣洋等亦皆事を以て誅せらる雄猜にして殺を嗜むこと

太甚しと云ふべし

之を要するに趙翼の説の如く太祖は猶漢高の如し其都を金陵に定めて宮闕壯麗を極めたるは蕭何の未央宮なり江南宮人十四万户を中都に徙したるは葦徹が齊楚諸大族を關中に實したると同じ子弟の分封功臣の末路また略同じ是れ胸中自ら一漢高の在るなり李善長曰漢高起布衣輸運大度知人善任五年遂成帝業公孫産距沛不遠法漢高所爲天下不足定也と帝も亦孔克仁に語りて曰はく秦政暴虐漢高以寛大馭群雄遂有天下今群雄蜂起不知修明法度此其所以無成也と帝在位三十一年にして崩す壽七十一なり皇太孫位に即く是を恭閔惠皇帝となし建文と改元す

第五章 成祖の築立及び仁宣の治績

建文帝の即位元年燕王棣反す初め太祖諸子分封の時葉居昇既に上書して曰はく分封太侈也先王之制大都不過三國之一今秦晉燕齊梁楚吳蜀諸國無不連城數十異時尾大不掉然後削其地而奪之權必生缺望願及諸王未之國之先節其都邑減其兵衛限疆里以待封諸王子孫割一時之恩制万世之利莫先於是と然るに太祖却りて之を誅せり然れども眞理は滅すべからず帝の皇太孫たるときより北邊の諸王頗る不



法を行ふ帝之を黄子澄に問ふ澄對ふるに漢七國を削平する事を以て齊秦また之を賛す既にして議頗る泄れ燕王は竊かに士馬を聚む是に於て先づ其手足を剪らむとして周王棟を廢して庶人となし之を雲南に遷し湘王栢齊王揖代王桂を廢す燕王即ち兵を擧げ名を齊貴を誅して成王周公を輔くる故事に假り張玉米能等を先鋒となし僧道衍姚廣孝を參謀となして南侵す之を靖難の師と云ふ耿炳文之と漳沔河に戦ひて敗績す李景隆之に代はる燕王また寧王權を誘執して其軍を并せ景隆を白溝河に敗る其後互に勝敗ありしが遂に三年冬大舉して南侵し京師に迫る常服を變じて宮を逃る英宗正統二年再び宮に入ると云ふ

燕王棟自立して帝となる成祖文皇帝是れなり時に我後小松應永九年西曆四〇二年なり羽先づ方孝孺太祖の遺命によりて建文帝の登用に遭遇し遂に成祖の命を峻拒せし者鐵鉞成祖を濟南汝城に敗りし者景清成祖を暗殺せむとしたる者齊秦黄子澄暴昭陳勉練子寧等皆族誅せられて慘酷を極む翌年永樂と改元し右北平を改めて順天となし北京を置き後都を茲に遷す  
帝の長子を高熾と云ふ二子を高照(高熾)と云ふ高熾立て皇太子となり高照を漢王

となし雲南に都す高熾を趙王となすに及び煦其征伐の功を自負して且帝の己れを喜ぶを知りて密かに嫡を奪ふの志あり後反を謀りて樂安(山東省内)に徙さる又官々黄嚴等謀りて帝を毒殺し趙王高熾(帝の子)を立てむとせしが事覺はれて嚴等誅せられ熾は太子の救解によりて免るゝことを得たり寧王權を南昌に遷し谷王棟を廢して庶人となす皇室は此の如く紛亂絶へざりしも帝は雄材大略にして頗る太祖の風あり故に能く紀綱を正して亦兵を外國に發し安南を征して(安南の事後章に詳かなり)蒙古を討つ

太祖の時屢蒙古を征したりしが此時阿魯台と云ふ者元族本雅失里を立てゝ可汗となし明使郭驥を殺す永樂八年帝親ら五十万を率めて之を征伐し斡難河に至りて還る是時瓦剌亦強くして阿魯台を侵す阿魯台究慮して降を請ふ之を許して和寧王となし帝親ら瓦剌を征して土拉(白河)に至る阿魯台再び反し且其主を弑して自立し數々邊を侵す帝之を征すること二回深く其本據を突く敵軍皆敗北す歸途病を得て遂に崩す在位三十二年にして壽六十五なり皇子太位を嗣ぐ是を仁宗照皇帝となす



仁宗首として夏原吉黃涯の謀を釋す二人は先帝の元老にして其北征を諫めたる者なり楊士奇楊榮金幼孜蹇義等政を輔く帝在位一年(改元洪監)にして崩じ太子瞻基立つ是を宣宗章皇帝となす漢王煦反して遂に誅せらる當時三楊士奇榮溥政を輔け薛儒薛亦出仕す在位十年(改元宣德)にして崩す太子祁鎮位に即く是を英宗睿宗皇帝となす仁宣二帝皆仁恕清慎にして官其職を得て民其業を樂む明室の極盛實に是時に在り

### 第六章 明代中世の治亂

英宗即位の歲甫めて九歳にして張太后遺命を以て張輔三楊胡濙を召し托するに大政を以てし六七年間天下晏然たりしが官者王振權を用ふるに及び明室始めて衰ふ太祖初め官宦の禍に鑑みて書を讀み字を識ることを許さず止だ洒掃に供せしめたりしに建文帝に及び之を待すること嚴酷なりしかば燕王棣に通じて告ぐるに京城の空虚なるを以てし内應をなせり是を以て永樂年中官者侯顯は西域に使して佛法を求め馬彬は瓜哇(Java)蘇門答刺(Sumatra)に李興は暹羅(Siam)に尹慶は滿加刺(Malacca)に使す又建文帝の踪跡を探らしめむが爲めに鄭和王景

弘等をして兵二万七千人を率ゐる海に入り福建占城地方を歴遊して南洋諸島に至る又東廠を置きて内官を其職に充て諸事を檢察告訴せしむ是れ實に官々用權の權輿なり王振は狡智多才なり仁宗に東宮へ事へ宣宗の時淺々事を用ひ英宗儲位の日朝夕左右に侍して大に寵あり登極の際司禮監となる麓川地方に蠻人思任發等反したりしかば王振に勸められ官者を軍監となして之を討たしむ張太后嘗て之を誅せむとしたれども帝の請によりて漸く免ず既にして太后崩じ三楊等老い振また寵を得て勢を振ひ生殺予奪盡く其手に在り滿朝皆翁父を以て之を稱し跪禮を行ふ帝亦老先生と稱す侍講劉球之を直言す振之を獄に論殺す薛瑄李時勉于謙等皆貶黜せらる

此時福建地方に邵茂七閩王と稱して數萬の烏合を聚め騷然たりしに瓦剌の酋長脫籠既に阿魯臺に勝ち更に元の後脱々不花を立てし可汗となして實權を握り其心先之を繼ぎて益猖獗なり大舉して大同に入寇す明將吳浩戰死して邊報沓至す王振帝に勸めて五十萬人を率ゐて親征せしむ土木に至りて大に潰ゆ也先帝を擒にして死傷する者數十萬人王振及び張輔陳瀛鄭壘等皆死す時に正統十四年我後



花國寶徳元年西曆一四四九年なり京師大に震ふ或は都を遷さむとす于謙堅く執りて可かず皇長子見深時に二歳を立て、太子となし英宗の弟廓王祁鈺を以て監國となし大に勤王の師を徵す于謙兵部尙書となりて力を守備に盡し石亨揭洪等を薦用す尋ぎて廓王位に即く是を恭仁康定景皇帝となし景泰と改元す也先上皇(英宗)を質とし北邊及び京師に入寇したれども利少きを以て遂に私を議す即ち事を許し王直命を奉じて上皇を迎へ京師に還へる

景泰帝初め國難に迫られて帝となりしも今や其兄英宗の歸國は其意にあらず故に皇太子見深を廢して沂王となし自己の子見濟を以て之に代ふ然れども見濟薨じたれば章綸等上書して再び沂王を儲貳となさむことを請ふ帝怒りて之を獄に下す在位八年にして疾に寢す石亨其起たざるを知り徐有貞官者曹吉祥等と上皇を迎へて位に復せしめ帝を廢し(未だ幾ならずして薨す)于謙王文等を殺す蓋し名を上皇を拒み外藩を擁立せむとする罪に假る久しからずして石亨曹吉祥等不軌を謀りて誅せらる吏部尙書李賢力を匡救に盡し政事之を正統に比するに雲泥の如し復位八年(改元天順)にして崩す四事を遺命す中に嬖御の殞葬を止むる條あり

李賢等其盛徳を嘆賞す皇太子見深位に即く是を憲宗純皇帝となす

土木役後朱鑑等官々の監軍及び鎮守中官を罷めむと請ひたれども報せず英宗復位の時李賢錦衣官の校刺を禁ずることを請ひたれども亦許さざりしかば宦官の勢依然として舊の如し憲宗立つに及び更に西廠を置き汪直をして之を領せしめ尙銘を以て東廠の長となし數々大獄を起す又懷恩に命じて汪司と同むく囚を録せしむ後汪直等貶黜せらる帝また佛符水等を信じ李孜省僧繼曉等威福を張る之に加ふるに後宮に大萬貴妃寵を得て兄弟皆官す學士萬安認めて同宗となし結托し機務を預る外境には遼東地方に外寇の跳梁するあり帝在位二十三年(改元成化)にして皇太子祐 位に即く是を孝宗敬皇帝となす

首として先朝の妖佞を放斥し弊法を革め言路を開く唯萬安の徒大學士劉吉及び大監李廣甯を得て一時聖徳の累となす丘濬劉大夏王恕李夢陽等或は直言或は諷略或は寛簡を以て名あり帝また外征を起す

哈密(Hami)は元の遺族の所領にして明朝の冊封を受くる者なり土魯番(Turfan)の酋長之と隙あり襲ひて之を破る明張海等をして之を經理せしめたれども克た



ず更に馬文升の議を用ひて彭清等をして之を平げしむ帝在位十八年(改元弘治)にして崩す太子原照位に即く是を武宗毅皇帝となす

劉健謝遷李東陽遺命を奉じて政を輔く然るに帝の東宮に在りし時より官者の寵を得たる者八人あり劉瑾馬永成高鳳羅祥魏彬丘衆谷大用張永にして是を入虎と云ふ是に至りて皆事を用ふ殊に瑾尤も賚給にして頗る古今に通じ玉振の人たるを慕ふ健等上書切諫したれども報せず戸部尙書韓文官者王岳范亨と計りて密に典刑を正さむとす吏部尙書焦芳之を泄して事成らず諸々之に逆ふ者皆貶黜せられ遂に健遷文楊守隨李夢陽王守仁五十三人を以て奸黨となして朝堂に榜示す是に於て四方の草寇四川の劉烈陝西の藍廷瑞朔州の劉六等蜂起し安化王賓鑑も亦反す楊一清嘗て瑾の憾を受けて獄に下り王鏊に救解せられたる者を起して大將となし張永を以て監軍となす一清永を激するに忠義を以てす賓鑑を討平し功を奏するに及び永奏するに安化の亂は瑾が所爲に出るを以てす帝遂に瑾等を誅す然れども魏彬馬永成等の勢力は依然たり宣府の人江彬嘗て軍功あり機警にして微指を得帝之を寵し遼東宣府大同延綏四鎮の兵を調して外四家軍と號し操練を

中に試みしむ帝親ら之れに臨む雕弓豹纜騎白馬大明門前馬不下徑入内伐鼓大同耶宣府耶將軍者許耶武臣不習威奈彼四夷西内樹旗皇介夜馳鳴砲烈火嗟々辛苦李夢陽内教惕歌とは是の謂ひなり是に於て帝兵威を耀さむとし自ら威武大將軍と稱して北邊を巡遊す夢陽の詩に曰千官北首望龍旂万国軍書集鳳閣八駿穆王秋色遠幾時親擁白狼蹄と正徳十四年又將に淮揚地方を巡遊せむとす先是寧王宸濠寧王權の後南昌に國し文行を以て自ら飾れども貪殘なり異謀を蓄ふること久し帝大監朝義をして之れを檢せしむ宸濠遂に反し檄を遠近に傳へて南康九江を敗りて直に南京を突かむとして遂に安慶城に阻せらる會王守仁間廣地方の草賊を平定して福建に在り變を聞きて吉安の智府伍文定と謀り直ちに南昌を襲ふ宸濠狼狽して遂に生擒せらる帝また親征して南京に至る守仁俘を獻す江彬及び官者張忠等守仁の功を嫉みて再び宸濠を縱ち帝の親戰を待たむとす張永之を止めて事なきを得たり帝在位十六年(改元正徳)にして崩す憲宗の第四子興獻王祐枕の長子厚熹(武宗の從弟)位に即く是を世宗肅皇帝となす

帝楊廷和張永等の議を用ひて江彬等を退けられども官者の禍は明朝の遺傳病な



れば大監崔文齊醜を以て帝の寵を得方士陶仲文は累進して禮部尙書少保少傅少師に至る方士段朝用の言を信じて深宮に居りて外人と接せず工作煩興す其他方技の士に官を興へたること憲宗の朝に除ゆ禮部尙書嚴嵩及び其子世蕃寵任せられて事を用ひ賄賂公行し邪佞日に親む是時に當りて外寇亦起る土木の役後也先其主脱々不花を弑して自立したれども内亂ありて亦殺され孛來と云ふ者脱々不花の子麻兒を立て、小王子と稱し數邊を侵して勢頗る猖獗なり帝張瓌を以て大同を守らしめ尋ぎて劉天和を三邊總制となす既に小王子兵を厭ひて入寇せずと雖も其族俺答雄賤にして數邊塞に出入し侵掠太甚し曾銑之を禦ぎて功ありしも嚴嵩と隙ありて却て大學士夏言と與に斬らる後俺答入寇し京師に薄る諸路勤王の兵亦至る然るに嵩大同總兵仇鸞をして之を統べしめ戰を禁じて曰はく塞上の敗は掩ふべきも鞏下の敗は掩ふ可らず寇飽かば自ら去らむと俺答焚掠三日大に金帛子女を掠めて去るまた馬市の事によりて入寇すること再三なり北邊此の如くなるに兩廣及び江西湖廣地方には群賊再び蜂起し南方一帶の海岸は倭寇の侵掠を蒙る群賊は王守仁之を平ぐ倭寇は後章に詳なり既にして仇鸞貶せられたれ

ども嚴嵩の勢力は依然たり沈鍊楊繼盛之を劾奏して皆誅せらる後帝もまた嵩を疑ひ大學士徐階に委任して其權を去る御史鄒應龍上疏して嚴氏を極論す帝遂に嵩を黜けて世蕃を誅す帝在位四十五年(改元嘉靖)にして其半は嚴氏の政に係る第三子裕王載堉立つ是を穆宗莊皇帝となす大學士徐階世宗の遺詔を草して直言の諸臣を召用追卹し佞臣を却け方士を寵む陳以勤張居正高拱高儀等政を輔く俺答亦和を結び封じて順義王となす天下亦安し帝在位六年(改元隆慶)にして崩す皇太子詔鈞立つ是を神宗顯皇帝となす

帝の初年張居正大政を攬りて首輔に登り帝に勸めて祖宗の法度を力行せしむ剛愎自ら用ひ或は私怨を以て法に人を中したれども海内肅然として治績炳如たり居正薨するに及びて天下漸く亂る蓋し明の仁宣以後此に至るまで百三十餘年外寇には北に於て瓦剌、小王子、俺答の入侵あり南には和寇の跳梁あり内亂には英宗の重祚、賓鐸、宸濠の反あり而して官者の禍は王振之を始めて劉瑾等之に次ぎ加ふるに嚴氏の惡政を以てす流賊亦江南一帶に起て天下騷然たり然れども孝宗一たび之を新にして穆宗再びこれを安ず且太祖以來頗る力を吏治に用る奸吏を嚴罰



して前代姑息の政を革め賢良なる太守の久任を許し時に廷臣大臣を派して以て其治績の能否を驗す明史循吏傳序曰洪武以來吏治澄滯者百餘年當英宗武宗之際内外多故而民心無上崩之虞由吏鮮貪殘故也嘉隆以後嘉靖隆慶吏部考察之法徒爲具文而人皆不自顧惜撫按之權太重舉劾惟賄是視而人皆貪墨以奉上司於是吏治日媮民生日蹙而國亦遂以亡矣と亦以て國運の衰漸を知るべし神宗の中年我日本と兵を交ひ晩年愛親覺羅氏既に北方より邊境を侵入し之に次ぐに三案の紛争東林の黨議魏忠賢の專横流賊の蜂起を以てす故に神宗を以て明代末運の初となす

第七章 王氏の朝鮮

我國と神宗と兵を交ふるは朝鮮に由りたる者なれば吾人は今筆を回らして當時より六百餘年前に遡りて斯國の歴史を尋ねむとす  
我朱雀承平五年(後唐滅亡の年西曆九三五年)高麗の太祖神聖王建其騎將洪儒裴玄慶等に翼戴せられ後百濟の甄萱を滅し新羅を降して朝鮮を統一す王乃ち政誠二卷書八篇を作りて以て臣子の節義を勵まし政事の警誠を垂れ官制を定め吏治を嚴にす武力あり在位二十六年壽六十七にして殂せしより(子孫相繼ぐと)三十四王

(丙二王は辛氏なり)四百五十六年間紛々たる内治の大要左の如し

太祖神聖王建——惠宗義恭王武大匡王規王を殺せむとす——定宗文明王堯——光宗大成王昭——景宗献和王仙——成宗文懿王治(百度を更新し地方行政區畫を改め文物蔚然たり)——穆宗宣讓王(金致陽大后と姦亂す康兆入りて亂を正し遂に王を廢す契丹之れを伐つ)——顯宗元文王詢——德宗敬康王欽——靖宗容惠王亨——文宗仁孝王徽(宋の仁宗と同時にして崔齊顔崔冲等王を輔けて心を政治に用ひ天下頗る治る)——順宗宣惠王勳——宣宗思孝王運——獻宗恭殤王昱——肅宗明孝王(女眞と兵を交ふ)——睿宗文孝王(女眞と戦ひしも後意を内治に盡す)——仁宗恭孝王(外戚李資謙權を擅にし王室を危くす金彛等之を除かむとして事成らず資謙其黨拓俊京と與に反對黨を却けて王を幽す既にして俊京志を變じて資謙を拘囚す其黨を平ぐ俊京も功を待みて罪に處せらる久しからずして西京の僧妙清陰陽禍福の説を以て王の心を盡して遂に反旗を擧ぐ金富軾之を平ぐ)——毅宗莊孝王(親初め鄭襲明遺命を受けて王を輔く讒者之を陥る其後王酒色に耽りて土木を興す大將軍鄭仲夫李義方等と謀り之を廢して明宗を立つ)——明宗光孝王



船(金世宗兵を發し仲夫を詰る金甫當兵を起して仲夫を討ちたれども敗死し李義  
 敗仲夫の命を奉じて毅宗を弑す仲夫の兵を擧げたるは康寅に在り甫當の敗死は  
 癸己に在るを以て是を癸己の亂と云ふ將軍廢文升遂に鄭仲夫を誅す既にして將  
 軍忠崔猷亦勢を得て明王を幽して暉を立つ——神宗靖孝王政(崔忠猷實權を握る  
 ——熙宗成孝王諱忠猷之を廢して暉を立つ)——康宗元孝王諱(忠猷の勢力依然た  
 り)——高宗安孝王諱忠猷死して其子瑋(後怡と改名す)政を執る蒙古來寇都を江華  
 に遷す瑋の子沅及び其子嬪相繼ぎて權を執りしが遂に金仁俊等に誅せらる崔氏  
 權を擅にすること大凡四十年なり)——元宗順孝王禎(金仁俊暴虐なり林衍之を誅  
 し王を廢したりしも世子璉之を元に訴ふ林衍恐れて王位を復す衍死して都を舊  
 京に復す三刑抄反したれども金方慶元軍と力を合して之を平ぐ是より以後元は  
 内治に干渉す)——忠烈王珹——忠宣王源——忠肅王燾——忠惠王禎——忠穆王  
 昉——忠定王昉以上數王の間紛亂屢起る元常に干渉す)——恭愍王顓漸く元室の  
 羈絆を脱す僧偏照に委するに國政を以てす姓名を改めて辛旽と云ふ驕傲なり遂  
 に王を弑せむとして誅せらる王も亦弑せらる)——禡(實は辛旽の子辛尼奴にして

先王嘗つて己の子となし李仁任に屬す即ち位に即きて禡と改む者侈に耽りて仁  
 任亦威福を擅にす崔瑩李成桂等之を誅す禡また瑩の説を納れて明を攻む成桂之  
 を諫むれども可かず即ち瑩を流し禡を放つ昌禡の子にして成桂に廢せらる後禡  
 昌皆誅せらる辛氏國を領すること十四年)——恭讓王瑤(王氏なり李成桂遂に王と  
 なりて高麗亡ぶ)  
 是に由りて之を觀れば高麗君主の實權を有して國家を統一したるは太祖成宗文  
 宗等に過ぎずしかも外國と對等の位置を有する者に至りては幾んど稀なり太祖  
 既に使を派して後唐莊宗に朝し其冊封を受け其年號を用ふ相つぎて晉漢周に臣  
 事し第三世光宗に至り既に五代亡びて趙宗起りしかば宋の太祖の冊封を受けて  
 正朔を奉ず既にして契丹北方に起り渤海を亡して勢頗る盛なり第六世成宗の時  
 契丹主聖宗の將蕭恒德來寇して蓬山郡(平安道内)に入り西京(平安道平壤府)以北を  
 脅取せむとす徐熙王命を奉じて功を樽俎の間に奏し事なきを得たり是役や援を  
 宋に請ひしも宋從はざりしかば即ち宋と絶ちて契丹に臣事す康兆の亂に及びて  
 聖宗其罪を問ひ康兆を誅して京城を陥る王南走して之を避く兩兵互に勝敗あり



是時再び宋に通せしも契丹に敵すべからざるを知りて再び臣禮を執る其後遼宋兩國の間に往來せしが第十五世肅宗の時始めて女眞と兵を交ふ(女眞は成宗以來高麗に臣屬せし者なり)第十六世睿宗再び兵を交へて勝敗あり女眞の阿骨打帝となり金と號するの後和を結ぶ宋の徽宗また之と好を通ず後宋金と約して遼を伐たむとするに當り王深く其不可を諫むと云ふ金宋の二帝を執ふるの後遂に専ら金に事ふ鄭仲夫第十八世毅宗を廢して第十九世明宗を立つるに及び金の世宗使を發して其罪を詰る第廿一世熙宗の時成吉思汗帝位に即きて四方を征服す第廿三世高宗の朝契丹の遺族國內を侵擾して之を防ぐこと能はず乃ち蒙古の力を假りて之を平ぐ爾後金に事ふるの禮を停めて蒙古に事ふ後遼言ありて蒙古兵來攻すること數回に至る當時崔氏政を擅にして人心離畔せしかば之を防ぐべからず崔氏亡び金仁俊誅せられて林衍亦權を握りて高宗を廢し王の弟珣を立つるに當り世子植(初名禎)元(元)に在り之を訴へて其力を假りて王位に即く元宗是れなり王の時裴仲孫等三別抄を率ゐて叛し珍島に據りしも元兵の援助によりて之を平ぐ是歲忽必烈亦帝位に即く是れより元の世を終るまで臣屬し多く元室と婚して元都に

止り王位の廢立も亦左右せられ高麗の臣下之れに乗じて王室を離間し(忠烈忠宣の吳祁に於ける如き)或は元室と結托して廢立を行ふ忠肅王の權漢功忠惠王の曹頤に於ける如き)に至る元宗嘗て忽必烈の命を奉じて我國と元との好を通ずむとして成らず金方慶をして元將忽致に伴はしめ壹岐を侵掠す元更に征東行省を置き王をして之を監せしめ又長公主を王の世子誕に妻はす第二十五世忠烈王誕に至りて我國弘安の後起る事第二章に詳かなり王の時國中に令して頭を剃りて元の衣服を着せしめ王亦屢々元に行きて歡心を結ぶ元亦達魯花赤(地方長官の類)を西京に置き名を改めて東寧府となし之を有せしかば慈悲嶺(嶺)以北は全く元領に歸せり世子璵元(元)の許可を得て位を嗣ぐ之を第二十六世忠宣王となす王舊章を變改すること多きを以て元成宗更に之を廢して京師に朝せしめて再び忠烈王を立てつ既にして元の成宗出づるに當り忠宣王愛育黎拔力八達と與に武宗を立てしかば功を以て瀋陽王に封せらる暫くして忠烈王殂せしかば再び王位に登る然れども直に位を忠肅王(第廿六世)に禪りて自ら元都に止りしが讒陷せられて朶思麻(西藏内)に配流せらる四年にして赦されて遂に元都に殂す(泰定帝の時)忠肅王また



元と婚し世子禎をして宿衛せしむ元之を冊して王となす第廿六世忠惠王是れなり久しからずして亦廢せられて忠肅復位す忠肅殂して元再び忠惠を立つ(此關係は猶忠烈忠宣の如し)王荒淫にして群少を親みしかば元之を執へて揭陽縣廣東省内に流す第二十七世忠穆第廿八世忠定第廿九世恭愍の三王皆亦元に立てらる是時元の勢力既に衰へ張士誠反す元兵を徵す王三千人を派遣せしも遂に意を決して元と好を絶ち印鑑等をして鴨綠江を渡りて北侵せしむ然れども其遂げざるを以て印鑑を斬りて之を謝す支那の紅頭軍來襲して京師を陥る安祐鄭世雲之を復し金塘其功を思みて二人を殺し又元の丞相搆思監等と結びて王を廢して塔思帖木兒(忠宣王庶子)を立てて王となす崔瑩之を平ぐ元主順帝も亦罪なきを知りて再び冊して王となす然るに其十七年元帝北走して明太祖帝位に即く王乃ち元に事ふるの禮を以て明に致す辛氏の時一たび北元と通じて太祖の怒りに觸れしも使臣鄭夢周の奏對宜きを得たるを以て再び和を結ぶ然るに辛禔崔瑩と計りて明に告ぐるに鐵嶺以北は素と高麗の地なれば再び之を領すべきことを以てし遂に兵を發して之を争ひ李成桂を右軍將曹敏修を左軍將となし三万八千餘人を率ゐて

鴨綠江を渡る李成桂諸將に説くに利害を以てし師を班して王を廢す是に於て曹敏修は辛昌を立て李成桂は王氏の璫を立て、恭讓王となす國內紛擾すること年餘昌及び敏修遂に敗死す而して恭讓王又不慧にして政事を視ず成桂を以て中外の軍務を總べしむ朝臣裴克廉鄭道傳趙俊等遂に王を廢して之を原州に放ち成桂を奉じて王となす鄭夢周節に死す高麗朝是に於て全く亡ぶ之を要するに高麗の外交政略は皆事大主義にして第一期は第一世太祖より第五世景宗まで五代及び宋に臣事す其間四十七年(太祖十八年より起算す)第二期は第六世成宗より第十五世睿宗まで宋遼兩國に臣事す其間百二十四年第三期は第十六世睿宗より第廿二世睿宗に至るまで金に臣事す其間百〇八年第四期は第廿三世高宗より第三十世忠定王まで元に臣事す其間百廿八年(支那歷代中朝鮮を壓制したるは元を以て第一となす)第五期は第三十一世恭愍王より第卅四世恭讓王まで元明に臣事す其間四十一年なり多少の出入ありと雖も大凡此の如し讀者其内治を經とし外交を緯として朝鮮の歴史を觀察せば其感情果して如何ぞや

第八章 李氏の朝鮮及び日支韓の交渉



其一 我國豊臣氏征伐以前に於ける朝鮮の内政

太祖康獻王李成桂(全州の人なり王たる時年五十七なり)都を漢陽に定む國を分ちて八道(現今の區別)となし官制は議政府に領議政、左右議政等を置きて万機を總攬し百官を統轄す吏戶禮兵刑工の六曹を設け判書(長官)參判(次官)を置きて庶務を分掌せしめ且八道に觀察使を設く趙俊等をして明律を斟酌して之を施かしめ社會上には東文西武兩班の制を定めて以て貴族の位置を確固にし佛教を斥けて宋儒を進む在位七年なり後十年にして殂す時に年七十四なりし定宗恭靖王暭——太宗恭定王芳遠——成宗莊憲王遠(諺文を製す申高麗)叔舟成三問等與りて力あり又鄭麟趾をして高麗史を撰せしむ蓋し朝鮮歷代中の明主なり——文宗恭順王——端宗恭懿王——世祖惠莊王瑑——睿宗襄悼王晬——成宗康靖王煚(意を内治に用ふ徐居正等をして東國通鑑を撰せしむ)——燕山君熾(淫虐にして廢せらる)——中宗恭徽王皓(紀綱再び張る)——仁宗榮靖王皓——明宗恭顯王暲——宣祖昭敬王昞(時に豊臣氏朝鮮を征す)

其二 倭寇と支那及び朝鮮

弘安役後我國と韓支兩國との交際は暫らく杜絶せしが後村上天皇(二千年頃より後奈良天皇)二千二百年代迄の時我西陲の國民私に高麗を侵犯す韓人之を倭寇と云ふ即ち高麗王に在りては第廿九世忠定王(元順帝の頃)の時余羅廢尙道沿岸を侵し漸次他道に普及し過る所奪略せられざるはなし延きて支那海岸に及ぶ高麗朝既に衰亡の際なれば固より之を防禦するの勢力なく或は都を鉄原に遷さむとし或は使を發して之を禁せむことを請ふ(恭懿王の時金逸來る辛禱の時羅興儒鄭夢周來る)然れども當時我國南北方争朝令阻礙の際なれば如何ともする能はざるなり(義滿の時なり)其後李成桂嘗て一たび之を破りしより敵勢少しく衰へたりし尙慶尙余羅は其巢窟たり是を以て鄭地上書して壹岐對馬を占領して其本據を滅せむことを請ひ辛昌の時兵船一百を發して對馬に入寇せり高麗衰亡の原因は倭寇與りて力あり成桂が王位を得しむ之を破りたる威名多少の助を與へしならむ元及び高麗既に亡びて明太祖中國に君臨し先づ李成桂を冊して朝鮮王となす時に洪武二十五年(我後龜山天皇弘和九年)洋紀一三九二年なり是れより朝鮮は世々明に事ふるに臣禮を以てし東藩と稱す是より先明祖の帝位に即くや書を四方に